

日本教育心理学会 第59回総会 プログラム

Program of the 59th Annual Meeting of
the Japanese Association of Educational Psychology

2017年10月7日(土)～9日(月・祝)

名古屋国際会議場

総会準備委員長挨拶

第59回総会は、名古屋大学が担当校となり開催いたします。

総会のテーマは、「実践を豊かにする確かな理論」です。このテーマとしたのは、私たち準備委員会委員の、教育心理学に対する次のような考えがあるからです。教育心理学は、実践的性格を持っています。私たちは、実践に資する教育心理学研究を目指す必要があると考えます。しかし、本来、実践と理論、実践と研究は対立するものではありません。教育心理学を研究するものとして私たちは、実践に役立つ教育心理学であるために、確かな理論と堅実なデータが必須だと考えています。私たちは、教育心理学の一層の活性化のために、実践と理論の緊張感のある対話を積極的に図ることが効果的だと考えているのです。第59回総会において、研究発表やシンポジウム、自由な討論の中で、実践と理論の緊張感のある対話があちこちで繰り広げられることを期待しています。

今回の総会では、準備委員会企画として、基調講演と小講演と4つのシンポジウムを行います。基調講演は、ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジのHefer Benbenutty先生をお招きして、「学業での成功、自己効力感と家庭学習—なぜ自己調整学習と学業的満足遅延が必要なのか?—」というタイトルで、また小講演はBritt-Marie Drottz-Sjøberg先生による「チェルノブイリ事故からの心理学的教訓」を行います。準備委員会企画シンポジウムとしては、「心理危機研究をどのように現場実践に生かすか—研究の場と臨床現場の往還—」「学習動機づけ研究の未来—教育心理学研究における動向とこれから—」「福島第一原子力発電所事故がもたらした心理的被害について」「思春期における発達と問題行動」の4つを予定しています。一つひとつのタイトルの間に明確な関連性はありませんが、いずれも実践的で現代的な問題を取り上げ、理論と研究、そして実践の緊張感のある対話を試みようと考えています。

会場は、名古屋国際会議場です。名古屋駅から電車や地下鉄で20分程度、中部国際空港からでも1時間以内の場所にあります。学会開催のための設備も整っております。準備委員会一同、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

第59回総会準備委員会（名古屋大学）

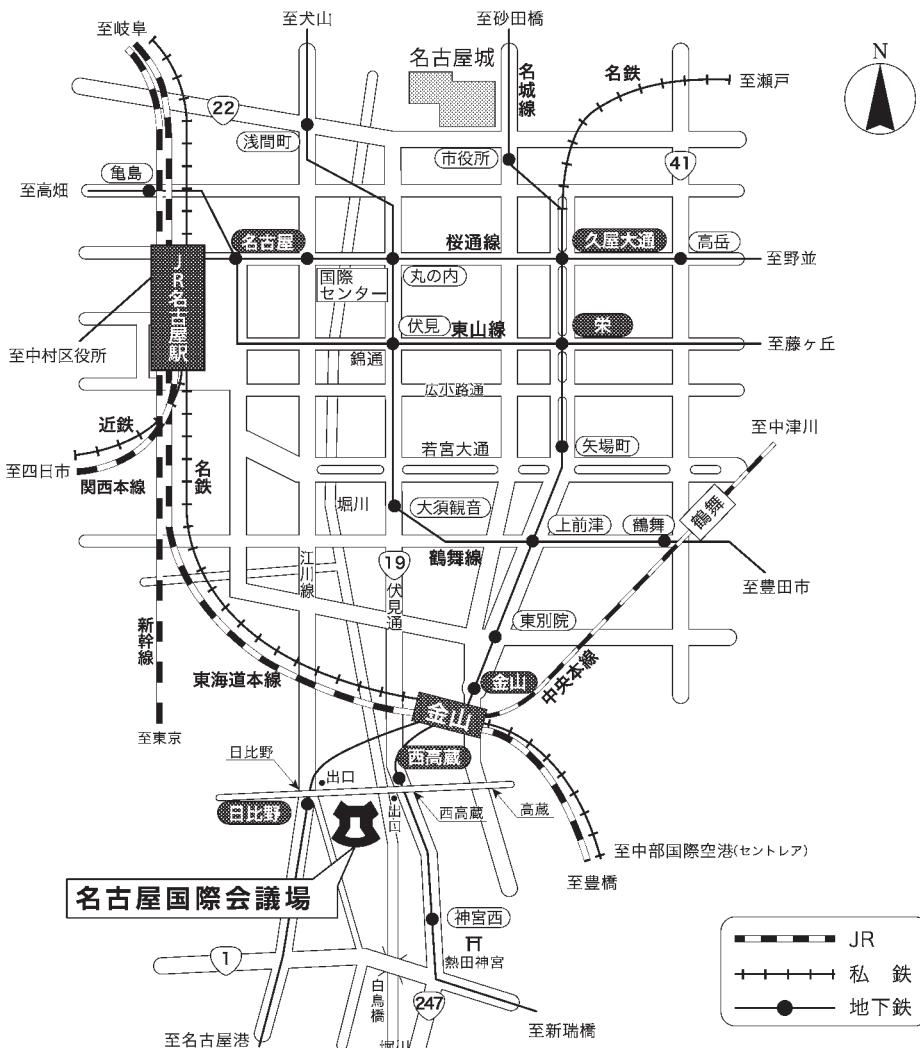
委員長 氏家 達夫

目 次

会場のご案内・周辺図	7
会場へのアクセス	8
会場フロア案内	9
会場フロアマップ	10
参加者へのご案内	15
研究発表のご案内	18
総会日程	20
授賞式・会務報告会	23
準備委員会企画基調講演	24
準備委員会企画小講演	26
準備委員会企画シンポジウム	30
研究委員会企画シンポジウム	34
研究委員会企画チュートリアルセミナー	37
ハラスメント防止委員会企画講演	38
自主企画シンポジウム	40
ポスター発表	55
発表者索引	103

会場のご案内

名古屋国際会議場周辺図



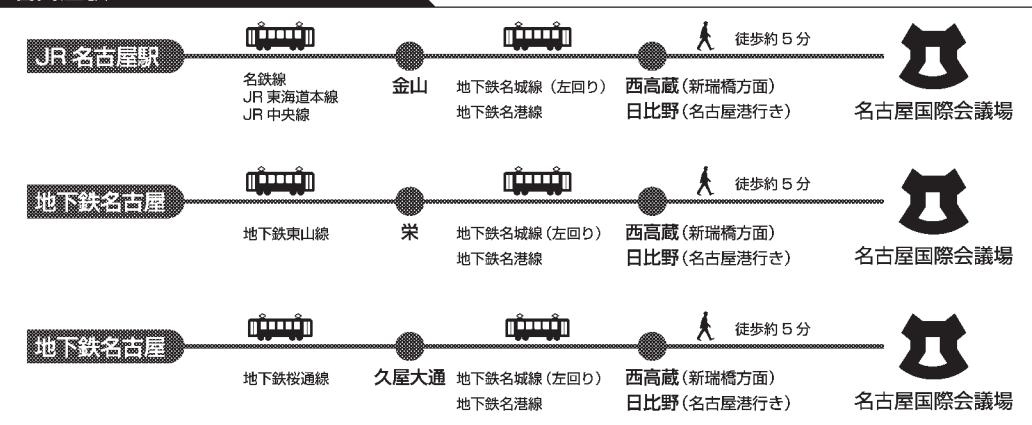
日比野

西高蔵



会場へのアクセス

名古屋駅から



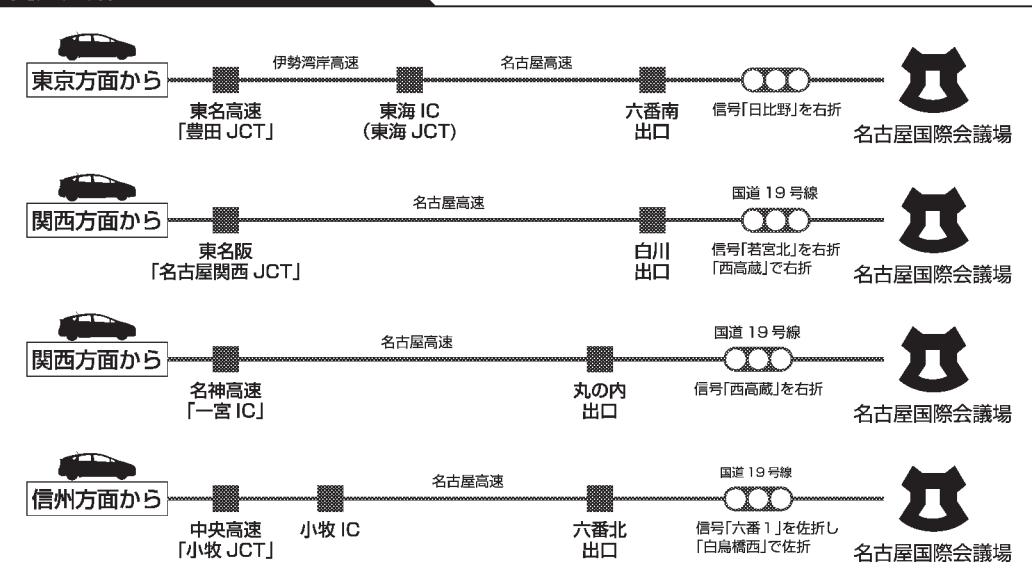
中部国際空港（セントレア）から



名古屋空港から



高速道路から



会場フロア案内

1階 2号館

ラウンジ 総合受付

- 当日参加申込み受付
- 非会員シンポジスト受付
- 名誉会員・終身会員受付
- 参加章再発行受付
- 発表等変更受付
- 各種問合せ

展示室211 休憩・打合せ室（電源あり）

展示室212 クローク

1階 4号館

白鳥ホールA 授賞式・会務報告会

- 研究委員会企画シンポジウム1・2・3
- 研究委員会企画チュートリアルセミナー
- ハラスメント防止委員会企画講演

白鳥ホールB ポスター発表

書籍販売・機器展示

2階 2号館

会議室221 自主企画シンポジウム1

会議室222 自主企画シンポジウム2

会議室223 自主企画シンポジウム3

3階 2号館

会議室231 自主企画シンポジウム4

会議室232 自主企画シンポジウム5

会議室233 自主企画シンポジウム6

3階 2号館

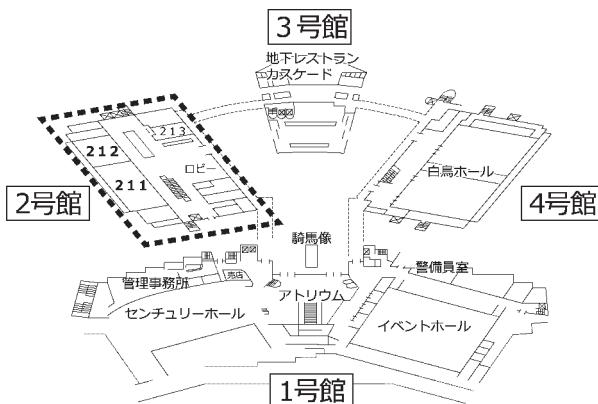
国際会議室 準備委員会企画基調講演

準備委員会企画小講演

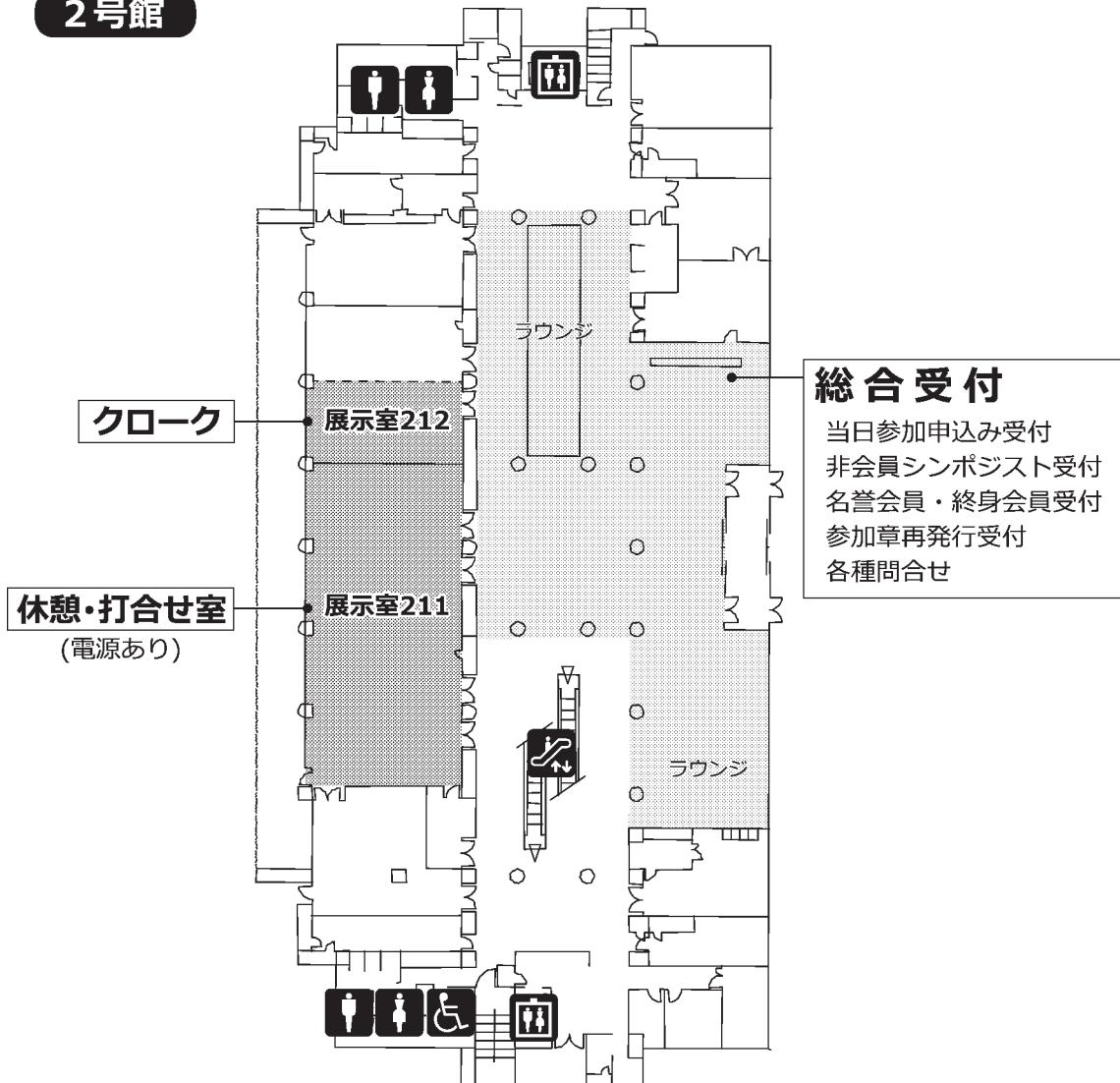
準備委員会企画シンポジウム1・2・3・4

会場フロアマップ

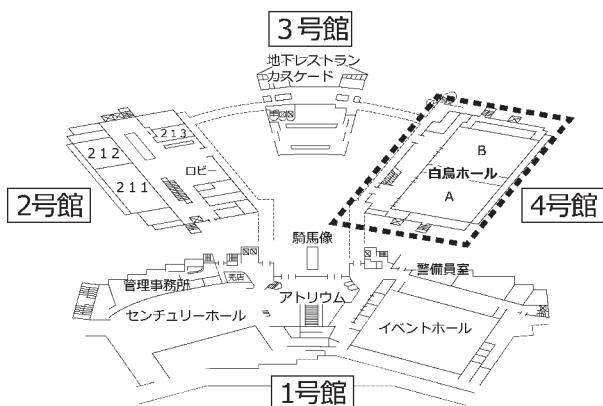
1階



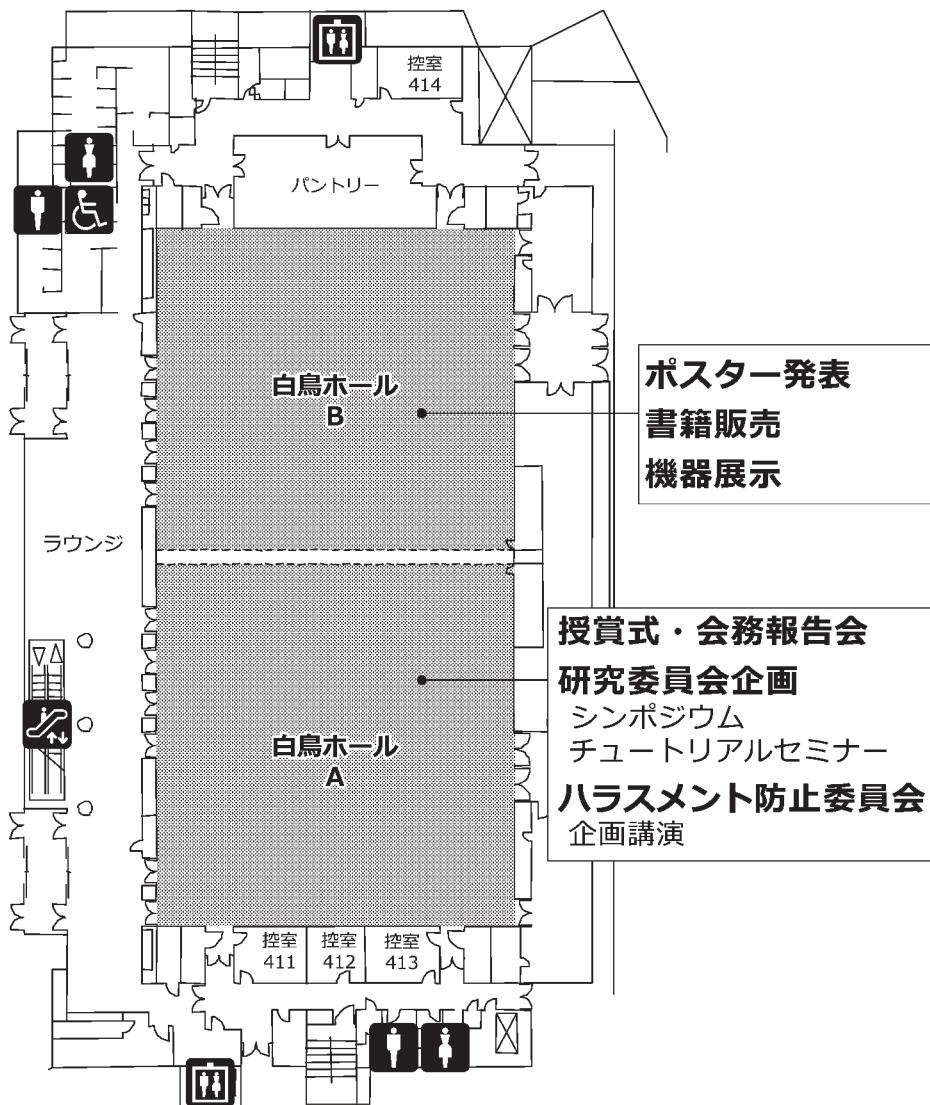
2号館



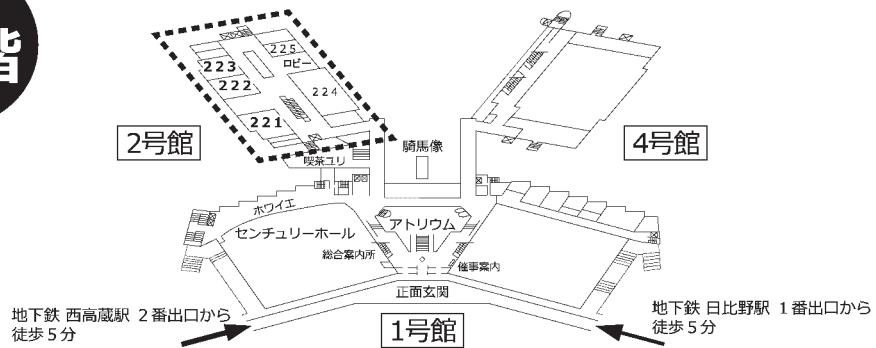
1階



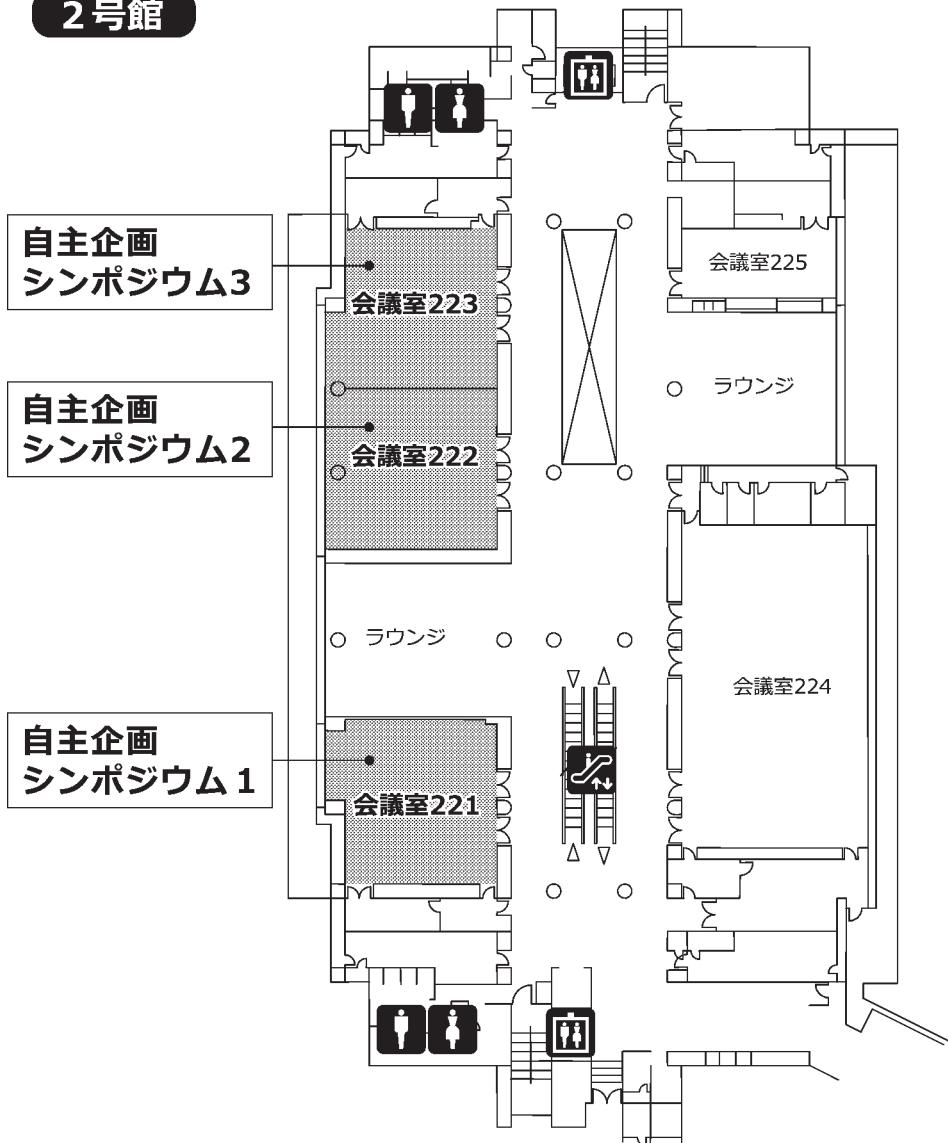
4号館



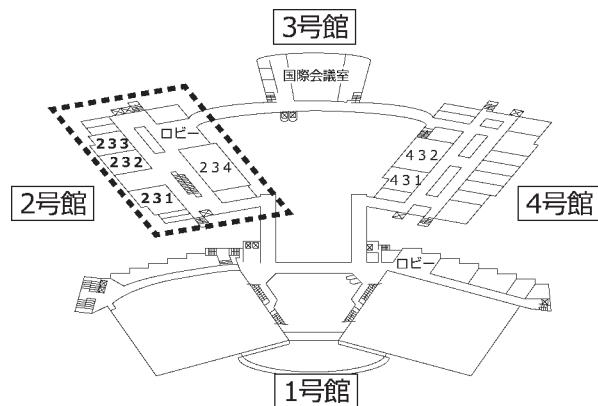
2階



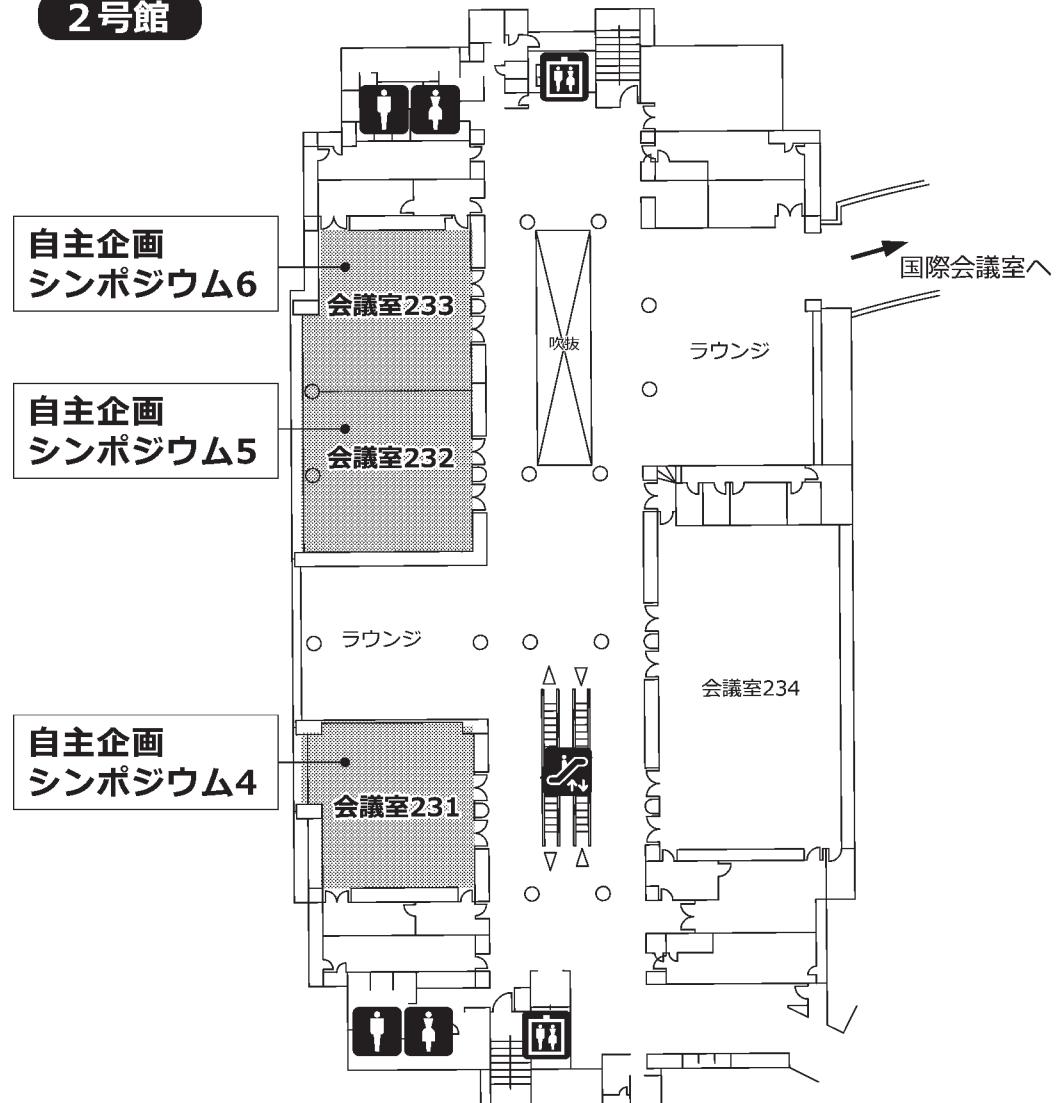
2号館



3階



2号館

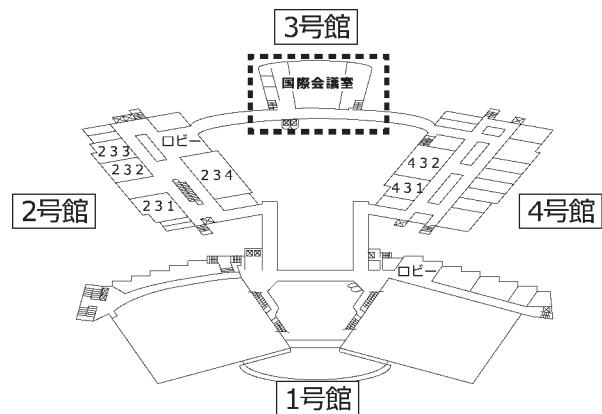


自主企画
シンポジウム6

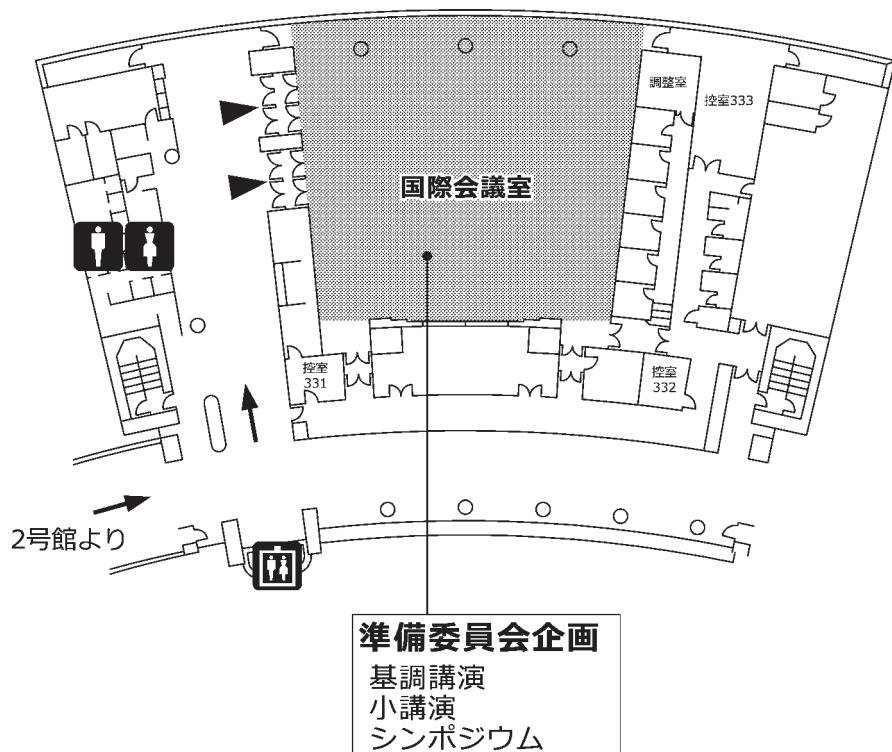
自主企画
シンポジウム5

自主企画
シンポジウム4

3階



3号館



1. 参加章

総会期間中は必ず参加章をお付けください。

2. 事前参加申込みをされている方の受付

事前にお送りした参加章を持っている方は受付の手続きは要りません。参加章を付けて、各会場へそのままお越しください。

参加章を忘れた方は、2号館1階の総合受付にて、再発行申込み用紙に必要事項を記入して、手続きをしてください。

3. 当日参加申込みの方の受付

当日参加申込みの方は、2号館1階の総合受付にて、参加申込み用紙に必要事項を記入して、総会参加費を添えてお申込みください。

<受付時間>

第1日 8:30～17:00

第2日 8:30～17:00

第3日 9:00～13:30

<総会当日参加費>

	3日間参加	1日のみ参加
会員の方（大学院生以外）	12,000円	—
会員の方（大学院生）	10,000円	—
会員でない方	13,000円	5,000円
学部学生の方	5,000円	2,000円

<懇親会当日参加費>

一般の方 6,000円

大学院生・学部学生の方 4,000円

※ ポスター連名発表者が総会に参加される場合は、別途、参加費が必要です。

※ 会員でない自主企画シンポジウム登壇者が会期を通して参加する場合は、お振込み済みの登壇者参加費と当日参加費との差額8,000円で参加できます。

※ 会務報告会資料や手提げ袋を、2号館1階および、4号館1階のラウンジに用意しておりますので、適宜お取りください。

4 . 招待シンポジスト・名誉会員・終身会員等の方の受付

2号館1階の総合受付までお越しください。参加章をお渡しします。

5 . クローク

2号館1階の展示室212にて、荷物をお預かりいたします。預ける荷物には、貴重品を含めないようにお願いします。利用時間は以下の通りです。

第1日 8:30～19:00

第2日 8:30～19:00

(懇親会に参加される方は、その前に荷物をお受取りください)

第3日 9:00～16:30

6 . 昼食

ご持参いただいた昼食等は、2号館1階の展示室211でお召し上がりいただけます。どうぞご利用ください。

第2日の授賞式・会務報告会の会場（4号館 白鳥ホールA）には、軽食を用意します。お気軽にご参加ください。

7 . 休憩・打合せ室

2号館1階の展示室211をご利用ください。電源も用意しています。

8 . 懇親会

第2日の19:00から、名古屋国際会議場 7階 展望レストラン パステルにて行います。名古屋の夜景と料理を楽しみながら、会員同士の交流を深めていただければと思います。参加者数に余裕がある場合には当日の受付もいたします。

9 . インターネットの利用

インターネットは会場のラウンジにて使えます。パソコンは各自ご用意ください。無線LANのパスワードは当日掲示します。

10. 託児サービス

会期中、託児室を設けますので、どうぞご利用ください。

<利用時間>

第1日 8:30～18:50

第2日 8:30～18:50

第3日 9:00～16:20

ご利用希望の方は、学会事務局 (office@edupsych.jp) へご連絡ください。折り返し、申込み書等をお送りします。

11. シンポジウム等の録音・録画

シンポジウム等の録音・録画については、著作権および肖像権の保護のため、企画者(司会者)より録音・録画を許可する旨のアナウンスがある場合を除き、お控えください。

12. コピー機・プリンタの利用

名古屋国際会議場1号館1階の管理事務所手前のパソコンコーナーにて、有料で利用できます。

13. 連絡先

日本教育心理学会事務局

<会期前>

E-mail : office@edupsych.jp

TEL : 03-3818-1534

<会期中>

TEL : 090-5201-0234 (総会期間中のみ使用できます)

ポスター発表

1. ポスター発表は、4号館1階白鳥ホールBで行います。
2. 「発達」、「教授・学習・認知」、「社会」、「人格」、「臨床」、「特別支援」、「学校心理学」、「測定・評価・研究法」の8部門で行います。
3. 割り当てられたセッション中（2時間）ポスターを掲示し、かつ、プログラムで指定された在席責任時間（ポスター番号が奇数の方は前半1時間、偶数の方は後半1時間）の間、質疑に応じることにより正式発表とみなします。在席責任時間以外の時間もできるだけ在席してください。なお、それぞれの在席責任時間中に、責任発表者の在・不在の確認をします。
4. 責任発表者は、セッション開始10分前までに、4号館1階白鳥ホールB入口前のポスター発表受付にお越しください。責任発表者を示すリボンをお渡しします。リボンはセッション終了後にポスター発表受付にご返却ください。
5. セッション開始5分前までに発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼ってください。ポスター番号は、プログラムに記載してあります。
6. パネルの大きさは、横90cm、縦210cmです。ポスター最上部には発表題目、発表者の氏名、所属を大きく記載してください。
7. 文字の大きさに特に指定はありませんが、ポスターから離れた位置（約2m）からでも読める大きさにしてください。
8. 責任発表者が欠席した場合、および在席責任時間中に在席の確認ができなかった場合は原則「発表取消」となります。ただし、連名発表者の会員がいる場合は、申請のうえ、連名発表者の会員1人を責任発表者に変更することができます。なお、責任発表者になるのは1人1回に限りますので、他の発表の責任発表者になっている方に変更することはできません。責任発表者の欠席、変更などについては、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該発表の30分前までに2号館1階の発表変更受付に発表変更・取消申請用紙を添えてお申し出ください。申請用紙は、第59回総会ホームページからダウンロードできます。
9. 配付資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意ください。また、配付も各自でお願いします。
10. 掲示したポスターは、セッション終了後10分以内に外してください。次の発表予定者の準備時間を確保するために、終了後10分を経過しても掲示したままのポスターは取り外し、処分しますのでご了承ください。

自主企画シンポジウム

1. 各会場にプロジェクターを用意しています。パソコンは各自でご用意いただき、備え付けのプロジェクターに接続してください。
2. 配付資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意ください。当日、資料が不足した場合には、企画者にてコピー等をお願いします。また、配付も各自でお願いします。
3. 登壇者の欠席等については、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該シンポジウムの開始30分前までに発表変更・取消申請用紙を添えて2号館1階の発表変更受付にお申し出ください。申請用紙は、第59回総会ホームページからダウンロードできます。

準備委員会ならびに研究委員会企画シンポジウム等

会場に、係員を配置します。配付資料がある場合は、開始10分前までに会場係員にお渡しください。

総会日程 第1日 10月7日（土）

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
部屋名 (人数)		9:30									18:30
3号館3階	国際会議室 (336)	(準)シンポジウム1 心理危機研究をどのように現場実践に生かすか								(準)シンポジウム2 学習動機づけ研究の未来	
										15:30	17:30
	231 (72)		JA04 地域の教育センターとの連携を通じた認知カウンセリングの新たな展開		JB04 わが国における自己調整学習の展開と未来		JC04 学びのユニバーサルデザイン(UDL)に基づく教育実践の再考				
2号館3階	232 (72)		JA05 ポジティブ生徒指導の動向(3)		JB05 「動機づけを支える」ことを考える		JC05 発達障害理解教育の授業内容の検討				
	233 (72)										
2号館2階	221 (72)		JA01 協同的な学習におけるグループ差を考える		JB01 学習者のパフォーマンス		JC01 学力の評価と測定をめぐって				
	222 (72)		JA02 学校からの虐待通告		JB02 合理的配慮におけるICT活用の可能性		JC02 探究的なPBLの学習過程デザイン原則				
	223 (72)		JA03 学校適応はどのようにとらえられるのか(9)		JB03 沖縄の「子育て・教育への共同的営み」を形作る歴史・文化・人々		JC03 他律から自律を促す学習支援とは				
4号館1階	白鳥ホールA (312)				(研)シンポジウム1 若者はいかにして社会・政治問題と向き合うようになるのか						
4号館1階	白鳥ホールB		ポスター発表 PA01～82		ポスター発表 PB01～83		ポスター発表 PC01～82				

※紙面の都合上、副題は省略しています。

総会日程 第2日 10月8日（日）

9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00

部屋名 (人数)	9:30						
3号館3階	国際会議室 (336)	(準)シンポジウム3 福島第一原子力発電所事故がもたらした心理的被害について					(準)基調講演 学業での成功、自己効力感と家庭学習

13:30

2号館3階	231 (72)	JD04 UDL(学びのユニバーサルデザイン)で「授業が変わる」「子どもが変わる」「教師が変わる」		JE04 チームとしての学校現場からの報告	JF04 児童生徒のインターネット上でのいじめやトラブルをどう理解し、どう介入するか	
	232 (72)	JD05 児童・青年の発達とメンタルヘルスに関する大規模縦断研究		JE05 これからの教育を問う	JF05 発達的行動遺伝学の現在	
	233 (72)	JD06 学校教育を通して育む社会情動的スキル			JF06 大学におけるネットいじめの様相と対策	

2号館 2階	221 (72)	JD01 学習支援としての説明は本当に有効なのか（2）		JE01 教科教育の心理学	JF01 リーディングスクリテスト（RST）
	222 (72)	JD02 社会化の担い手たちはいかにして子どもとの社会性を育むのか		JE02 学びをうながす諸要因について	JF02 「セルフ・エスティーム」研究の抜本的再考（3）
	223 (72)	JD03 教員の自律性支援による児童生徒のコンピテンシーの育成		JE03 縦断的研究の難しさ	JF03 教員養成と教育心理学

12:15 13:15

4号館 1階	白鳥ホール A (312)	(研)シンポジウム2【公開】 教育心理学から考える “チーム学校”	授賞式 会務報告会	ハラスメント防止 委員会企画講演 ハラスメント被害 者の心理的回復	(研)シンポジウム3 今、教育現場でLGBT の子どもたちは
-----------	---------------------	---	--------------	--	--------------------------------------

4号館 1階	白鳥ホール B	ポスター発表 PD01~83		ポスター発表 PE01~80	ポスター発表 PF01~81
-----------	------------	-------------------	--	-------------------	-------------------

※紙面の都合上、副題は省略しています。

授賞式・会務報告会

第2日 10月8日（日）12:15～13:15

4号館1階 白鳥ホールA

城戸奨励賞・優秀論文賞の授賞式ならびに受賞者のスピーチ、そして学会の活動報告と意見交換の会を開催します。

お昼の時間ですので、会場に軽食をご用意します。どうぞ気軽にご参加ください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 総会準備委員長のあいさつ | 氏家達夫 総会準備委員長 |
| 2. 城戸奨励賞選考経過と講評 | 柴山 直 選考委員長 |
| 3. 城戸奨励賞授与と受賞者のことば | 各受賞者 |
| 4. 優秀論文賞選考経過と講評 | 氏家達夫 選考委員長 |
| 5. 優秀論文賞授与と受賞者のことば | 各受賞者 |
| 6. 学会の活動報告と意見交換 | 小野瀬雅人 理事長 |
| 7. 第60回（2018年）総会の案内 | 安藤寿康 次期総会準備委員長 |

総会日程 第3日 10月9日（月・祝）

9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00

部屋名 (人数)			11:30			15:30			
3号館3階	国際会議室 (336)		(準)小講演 チェルノブイリ事故からの 心理学的教訓		(準)シンポジウム4 思春期における発達と 問題行動				
2号館3階	231 (72)		JG04 心理教育を子どもたちにいかに届けるか？		JH04 「気になる子ども」も一緒に育つ				
	232 (72)		JG05 学校と地域とのよりよい協働を目指して		JH05 保育者のスイッチ 離職とスタンバイ 離職				
	233 (72)								
2号館2階	221 (72)		JG01 高等学校における不登校への支援と“社会で生きていく力”		JH01 英語教育における深い学びとコミュニケーション				
	222 (72)		JG02 役割取得能力（社会的視点取得能力）と適応の関係を考える		JH02 文系学生に対する心理統計教育				
	223 (72)		JG03 認知心理学からのカリキュラム構成に向けて		JH03 なぜ子どもが立ち直ろうとするときに「問題」は顕在化するのだろうか				
4号館1階	白鳥ホールA (312)		(研)チュートリアルセミナー 統計モデルの違いを理解する						
4号館1階	白鳥ホールB		ポスター発表 PG01～81		ポスター発表 PH01～78				

※紙面の都合上、副題は省略しています。

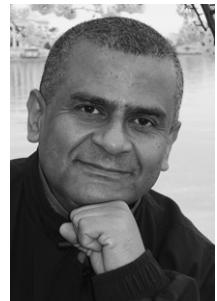
第2日 10月8日（日）16:00～18:00

3号館3階 国際会議室

学業での成功、自己効力感と家庭学習 —なぜ自己調整学習と学業的満足遅延が必要なのか？—

講師：Hefer Bembenutty#（ニューヨーク市立大学クイーンズ校）

企画・司会：中谷素之（名古屋大学大学院）



本講演の目的

本講演の目的は、自己調整学習と学業的満足遅延が、先導的な研究領域として、学業での成功、自己効力感、家庭学習、そして教育心理学における現在の動向をいかに切り開いてきたかについて、最先端の理論的背景、近年の研究知見、そして実践上、教育上の示唆を示すことがある。自己調整学習と学業的満足遅延によって、さまざまな困難や障壁、そして難題を克服することを支持する、国際的な研究知見やクラスでの効果的な実践例について議論する。

理論的背景

学業での成功や学業達成には自己調整が求められる。自己調整学習とは、学習者が個人の重要で価値ある目標を成し遂げるために、自らの活動や行動、そして信念を、組織的、循環的かつ能動的にコントロールするプロセスのことである。自己調整学習者とは、自らの学業に関する目標に向け、活動や思考、感情そして行動の潜在的能力を活性化する存在である。

しかし、自己調整学習を成功させるには、学業文脈において満足を遅延する個人の意志とコミットメントが必要である。学業的満足遅延とは、時間的には遠くにある重要な学業に関する目標を追求するために、目前の利用可能な報酬を先延ばしする学習者の能力のことである。われわれの社会では、長期的な学業に関する目標を達成するために、目前にある利用可能でより価値の低い報酬をあきらめない限り、学習の経験はうまくいかないのである。そのため、自己調整について包括的に理解するためには、どんな要因が満足遅延の成立を規定しているのかについて知る必要がある。

最近まで、自己調整と学業的満足遅延を含むプロセスについて理解する試みは、別々の研究として行われてきた。本講演では、教育心理学研究における現在の動向のなかで、この両者の接点を明らかにしたい。

本講演の最重要点

本講演のなかで、演者は、自己調整学習の理論的視点に基づいて、学業的満足遅延と自

己効力感、そして家庭学習がどのように関連するかについて議論する。

学業文脈における満足遅延が、学習課題達成の可能性を高め、自己効力信念を向上させることを明らかにした実証的知見を取り上げたい。

特に、以下の点について議論を行うものとする。

- (a) 古典的なものから現在に至るまでの満足遅延研究の理論的視点について
- (b) 自己効力感と家庭学習、そしてそれらが満足遅延および自己調整にどのように関連するかについて
- (c) 自己調整学習アプローチから、学業での成功について理解を深める学業的満足遅延と自己調整との関連に関する研究知見について
- (d) 教育心理学的な指導への示唆、そして全ての学習者にとって最善となるような学習指導の実践に向けた考察

また、今後の研究への示唆についても議論する。本講演では、自己効力信念や、宿題をやり遂げること、そして満足遅延の意志を持続して学業で成功することなど、これらの研究の諸領域を含め、生徒の自己調整の促進を支援しうる理論やツール、そして技術について論じたい。

参加者への期待される貢献

参加者は、教育学研究者、心理学研究者による最新の研究知見に基づいた、学校教育や大学における教育改善のための包括的なアイディアや原理、技術を得ることができるであろう。本講演では、生徒を能動的で自主的な学習者にするよう力づけようとする教師、大学院生、そして大学教員のために有益な情報源を提供する。あらゆる教育の段階において、自己調整学習と学業的満足遅延は、学業達成を確かなものにしていくうえで不可欠で重要な要素であるという考えを伝えてゆく。

本講演の重要な貢献は、価値ある学習上の目的を達成するために、目標、動機づけ、そして満足遅延に焦点を当てる、能動的な主体としての学習者を強調することにある。すなわち本講演は、生徒、教師、そして大学教員は、生徒の自己調整学習方略や適切な動機づけ信念、そして学業的な満足遅延の獲得を力づけることができる、という強い信念に基づいているのである。

講演者略歴

講演者のヘファ・ベンベヌティ氏は、アメリカ教育学会（AERA）における学業と自己調整学習研究部会(SIG)のシニア部会長である。ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジ 中等教育と青年支援学部の教育心理学の准教授であり、教育心理学コース、研究シンポジウム、そして教育心理学講演シリーズの学部コーディネーターである。また同氏は、ニューヨーク市立大学大学院センターの教育心理学専攻において博士号を取得している。現在進行中の研究課題には、生徒および教師の自己調整学習、学習におけるテスト不安の効果、家庭学習の自己調整、自己効力信念、多文化教育、そして学業的満足遅延に関するものなどがある。さらに、大学生における学業での満足遅延への意志が、学業成果をいかに予測するかに関する研究が進行している。教師の自己効力信念と自己調整に関する出版物があり、学術誌の特別編集号のエディターを務めている。『自己調整学習の多様な展開：バリー・ジマーマンへの賛辞』の共編者、『教職課程学生のための自己調整学習の発達と教授技術』の共著者である。また『現代の教授と学習のパイオニア』を著している。

第3日 10月9日（月・祝）10:00～11:30

3号館3階 国際会議室

切尔ノブイリ事故からの心理学的教訓

Lessons from the Chernobyl accident

講師：Britt-Marie Drottz-Sjøberg # (ノルウェー技術工科大学)

企画・司会：氏家達夫 (名古屋大学)



Worry and concern are main public reactions to a nuclear accident. The Joint Study Project 2 (JSP2) was a collaboration in the 1990s between the European Union and the former Soviet Union states of Russia, Ukraine and Belarus that included one research subgroup focused on social and psychological effects of the Chernobyl accident. This presentation will build on the lessons learnt from that situation and suggest areas worthy of consideration when citizens face real or perceived risk in the aftermath of radioactive fallout. At the time of the Chernobyl accident the overall framework of national and international regulatory documents guiding the response to the post-accidental situation were not fully developed and consistent resulting in uncertainty and inconsistency. In addition, the political and economic situations for the mentioned countries were, from mid 1980s well into 1990s, turbulent including the transition from a regime of secrecy to information openness, the breaking up of the Soviet Union and economic decline markedly affecting citizens' wellbeing. On an individual level people experienced initial silence from authorities, subsequently affecting trust and wellbeing and inviting the spread of rumors, later followed by massive countermeasures, including relocation in areas of the most affected, restrictions in other parts to use local produce and massive health checks; countermeasures that were not always accompanied with information or individual feedback on results. Worries included health effects for children as well as adults and not the least for pregnant women and future generations. Furthermore, there were concerns about effects on daily life including contamination of food products and the surrounding landscape, the prospect of becoming relocated or resettled without much individual

choice, possible health effects due to living for years in areas that were to be relocated, and the sharp decline of monetary value. Nevertheless, the overall psychological sentiment of people participating in the JSP2 project in more and less affected areas was stoicism leaning towards depression and at times apathy. Major lessons learnt from the project include the crucial importance of immediate, reliable and consistent information from authorities to affected people to enhance trust and counteract disinformation and rumors, and the central role of enhancing personal control in situations of risk. Personal control is associated with having reliable information, choice options, freedom to take decisions and behave within available frameworks. Since the Chernobyl accident national and international regulatory frameworks have been reviewed, decision support tools have been developed, and a market for personalized measurement tools has emerged. In spite of the high level of knowledge sophistication and expertise in the fields of medicine, dosimetry, radiation protection and overall societal post-accident response it is my belief that the implementation of countermeasures is not entirely a matter for specialists. It is possible and necessary to strengthen individuals' abilities to appraise situations and react in an appropriate manner to radiation risks. This objective to enhance personal control in radiation risk situations can be achieved through experts' skillful communication and guidance, and strategically organized social facilitation of individuals' self-help behavior.

不安と懸念は、原子力事故に対する市民のおもな反応である。ジョイント・スタディ・プロジェクト2 (JSP2) は、1990年代に行われたEUとロシア、ウクライナ、ベラルーシの旧ソ連諸国との間の共同研究で、チェルノブイリ事故の社会的および心理的影響に焦点を当てた研究グループを含んでいた。この講演では、その状況から学んだ教訓を基にして、放射能降下の後に市民が現実の、または感知されるリスクに直面したときに考慮すべき分野を示唆したい。チェルノブイリ事故当時、事故後の状況への対応を導く国内および国際規制文書の全体的な枠組みは完全には開発されておらず、不確実性と不一致が生じていた。さらに、1980年代半ばから1990年代にかけての政治経済情勢は、秘密の政権から情報公開への移行、ソビエト連邦の崩壊、市民のウェルビーイングに顕著な影響を及ぼす経済的衰退を含む激しいものであった。個人レベルでは、人々は当局から当初何も知られず、統いて信頼と幸福が害われ、噂の広がりを招き、その後、最も影響を受けた地域からの避難、地元産品を他の地域で使うことの制限、大規模な健康診断—それは対策の1つであったが、必ずしも情報は提供されず、個々人への結果のフィードバックも行われなかつた—が行われた。心配は、妊娠中の女性や未来の世代にとどまることなく、大人の健康への影響を含んでいた。さらに、食品や環境の汚染の中で生活することの影響や、十分な個人的選択なしに避難、移住することへの見通し、避難すべき地域に長年生活することによる健康への

影響、金銭的価値の急激な低下への懸念があった。多少なりとも影響を受けた地域のJSP2プロジェクトの対象となった人々の全体的な心理的感覚は、抑うつに傾いたストイシズムと時には無関心であった。このプロジェクトから得られた主な教訓には、信頼や、虚偽情報や噂への対処、リスクの状況で中心的な役割を果たす個人的コントロールを強化するために、影響を受けた人々に対する当局からの速やかで、信頼できる一貫性のある情報提供の重要性が含まれている。個人的コントロールは、信頼性の高い情報や可能な選択肢、意思決定の自由を持つことや、利用可能なフレームワーク内で行動すること関連している。チェルノブイリ事故の国内および国際的な規制の枠組みが見直されて以来、意思決定支援ツールが開発され、パーソナライズされた計測ツールの市場が登場した。医学、線量測定、放射線防護、社会的事故後の全般的な知識の高度化と専門知識の高レベルにもかかわらず、対策の実施は専門家にとっての問題ではないと私は信じている。状況を評価し、放射線リスクに対して適切な方法で反応する個人の能力を強化することは可能であり、必要である。専門家の巧みなコミュニケーションとガイダンス、戦略的に組織された個人の自助行動の社会的円滑化を通じて、放射線リスク状況の個人的コントロールを強化するという目的を達成することができる。

講師略歴

1980年 University of Gothenburg, Department of Psychology, Sweden 卒業、1986年 University of Gothenburg, Department of Psychology, Sweden 修了、1991年 Stockholm School of Economics, Sweden 学位取得、1994年から University of Gothenburg 講師、1997年から現在まで Professor of Social Psychology, Department of Psychology, Norwegian University of Science and Technology, NTNU。

彼女は、チェルノブイリ事故 (JSP-2) の社会的および心理的影響に関する1990年代初頭のEU-CIS共同プロジェクトに参加し、健康、環境の状況におけるリスク経験、知覚およびコミュニケーションの問題を研究してきた。ノルウェーの原子力安全研究(NKS/SOS-1)、スウェーデン国家核廃棄物審議会(KASAM)、リスク分析学会欧州連合、ノルウェー研究協議会グローバル変化委員会、ノルウェー研究協議会の医学と健康委員会、社会科学研究委員を歴任。現在、国際リスク・アセスメント・マネジメント学術誌編集委員会、スウェーデン王立工学アカデミー、スウェーデン王立科学アカデミーの放射線防護研究のスウェーデン国内委員会、スウェーデンのリスクアカデミーの科学諮問委員会のメンバーである。

最近のおもな論文

- Drottz-Sjöberg, B.-M. (2016). Risk as a condition of our society. In C. Y. Robertson-von Trotha (Hrsg.) *Die Zwischengesellschaft. Aufbrüche zwischen Tradition und Moderne?* (pp. 83-90). Baden-Baden: Nomos Verlagsgesellschaft.
- Drottz-Sjöberg, B.-M. (2012). Tools for risk communication. In Sabine Roeser, Rafaela

- Hillerbrand, Per Sandin and Martin Peterson (Eds.), *Handbook of Risk Theory. Epistemology, Decision Theory, Ethics, and Social Implications of Risk*. Chapter 29 (pp. 761–787). Heidelberg: Springer.
- Drottz-Sjøberg, B.-M. (2010). Perceptions of nuclear wastes across extreme time perspectives. *Risk, Hazards & Crisis in Public Policy*, 1, 231–253.
- Drottz-Sjøberg, B.-M., & Aven, T. (2009). ESREL 2007 – the 18th European Safety and Reliability Conference. *Journal of Risk Research*, 12, 279.
- Sjøberg, L., & Drottz-Sjøberg, B.-M. (2009). Public risk perception of nuclear waste. *International Journal of Risk Assessment and Management*, 11, No.3/4, 264–296.
- Sjøberg, L., & Drottz Sjøberg, B.-M. (2008). Risk perception by politicians and the public. *Energy & Environment*, 19, No 3+4, 455–485.
- Andersson, K., Drottz-Sjøberg, B.-M., Espejo, R., Fleming, P. A., & Wene, C.-O. (2006). Models of transparency and accountability in the biotech age. *Bulletin of Science, Technology & Society*, 26, 46–56.

準備委員会企画シンポジウム

準備委員会企画シンポジウム1

第1日 10月7日（土）9:30～12:00

3号館3階 国際会議室

心理危機研究をどのように現場実践に生かすか —研究の場と臨床現場の往還—

企画・司会：金子一史 (名古屋大学)
企画・司会：窪田由紀 (名古屋大学)
話題提供：柴田一匡 (名古屋大学・プティ ヴィラージュ)
話題提供：樋渡孝徳 (九州産業大学)
話題提供：小倉正義 (鳴門教育大学)
指定討論：渡辺弥生 (法政大学)

いじめやハラスメント、事件および事故、自然災害や犯罪被害、もしくは自死による喪失体験などの心理的危機は、周囲を含めた家族や職場の関係者までを含めれば、全ての人が否応なしに巻き込まれていることは、疑いがない。自身の関係者に大きな心理危機が発生した場合には、同時に自身にも大きな衝撃をもたらし、危機的な状態に陥ることもある。これらの点で、全ての現代人は心理的危機から無関係ではいられない。

臨床現場と研究との間で望まれる関係のあり方とはどのようなものなのかについては、これまでにも科学者実践者モデル (scientist practitioner model) などによって、古くから盛んに議論されてきた。一方、今日におけるグローバル化の急速な進展や日本社会が急激に複雑多様化していく中で、国民全体に漠然とした不安が、以前にも増して広まりつつある。このような情勢の中で、心理学という学問が、現場の社会的問題に対して具体的にどのような貢献ができるのかを、現在ほど問われている時代はないと言えよう。

本シンポジウムでは、若手の研究者が取り組んでいる臨床現場での心理的危機について、具体的な研究成果を提示してもらった上で、それらをどのようにして実践へつなげていくかという点に焦点を当てて議論を行う。その上で、心理学における研究と臨床現場との望ましい関連のあり方とは何か、改めて検討を加えることを試みる。研究の成果を、臨床の現場にどう活かしていくのか、また、現場の問題をどのように研究の土台に乗せていくのかという問題について、ここで今一度検討を加えておくことは、今後ますます複雑多様化する社会において、重要な意義を持つものと思われる。今こそ、心理学が社会に対してどのような貢献できるのか、自らの足元を見つめ直しておくことが求められている。

準備委員会企画シンポジウム2

第1日 10月7日（土）16:00～18:30

3号館3階 国際会議室

学習動機づけ研究の未来

—教育心理学研究における動向とこれから—

企画・司会：中谷素之 （名古屋大学大学院）

話題提供：田中あゆみ（同志社大学）

話題提供：伊藤崇達（京都教育大学）

話題提供：外山美樹（筑波大学）

指定討論：大坊郁夫#（東京未来大学）

指定討論：鹿毛雅治（慶應義塾大学）

コンピュータ・サイエンスや神経科学の爆発的な発展によって、今日、社会科学を含む諸科学の枠組みが大きく変わろうとしている。例えば、ビッグ・データによって従来は測りえなかった大規模データでの学習の過程が示されたり、あるいは心理学のみならず、医学や生理学、あるいは遺伝子研究などの学際的な研究により学習などの動機づけの神経科学的な基盤が見出されるなど、顕著な動向がみられている。例えば、達成動機づけ研究のレビューに関する代表的シリーズであるAdvances in Motivation and Achievementの最新巻（Vol. 19）においても、神経科学的な測定や問題設定に基づく人間の動機づけ研究の特集“Recent Developments in Neuroscience Research on Human Motivation”（Kim, Reeve, & Bong, 2016）が組まれるなど、現在、学習動機づけ研究において、新しい動向がみられてきている。

教育心理学研究は、教育場面における教授や学習という極めて実際的な問題を扱いながら、行動科学的としての実証的視点を有しているが、このようなコンピュータ・サイエンスや神経科学の発展による変革のただ中では、教育事象をどうとらえ、測定、評価するのか、そしてどのような成果を社会にもたらすのかといった、科学的であるとともに、応用的、実用的な問題提起が想定され、学習動機づけ研究もその例外ではない。

本シンポジウムでは、教育心理学における学習動機づけ研究に関わる多面的な理論的視点から、(1)学習動機づけの主要な理論、そして研究の最新動向はどのようなものか、(2)各学習動機づけ研究の枠組みや強みに基づいて、未来の動機づけ研究はどうに展開していくと考えられるのか、について、各研究領域の知見を踏まえて議論する。学習動機づけ研究の各領域の研究のトレンドと、それを踏まえた近未来の学習動機づけ研究のすがたについて展望してゆく。学習動機づけ研究の主要な理論である、達成目標理論、自己調整学習理論、制御適合理論の3つの視点から、各領域の一線の研究者による各研究の理論的基盤と最新の動向についてのレビューと学習動機づけ研究の未来を展望した議論を行う。これはパーソナリティや学習、そして社会という異なる心理学領域での動機づけ研究の架橋にもなるであろう。

準備委員会企画シンポジウム3

第2日 10月8日（日）9:30～12:00

3号館3階 国際会議室

福島第一原子力発電所事故がもたらした 心理的被害について

企画・司会・話題提供	：氏家達夫	(名古屋大学)
話題提供	：筒井雄二#	(福島大学)
話題提供	：大久保 謙	(名古屋大学)
話題提供	：Yuliya Lyamzina #	(福島県立医科大学)
指定討論	：Britt-Marie Drottz-Sjøberg #	(ノルウェー技術工科大学)

2011年3月に起こった東京電力福島第1原子力発電所の事故から6年以上が経過した。避難区域の多くで避難指示が解除され、住民の帰還がはじまっている。避難区域外でも、除染が進み、一見平常の生活が戻りつつある。しかし、チェルノブイリ事故後の調査結果によれば、subclinicalなものではあるが、心理学的影響が長期間継続することが知られている。また、幼い子どもを持つ母親に特に心理学的影響が現れやすいこともわかっている。このシンポジウムでは、福島第一原子力発電所事故が、福島の親にもたらした心理学的被害について検討することを目指し、4つの報告を行う。初めにその実態について、事故後継続的に福島県内の幼い子どもを持つ親を対象に、放射能に対する不安やストレスを調査してきた福島大学チームの調査結果にもとづいて報告する。2つ目に、親の不安やストレスが発達心理学的に持つであろう意味についての理論的考察と実証研究の結果を報告する。3つ目に、子どもの発達に及ぼす影響を防ぐための心理学的介入実践の試みを報告する。最後に、人々のリスク知覚に着目したリスクコミュニケーションのあり方について報告する。指定討論として、心理学的観点からチェルノブイリ事故後の被害住民の調査を行うとともに心理学的影響のメカニズムについての研究と提言を行ってきたノルウェー技術工科大学のBritt-Marie Drottz-Sjøberg教授を迎える。心理学的影響の長期化や子どもの発達への影響を防ぐための方策について議論を深める。

準備委員会企画シンポジウム4

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:30

3号館3階 国際会議室

思春期における発達と問題行動

企画・司会 : 平石賢二 (名古屋大学)

企画・指定討論 : 河野莊子 (名古屋大学)

話題提供 : 笠井清登# (東京大学)

話題提供 : 大久保智生 (香川大学)

話題提供 : 吉澤寛之 (岐阜大学)

話題提供 : 齊藤誠一 (神戸大学)

思春期に関しては古くから思春期危機や第2反抗期などの用語によってこの年代の心理的な不安定さや困難さが言い表されてきた。また、思春期は児童期に比べて心理的不適応や問題行動が生じやすい時期であり、保護者や教師にとっても対応が難しくなる時期であるとみなされている。

しかし、心理的不適応や問題行動は必ずしもこの年代の子どもたちに共通した特徴ではなく個人差も大きい。また、このような思春期的な問題の背景要因としては、個人の資質や家庭環境、友人関係などの影響が強調されてきたが、臨床実践の現場では、多くの事例において複数のリスク要因の累積がみられる。そして、それらが複雑に相互作用した結果、問題行動が現れており、個別の発達的文脈を考慮する必要があると感じることが多い。近年では思春期における多様な発達経路を想定し、発達の多様性を重視する動きが強まってはきているが、この年代の発達のあり方が十分に明らかにされ、家庭や学校現場での理解が浸透しているとは言い難いのが現状である。

そこで本シンポジウムでは、思春期における発達と問題行動の関連について、精神医学・脳科学、教育心理学、社会心理学、青年心理学といった多分野からの最新の研究知見を紹介していただき、それらを総合しながら思春期の発達的危機の問題に関する理解を深めることを目的とした。

研究委員会企画シンポジウム

研究委員会企画シンポジウム1

第1日 10月7日（土）13:00～15:30

4号館1階 白鳥ホールA

若者はいかにして社会・政治問題と 向き合うようになるのか

企画・司会・指定討論：池上知子（大阪市立大学）

話題提供：高 史明#（東京大学）

話題提供：吉川 徹#（大阪大学）

話題提供：杉浦淳吉（慶應義塾大学）

2015年6月に公職選挙法が改正され、選挙権が得られる年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられ、2016年夏の参議院選挙から適用された。選挙運動を行うことのできる年齢も同様に引き下げられている。これを機に若者に投票所に足を運んでもらうにはどのようにすればよいか各方面で議論されている。また、受験勉強や部活動に追われている高校生や大学生に政治参加を促す主権者教育が教育現場の大きな課題となっている。一方、半数近い若者が「政治のことはよく知らない」という理由から政治参加に対して不安や戸惑いを感じているという調査結果もある。わが国の将来を担う若者が社会や政治のあり方を変える大きな力となることは歓迎すべきことではあるが、そのためには、若者自身の問題意識の深化や判断能力の向上をはかることが必要である。問題に対する表面的理解、近視眼的判断が国や社会の指針を左右することがあってはならないからである。本シンポジウムでは、日本の若者が現代社会に内包されている問題（格差・貧困・差別等）をどのように認識しているかを探り、社会の深層構造の理解と変革への動機を促す手立てについて考えてみたい。

研究委員会企画シンポジウム2〔公開〕

第2日 10月8日（日）9:30～12:00

4号館1階 白鳥ホールA

教育心理学から考える“チーム学校”

企画・司会 : 湯澤正通 (広島大学)

企画・話題提供 : 植阪友理 (東京大学)

企画 : 高橋美保 (東京大学)

話題提供 : 藤澤信義# (倉敷市立連島南小学校)

話題提供 : 水野治久 (大阪教育大学)

話題提供 : 西 幸代# (学習塾ぽえちか・元浅口市立寄島中学校)

平成27年12月、中央教育審議会では「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」を取りまとめた。学習指導要領の改訂に当たっては、「何を教えるか」という知識の質や量の改善だけでなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されており、子どもたちが学校で習得した基礎的な知識・技能を実社会や実生活で活用することが求められている。そのためには、教員が、学校や子どもたちの実態を踏まえ、学習指導等に取り組むための指導体制の充実が求められている。加えて、生徒指導上の課題や特別支援教育など、学校が抱える課題は、複雑化・困難化する中、教職員が心理や福祉などの専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題解決に取り組む体制の構築が必要である。

しかし、現場ではこのような「チーム学校」はうまく構築され、運営されているのだろうか。学校にチームが形成され、チームとして機能するためには何が必要なのだろうか。

本シンポジウムではチーム学校に求められる専門性に焦点を当て、チーム学校のモデルとなる実践や研究に関して話題提供を行う。その中で、チーム学校に教育心理学が貢献できることを議論する。

研究委員会企画シンポジウム3

第2日 10月8日（日）16:00～18:30

4号館1階 白鳥ホールA

今、教育現場でLGBTの子どもたちは

企画・司会：伊藤裕子 (文京学院大学)
話題提供：加藤悠二# (NPO法人 虹色ダイバーシティ)
話題提供：堀江有里# (日本キリスト教団なか伝道所)
話題提供：東 優子# (大阪府立大学)
指定討論：湯川隆子 (三重大学)
指定討論：松並知子 (武庫川女子大学)

昨今LGBTと盛んに言われ出し、脚光を集めようになってきた。Lesbian, Gay, Bisexual, Transgenderの略で、性的少数者としてくくられる。日本では同性婚は法律で認められていないが、一部地域で認知されている。

しかし、上記はいずれも大人の話であり、これらが顕著に現れてくるのは思春期で、すでに幼児期や学童期に「他の（同性の）友だちとは違う」ことが本人に認識されている場合も多い。その結果、学校現場でいじめにあったり不登校になったり、また、教師も理解しないことが多く、さらに、自殺念慮が異常に高く自尊感情も低いと言われる。

学校教育のなかで、保健体育、家庭科など、性教育や家族形成といったように、外見上の男女を前提に話が進められているが、性別二元性から来る問題と、実際に子どもたちが抱える問題を知り、何が問題で、どのような取り組みが可能かを考えていきたい。

第3日 10月9日（月・祝）9:30～12:00
4号館1階 白鳥ホールA

統計モデルの違いを理解する

——一般線形モデル・一般化線形モデル・階層的重回帰モデル・ 階層線形モデル——

企画・司会 : 荘島宏二郎 (独立行政法人大学入試センター)
話題提供 : 橋本貴充 (帝京大学)
話題提供 : 登藤直弥 (大学改革支援・学位授与機構)
話題提供 : 高野慶輔 # (Ludwig-Maximilians-University)
企画・話題提供 : 宇佐美 慧 (東京大学)

統計モデルには、名前は類似しているが形式的・数理的に異なる意味合いをもち、また異なる目的のために利用される分析手法が存在する。また、単一ではなく幅広い種類のモデルを包含する統計モデルも多くあるため、その内容とともに他の名前の統計モデルとの関係性を理解することは、統計学の理解としてはもちろんのこと、研究実践上においても重要であろう。例えば、一般線形モデル・一般化線形モデル・階層的重回帰モデル・階層線形モデルと呼ばれる統計モデルは、いずれも心理データ分析で実際によく用いられるが、名前の類似性から、分析の目的や意味内容が混同されやすい。本チュートリアルでは特に初学者の方、具体的には、普段統計分析を行う機会が少ない方や統計学の基礎を学び直したい方を念頭において上掲の4手法について、扱うデータの特徴や分析目的の違いに着目して整理しながら、実践例とともに個々のモデルについて平易に解説する。

第2日 10月8日（日）13:30～15:30
4号館1階 白鳥ホールA

ハラスメント被害者の心理的回復

講師：小西聖子# (武藏野大学)

指定討論：金子雅臣# (職場のハラスメント研究所)

司会：大塚雄作 (大学入試センター)

ハラスメント防止委員会企画講演およびシンポジウムも7回目を迎え、ハラスメントの問題は、その発生から状況の深刻化の過程、調査・調停等の対処のあり方、さらに、被害者の回復に関わる対応に至るまで、実にさまざまな課題が背後に複雑に絡み合いつつ潜んでいることが、私どもの学会においても少しづつ共有されてきました。

そのなかで、ハラスメント被害を受けた人の回復に向けてどのように支援をしていくことが望まれるのかという課題は、ハラスメントに関わる調停等が決着しさえすれば往々にして見過ごされがちになりますが、むしろ調停の決着に増して難しさもあり、そこを避けてハラスメント問題の解決はあり得ない重要な課題の一つでもあります。ハラスメント被害を受けた人はすぐには元通りに戻ることは難しく、回復に関わる課題は想像以上に難題であるということを、まずは共有しておくことが肝要です。

そこで、ハラスメント防止委員会では、被害を受けた人が回復するためにどのように留意する必要があるのか、また、その周囲にいる人たちがどのようなことができるのかといったことを考える機会を、本総会において企画することにいたしました。幸いにも、DV、性暴力被害者などを中心に、大学研究室や職員などの被害も含めて、ハラスメント被害者の臨床経験を豊富に持たれている、この領域の日本の代表者でもある小西聖子先生にお越しいただけることができました。小西先生には、ハラスメント被害を受けた人をどう支援するか、被害からの回復の道筋と支援のあり方等について、事例を交えてお話しitだくよう、お願いしております。それに続きまして、これまでのハラスメント防止委員会企画の講演会のすべてに関わって下さっており、また、専門委員として委員会にもご助言をいただきてきております金子雅臣先生より、今までの学会での議論の経緯も踏まえて、指定討論をいただき、フロアを交えて、質疑応答、意見交換の場としたいと思います。

講師プロフィール

小西聖子（こにしあかこ）

愛知県出身。武藏野大学人間関係学部教授。精神科医、臨床心理士、医学博士（1992年筑波大学）。東京大学教育学部教育心理学科卒。筑波大学医学専門学群卒、筑波大学大学院博士課程修了。犯罪被害者等施策推進会議委員、犯罪被害者等基本計画検討会構成員、内閣府男女共同参画会議議員、専門部会委員などを歴任。主な著書として、「犯罪被害者の心の傷（白水社）」、「犯罪被害者のメンタルヘルス（編著・誠信書房）」「性暴力被害者への支援（編著・誠信書房）」など。日本トラウマティックストレス学会、日本犯罪学会、日本被害者学会、日本司法精神医学会各理事。第20回エイボン女性年度賞・教育賞、平成22年毎日書評賞、平成26年犯罪学会賞受賞。

自主企画シンポジウム

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館2階 会議室221

JA01 協同的な学習におけるグループ差を考える —大学教育実践からの検討—

企画・話題提供	三重大学	中 西 良 文
司会	九州女子大学	梅 本 貴 豊
話題提供	駿河台大学	杉 本 英 晴
話題提供	三重大学	守 山 紗弥加#
指定討論	久留米大学	安 永 悟

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館2階 会議室222

JA02 学校からの虐待通告 —迅速な通告と有機的な多機関連携に向けて—

企画・司会	徳山大学	羽 浩 由 子
企画	立正大学	田 中 周 子#
話題提供	NPO法人ピーす	渡 邊 元 嗣#
話題提供	立正大学心理臨床センター	齋 藤 祐 子#
企画・話題提供	四天王寺大学	田 中 晶 子#
企画・指定討論	立命館大学	仲 真紀子
指定討論	中村学園大学	笠 原 正 洋

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館2階 会議室223

JA03 学校適応はどのようにとらえられるのか（9） 一小学校における学級への適応と教師の影響—

企画・話題提供	香川大学	大久保 智 生
企画・司会	北海道教育大学	半 澤 礼 之
企画	東北大大学	岡 田 有 司
話題提供	中部大学	三 島 浩 路
話題提供	東京大学	利根川 明 子
指定討論	お茶の水女子大学	伊 藤 亜矢子
指定討論	岡山大学	三 島 知 剛

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館3階 会議室231

JA04 地域の教育センターとの連携を通じた認知カウンセリングの新たな展開

企画・司会・話題提供	群馬大学大学院	深 谷 達 史
企画・話題提供	東京大学	植 阪 友 理
話題提供	東京大学大学院	福 田 麻 莉
話題提供	東京大学大学院	柴 里 実
話題提供	法政大学大学院	押 尾 恵 吾
指定討論	東京大学	市 川 伸 一

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館3階 会議室232

JA05 ポジティブ生徒指導の動向（3）

—我が国におけるPBISの導入に向けて—

企画・話題提供	南山大学	宇 田 光
企画	大阪産業大学	西 口 利 文
司会・話題提供	茨城県立医療大学	福 井 龍 太
話題提供	大阪産業大学	市 川 哲
話題提供	寝屋川市立啓明小学校	松 山 康 成
話題提供	寝屋川市立啓明小学校	沖 原 総 太
指定討論	一般財団法人 生徒指導士認定協会	有 門 秀 記

第1日 10月7日（土）13:00～15:00
2号館2階 会議室221

JB01 学習者のパフォーマンス

—授業論から「コンピテンシー」を問う—

企画・司会・指定討論	跡見学園女子大学	藤 澤 伸 介
企画	慶應義塾大学	鹿 毛 雅 治
話題提供	東京学芸大学	犬 塚 美 輪
話題提供	同志社大学	及 川 昌 典
話題提供	福岡教育大学	松 尾 剛
指定討論	上智大学	奈 須 正 裕

第1日 10月7日（土）13:00～15:00
2号館2階 会議室222

**JB02 合理的配慮におけるICT活用の可能性
—ICT活用の動向と実践—**

企画・司会	法政大学大学院	吉 森 丹衣子
企画・指定討論	淑徳大学	守 谷 賢 二
話題提供	北星学園大学	田 実 潔#
話題提供	兵庫教育大学	小 川 修 史#
話題提供	つくば市立春日学園義務教育学校	山 口 稔 恵#
指定討論	千里金蘭大学	斎 藤 富由起
指定討論	千里金蘭大学	小 野 淳

第1日 10月7日（土）13:00～15:00
2号館2階 会議室223

**JB03 沖縄の「子育て・教育への共同的営み」を形作る歴史・文化・人々
—「子育て・教育の共同的営み」としてのアロマザリングとPTA—**

企画・司会・話題提供	東京理科大学	竹 尾 和 子
話題提供	東京理科大学	神 野 潔#
話題提供	早稲田大学	根ヶ山 光 一#
指定討論	共立女子大学	津波古 澄 子#
指定討論	立命館大学	やまだ ようこ#

第1日 10月7日（土）13:00～15:00
2号館3階 会議室231

**JB04 わが国における自己調整学習の展開と未来
—理論と実践の両面から—**

企画・話題提供	名古屋大学大学院	中 谷 素 之
司会	日本大学	篠ヶ谷 圭 太
話題提供	京都教育大学	伊 藤 崇 達
話題提供	日本女子大学	瀬 尾 美紀子
指定討論	ニューヨーク市立大学クイーンズカレッジ	Hefer Bembenutty#
指定討論	ニューヨーク市立大学クイーンズカレッジ及び大学院センターThe City University of New York	秋 場 大 輔

第1日 10月7日（土）13:00～15:00
2号館3階 会議室232

JB05 「動機づけを支える」ことを考える

企画・話題提供	香川大学	岡 田 涼
企画・話題提供	北海道大学大学院	大 谷 和 大
司会	九州女子大学	梅 本 貴 豊
話題提供	藤女子大学	青 木 直 子
指定討論	筑波大学	外 山 美 樹
指定討論	大田区立東調布第一小学校	町 岳

第1日 10月7日（土）15:30～17:30
2号館2階 会議室221

JC01 学力の評価と測定をめぐって

企画・司会	独立行政法人 大学入試センター	大 塚 雄 作
話題提供	東北大学	柴 山 直
話題提供	東京大学	遠 藤 利 彦
話題提供	東京大学	植 阪 友 理
指定討論	名古屋大学	野 口 裕 之

第1日 10月7日（土）15:30～17:30
2号館2階 会議室222

JC02 探究的なPBLの学習過程デザイン原則

—OECD日本イノベーション教育ネットワーク事例からの検討—

企画・指定討論	東京大学	村瀬 公胤
企画・司会	東京大学	秋田 喜代美
司会	岡山大学	小村 俊平 [#]
指定討論	東京大学	白水 始
話題提供	聖心女子大学	益川 弘如
話題提供	福島大学	坂本 篤史
話題提供	関西学院大学	時任 隼平 [#]
話題提供	産業技術大学院大学	大崎 理乃 [#]

第1日 10月7日（土）15:30～17:30
2号館2階 会議室223

JC03 他律から自律を促す学習支援とは
—分野越境から実践をふりかえり諸理論とのリンクを試みる—

企画・司会・話題提供	大手前大学	寺 田 未 来
企画・指定討論	大手前大学	石 上 浩 美
話題提供	大手前短期大学	福 嶋 ゆ い‡
話題提供	大手前大学	中 川 和 亮‡
話題提供	立命館大学	中 島 梓‡

第1日 10月7日（土）15:30～17:30
2号館3階 会議室231

JC04 学びのユニバーサルデザイン（UDL）に基づく教育実践の再考

企画・話題提供	埼玉大学	名 越 齐 子
司会・話題提供	北海道教育大学	川 俣 智 路
話題提供	東京都立蒲田高等学校	松 戸 結 佳‡
指定討論	早稲田大学	バーンズ亀山静子

第1日 10月7日（土）15:30～17:30
2号館3階 会議室232

JC05 発達障害理解教育の授業内容の検討

企画・話題提供	富山大学	西 館 有 沙
企画・話題提供	筑波大学	水 野 智 美
司会	筑波大学	徳 田 克 己
指定討論	北海道教育大学	細 谷 一 博
指定討論	東京学芸大学大学院	今 枝 史 雄‡

第2日 10月8日（日）10:00～12:00
2号館2階 会議室221

JD01 学習支援としての説明は本当に有効なのか(2)

—子どもの教え合いにおける説明の有効性—

企画・司会	立命館大学	山 本 博 樹
企画・話題提供	明治大学	伊 藤 貴 昭
企画	立命館大学	吉 田 甫
話題提供	群馬大学大学院	深 谷 達 史
話題提供	福井大学大学院	岸 野 麻 衣
話題提供	大田区立東調布第一小学校	町 岳
指定討論	東京大学	市 川 伸 一

自主
10/8

第2日 10月8日（日）10:00～12:00
2号館2階 会議室222

JD02 社会化の担い手たちはいかにして子どもの社会性を育むのか

—親・友人・教師・地域住民の多層的影響の実証的検討—

企画・話題提供	岐阜大学	吉 澤 寛 之
企画・司会	岐阜聖徳学園大学	吉 田 俊 和
話題提供	岐阜聖徳学園大学	吉 田 琢哉
話題提供	名城大学	原 田 知 佳
話題提供	久留米大学	浅 野 良 輔
指定討論	お茶の水女子大学大学院	菅 原 ますみ

第2日 10月8日（日）10:00～12:00
2号館2階 会議室223

JD03 教員の自律性支援による児童生徒のコンピテンシーの育成

企画・司会	盛岡大学	武 蔵 由 佳
話題提供	早稲田大学大学院	森 永 秀 典
話題提供	杉並区立杉並第六小学校	齊 藤 勝
話題提供	葛飾区立金町中学校	伊 藤 康 瞬
話題提供	千葉科学大学	熊 谷 圭二郎
指定討論	早稲田大学	河 村 茂 雄

第2日 10月8日（日）10:00～12:00
2号館3階 会議室231

JD04 UDL（学びのユニバーサルデザイン）で「授業が変わる」・「子どもが変わる」・「教師が変わる」

企画・司会・話題提供	杉並区立桃井第三小学校	浦野 裕司
話題提供	島根大学教育学部附属学校 学習生活支援研究センター	三浦 瞳 美井
指定討論	アンダンテ西荻教育研究所	金子 晴恵井

第2日 10月8日（日）10:00～12:00
2号館3階 会議室232

JD05 児童・青年の発達とメンタルヘルスに関する大規模縦断研究

—いじめ、性別違和感、発達障害特性、インターネット依存の観点から—

企画・話題提供	浜松医科大学	伊藤 大幸
司会・話題提供	神戸学院大学	村山 恭朗
話題提供	名古屋学芸大学	浜田 恵井
話題提供	弘前大学	足立 匠基井
指定討論	中京大学	村上 隆井
指定討論	神戸大学大学院	山根 隆宏

第2日 10月8日（日）10:00～12:00
2号館3階 会議室233

JD06 学校教育を通して育む社会情動的スキル

企画・司会	十文字学園女子大学	綿井 雅康
企画・話題提供	早稲田大学	桂川 泰典
話題提供	「心の基礎」教育を学ぶ会	原口 和博井
話題提供	桜美林大学	小関俊祐
話題提供	明星大学	藤井 靖
指定討論	十文字学園女子大学	加藤 陽子
指定討論	早稲田大学	菅野 純

第2日 10月8日（日）13:30～15:30
2号館2階 会議室221

JE01 教科教育の心理学

—(1) 授業実践を見通した実験・調査研究をどう進めるか—

企画・司会	東京大学	藤 村 宣 之
話題提供	名古屋大学	橘 春 菜
話題提供	共立女子大学	石 橋 優 美
話題提供	横浜商科大学	鈴 木 豪
指定討論	東北大大学	工 藤 与志文
指定討論	名古屋大学大学院	中 谷 素 之

第2日 10月8日（日）13:30～15:30
2号館2階 会議室222

JE02 学びをつながす諸要因について

—能動的・主体的学びにつながる学習者の要因—

企画・司会・話題提供	玉川大学	高 平 小百合
話題提供	名城大学	木 村 美奈子
話題提供	明星大学	布 施 光 代
話題提供	玉川大学	魚 崎 祐 子
指定討論	立命館大学	竹 内 謙 彰

第2日 10月8日（日）13:30～15:30
2号館2階 会議室223

JE03 縦断的研究の難しさ

—中学生の社会的行動の研究を通して得たこと—

企画・司会	愛知学院大学	二 宮 克 美
企画・指定討論	名古屋大学	氏 家 達 夫
話題提供	福島大学	五十嵐 敦
話題提供	千葉県立保健医療大学	井 上 裕 光
話題提供	名古屋文理大学短期大学部	山 本 ち か

第2日 10月8日（日）13:30～15:30
2号館3階 会議室231

JE04 チームとしての学校現場からの報告
—多様な専門家の連携の構築にむけて—

企画・司会	常葉大学大学院	石川 美智子
企画・司会	Christ University	松本 みゆき
話題提供	名古屋大学大学院	長谷 守紘
話題提供	名古屋大谷高等学校	白木 久美子
話題提供	川野辺小児科	川野辺 令 恵
指定討論	兵庫教育大学	藤原 忠雄

第2日 10月8日（日）13:30～15:30
2号館3階 会議室232

JE05 これからの教育を問う
—道徳教育の在り方を考える—

企画・司会	和洋女子大学	田口 久美子
企画・話題提供	立正大学	大津 悅夫
企画・話題提供	埼玉大学	馬場 久志
話題提供	京都市中学校教員	西原 弘明
指定討論	静岡大学	伊田 勝憲

第2日 10月8日（日）16:00～18:00
2号館2階 会議室221

JF01 リーディングスキルテスト（RST）
—その教育測定学的性質と教育実践に対する示唆—

話題提供	国立情報学研究所	新井 紀子
話題提供	法政大学	菅原 真悟
話題提供	筑波大学	尾崎 幸謙
話題提供	東京学芸大学	犬塚 美輪
話題提供	東京大学	新井 庭子
話題提供	東京大学	分寺 杏介
指定討論	名古屋大学	野口 裕之
企画・司会・話題提供	大学改革支援・学位授与機構	登藤 直弥

第2日 10月8日（日）16:00～18:00
2号館2階 会議室222

JF02 「セルフ・エスティーム」研究の抜本的再考（3）
—本当のセルフ・エスティーム教育と評価方法とは？—

企画・話題提供	鳴門教育大学	山崎 勝之
司会	鳴門教育大学	内田 香奈子
話題提供	兵庫教育大学	横嶋 敬行
話題提供	兵庫教育大学	賀屋 育子
指定討論	プール学院大学	村上 祐介
指定討論	四国大学	内山 有美
指定討論	プール学院大学	永井 明子

第2日 10月8日（日）16:00～18:00
2号館2階 会議室223

JF03 教員養成と教育心理学
—教育心理学は教員養成や学校現場のニーズにどう応えるべきなのか—

企画・司会・話題提供	大阪教育大学	水野 治久
企画・話題提供	立命館大学	山本 博樹
話題提供	愛知教育大学	中井 大介
指定討論	福岡教育大学	小泉 令三

第2日 10月8日（日）16:00～18:00
2号館3階 会議室231

JF04 児童生徒のインターネットでのいじめやトラブルをどう理解し、どう介入するか

企画・話題提供	広島修道大学	西野 泰代
企画・話題提供	佐賀大学	若本 純子
企画・司会・話題提供	東京情報大学	原田 恵理子
指定討論	法政大学	渡辺 弥生

第2日 10月8日（日）16:00～18:00
2号館3階 会議室232

JF05 発達的行動遺伝学の現在

—児童期・青年期・成人期の双生児コホート研究—

企画・司会	慶應義塾大学	安藤 寿康
話題提供	慶應義塾大学	藤澤 啓子
話題提供	慶應義塾大学	川本 哲也
話題提供	大阪人間科学大学	鈴木 国威
話題提供	大阪大学	本多 智佳
指定討論	東京大学	滝沢 龍

第2日 10月8日（日）16:00～18:00
2号館3階 会議室233

JF06 大学におけるネットいじめの様相と対策

企画・話題提供	甲子園大学	金綱 知征
企画・指定討論	大阪大学	家島 明彦
企画・司会	大阪教育大学	戸田 有一
話題提供	筑波大学	藤桂
話題提供	神戸親和女子大学	金山 健一
指定討論	静岡大学	青山 郁子

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館2階 会議室221

JG01 高等学校における不登校への支援と“社会で生きていく力”
—義務教育後の不登校支援のあり方—

企画・司会	奈良女子大学	伊藤 美奈子
企画・話題提供	東京家政大学	相馬 誠一
話題提供	埼玉純真短期大学	金子 恵美子
話題提供	福岡教育大学	西山 久子
話題提供	名古屋学院大学	小林 由美子
指定討論	関西外国語大学	新井 肇

自主
10/9

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館2階 会議室222

JG02 役割取得能力（社会的視点取得能力）と適応の関係を考える

企画・話題提供	新潟青陵大学	本間 優子
司会	同志社大学	内山 伊知郎
話題提供	宇都宮大学	石川 隆行
話題提供	四国大学	内山 有美
指定討論	兵庫教育大学名誉教授	荒木 紀幸

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館2階 会議室223

JG03 認知心理学からのカリキュラム構成に向けて
—知識構築活動から考える—

企画・司会	愛知教育大学	栗山 和広
話題提供	日本学術振興会特別研究員	小田切 歩
話題提供	共立女子大学	石橋 優美
話題提供	日本女子大学	瀬尾 美紀子
話題提供	神戸大学	坂本 美紀
指定討論	立命館大学	吉田 甫
指定討論	放送大学	進藤 聰彦

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館3階 会議室231

JG04 心理教育を子どもたちにいかに届けるか？
—プログラムのfeasibilityを考える—

企画・話題提供	鳥取大学	石 本 雄 真
企画・話題提供	徳島文理大学	松 本 有 貴
話題提供	大阪大学	山 本 利 枝
指定討論	山形大学	宮 崎 昭 #
司会	静岡大学	青 山 郁 子

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館3階 会議室232

JG05 学校と地域とのよりよい協働を目指して
—学校支援地域本部事業の成果と課題から—

企画・司会	香川大学	岡 田 涼
企画・話題提供	香川大学	大久保 智 生
話題提供	香川大学	時 岡 晴 美 #
話題提供	赤磐市立高陽中学校	平 田 俊 治 #
指定討論	山梨大学	東海林 麗 香
指定討論	神戸大学	赤 木 和 重

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館2階 会議室221

JH01 英語教育における深い学びとコミュニケーション

企画・司会・話題提供	京都大学	マナロ エマニエル
話題提供	京都大学	李 沐 陽
話題提供	千葉大学	小 山 義 德
話題提供	名古屋大学	田 中 瑛津子

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館2階 会議室222

JH02 文系学生に対する心理統計教育

—卒論指導・査読で気になる統計解析—

企画・指定討論	岡山大学	山 田 剛 史
企画・司会	文京学院大学	村 井 潤一郎
企画・話題提供	新潟大学	杉 澤 武 俊
企画	青山学院大学	寺 尾 敦
話題提供	神戸大学	林 創
話題提供	金沢学院大学	室 橋 弘 人

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館2階 会議室223

JH03 なぜ子どもが立ち直ろうとするときに「問題」は顕在化するのだろうか

—「導かれた参加(guided participation)」の視点から「問題」を「発達の契機」へ—

企画・司会・話題提供	北海道教育大学	川 俣 智 路
企画・話題提供	滋賀県立大学	松 嶋 秀 明
話題提供	立命館大学	神 崎 真 実
指定討論	成城大学	青 山 征 彦
指定討論	福岡教育大学	西 山 久 子

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館3階 会議室231

JH04 「気になる子ども」も一緒に育つ

—「気になる子」の理解からすべての子どもが育ちあう保育実践に—

企画・司会・話題提供	大阪健康福祉短期大学	野 村 朋
話題提供	大阪健康福祉短期大学	永 谷 孝 代 #
話題提供	中部学院大学	別 府 悅 子
話題提供	神戸大学	木 下 孝 司
指定討論	立命館大学	荒 木 穂 積

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館3階 会議室232

JH05 保育者のスイッチ離職とスタンバイ離職
—TEMとPOSAによる分析と統合—

企画・話題提供	宮城教育大学	香曾我部 琢
指定討論	立命館大学	佐 藤 達哉
司会・話題提供	大阪教育大学	戸 田 有 一
指定討論	東北大學	神 谷 哲 司
話題提供	盛岡大學	藤 田 清 澄 #

ポスター発表

PA

<○印は責任発表者、#印は会員以外の連名発表者を示します>

ポスター発表A

10月7日（土） ポスター掲示時間 10:00～12:00

在席責任時間 奇数番号10:00～11:00 偶数番号11:00～12:00

発達

- PA01 児童の家庭における生き物の飼育経験が共感性の発達に及ぼす影響 田園調布学園大学 本 多 潤 子
- PA02 幼児期の感情表出を促す文化的要因
—短期縦断的観察研究による検討— 新見公立短期大学 ○芝 崎 美 和
東大阪大学 芝 崎 良 典
- PA03 孤独感類型尺度 LSO の構成概念妥当性の検討 東大阪大学 ○芝 崎 良 典
新見公立短期大学 芝 崎 美 和
- PA04 絵本の絵の違いが読み聞かせ時の幼児の表情に及ぼす影響 群馬大学 ○大 島 みづき
伊 藤 ゆりの #
- PA05 保育者の働きかけが幼児の自己制御行動に与える効果
—自然観察法を用いた事例研究から— 奈良保育学院 ○足 立 邦 子
京都市立芸術大学 山 村 麻 予
- PA06 母親の感情発話と幼児の感情語彙数及び社会的行動の関連 東京大学・日本学術振興会 ○浜 溝 名 真 以
堀山女学園大学 川 溝 里 藤 藍
- PA07 自己意識と社会的スキルが自尊感情に及ぼす影響
—多母集団同時分析による性差の検討— 名古屋女子大学短期大学部 ○大 嶽 さと子
南山大学 吉 橋 由 香
東海学園大学 谷 永 伊 織
名古屋大学 田 雅 子
- PA08 中学生を対象とした攻撃性適正化教育の試み
—社会的情報処理モデルに基づくアサーティブネスの形成— 筑波大学 濱 口 佳 和
- PA09 子ども意思決定支援をふりかえるツールの検討
—食事場面の支援を記録するアプリの試作— 川村学園女子大学 ○北 原 靖 子
川村学園女子大学 蓮 岬 元 子
東海学院大学 川 岬 健太郎
- PA10 死別経験、死の不安と内的作業モデル 金城学院大学 増 田 公 男
- PA11 精神的自立の進む過渡期におけるキャリアの歩み
—進路を追求しつつも非行にはしり、非行を乗り越えて進路を追求していった私の場合— 宮 野 祥 雄
- PA12 仲間の違反の報告に対する児童の認識に親密性が与える影響の検討 名古屋経済大学 横 誠
- PA13 保育者の協同的な遊びへの提案技術に関する一考察
—5歳児S児が仲間に入れてあげない場面事例から— 植草学園大学 ○栗 原 ひとみ
新潟中央短期大学 佐々木 宏 之
- PA14 攻撃行動を許容する認知の発達
—小中学生における関連の異同— 山形大学 関 口 雄 一

- PA15 看護実習生の語りにあらわれる「ケアの倫理」と
キャリア展望
—縦断インタビューの事例的検討—
- 湘北短期大学 亀井 美弥子
- PA16 店舗と顧客の越境による新たな顧客ウォンツの創
発過程
—2店のレストラン実践の比較から—
- 横浜国立大学大学院 會津 律治

教授・学習・認知

- PA17 フィードバックが洋楽器非熟達者の弦名譜の読譜
習得過程に及ぼす効果
—映像・音響および印教示の比較—
- 北星学園大学 後藤 靖宏
- PA18 工科系大学大学院生および進学予定者の大学院進
学についての意識
—進学動機・進学後の理想・進学決定時期・影響
要因・心配要因について—
- 東京電機大学 ○石田 拓矢
目白大学 庄司 正実#
- PA19 小学校3年生のスピーチ活動における聞き方方略
の検討
- 富山市立大沢野小学校 ○山崎 加奈
東京学芸大学 梶井 芳明
- PA20 教育脳の探求
—教わって学ぶときの脳活動を個体学習と観察学
習の時と比較する—
- 慶應義塾大学 ○安藤 寿康
慶應義塾大学 染谷 芳明#
- PA21 小学生の家庭学習に関する教師および保護者によ
る支援
—学びへの動機づけと学習方略の視点から—
- 愛媛大学 ○橋本 崑
広島市立宇品東小学校 杉本 奈月
- PA22 大学生にみるMIF概念再考(1)
—投げ上げられた物体に作用する力の向きについ
ての選択理由の分析—
- 佛教大学 橋本 崑尚
- PA23 同一化的調整と内的調整の相違面
—レジリエンスとソーシャルサポートに注目して
—
- 中部大学 ○速水 敏彦
加古川北高等学校 久保 勝利#
- PA24 高校生の探究的学習スキルと批判的思考態度の育
成(2)
—スーパーグローバルハイスクールにおける生徒
の2年間の成長—
- 京都大学 楠見 孝
- PA25 導入的概念地図法における概念想起について
—概念地図法との比較—
- 浦和大学 ○皆川 順美
長岡技術科学大学大学院 皆川 浩美
- PA26 歩き遍路体験を主題とする俳句の創作と学びの質
との関係
- 鳴門教育大学大学院 皆川 直凡
- PA27 先行オルグと閲読後の内容討議での役割による散
文理解の促進(III).
—2次元での類推—
- 大阪教育福祉専門学校 光田 基郎
- PA28 授業における「問い合わせ」の問題
—対話主義授業論の立場から—
- 早稲田大学 宮崎 清孝
- PA29 ピア・コーチングの会話分析
—RIAS転用の可能性—
- 関西医科大学 ○西垣 悅代
立命館大学大学院 藤村 あきほ
- PA30 授業における座席の総合的研究
—3区12方式の図絵を用いて—
- 元九州女子短期大学 大庭 茂美

PA31	大学生の共食に対する態度の測定と共食教材の効果の検討	富山大学	小川亮
PA32	メタ認知方略を組み込んだタブレット端末利用による算数問題解決（2）	神戸親和女子大学 関西福祉科学大学	○多堀千絵
PA33	偶発記憶における自己選択効果と選択規準 —生存欲求規準と自己準拠規準の比較—	奈良教育大学	豊田弘司
PA34	3年次学生調査における大学入学後の能力向上と主体的学びとの関連	大学入試センター	山地弘起
PA35	黙読時における眼球運動への朗読予告による影響 その2 —物語の結末部を中心に—	法政大学	福田由紀
PA36	高校初年次生の教科理解におよぼす構造方略の影響 —理解不振につながる影響過程の存在—	立命館大学 立命館大学	○山織田博樹涼
PA37	ポストモダンにおける大学生の成長モデルと時間的展望獲得に関する探索的研究（3） —心理学に対するイメージの計量テキスト分析—	大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学	○川坂佐久田奥上浩祐浩之子亮#
PA38	例を用いた負数の概念の説明	愛知教育大学	伊藤俊一
PA39	3つの「わかる」で評価する授業分析法の提案	大分大学	藤田敦
PA40	女子高校生における学業的自己概念の内的な準拠枠 —教科の成績の個人内評価に着目して—	東北大学 聖徳大学 聖徳大学	○宮相鈴木友順悦弘子
PA41	進路と部活に関する自伝的記憶を想起した時の感情状態変化に関する研究 —想起テーマの特定性を要因に加えて—	中央大学	兵藤宗吉
PA42	児童期における多様性理解の様相 —相対主義と寛容性の観点から—	東京大学大学院 東京大学大学院 東京大学大学院	○池田慎之介福太田莉絵梨子
PA43	児童の相対主義的理の理解および寛容性を伸ばす道徳授業の実践 —意見の背後にある価値観の理解に着目して—	東京大学大学院 東京大学大学院 東京大学大学院	○太田繪梨子福池田莉慎之介
PA44	比例を活用した教授方略が内包量概念の理解に及ぼす影響（1） —割合比較課題の分析を中心に—	修紅短期大学 兵庫教育大学	○蛯名正司
PA45	比例を活用した教授方略が内包量概念の理解に及ぼす影響（2） —割合合成課題の分析を中心に—	兵庫教育大学 修紅短期大学	○宮田佳緒里 蛯名正司

社会

PA46	幼稚園連絡帳にみる家庭との関係構築のルールについて	常葉大学 日本体育大学 甲南女子大学 首都大学東京	○高尾高梅山向良崎勇山徳行一郎
PA47	大学新入生の社会的能力と友人関係特徴	香蘭女子短期大学	遠矢幸子

PA48	大学生の運動系部活動における動機づけに心理的欲求が及ぼす影響	島根大学 島根大学	○村 岩	瀬 崎	俊 俊	樹 俊	#
PA49	保護者と保育者による子どもの発達評定の差異に関する文化比較	首都大学東京 法政大学 常葉大学 甲南女子大学 ソウル神学大学校	○山 小 高 梅 玄	際 湊 崎 崎 正	勇一郎 真 向 高 行 焕	郎 衣 # 山 行 焙 #	
PA50	教育に関する語の記述的意味と情緒的意味 —語の価値化傾向の文脈による変化—	清泉女子大学	吉 岡 昌	昌 紀			
PA51	教育学部生の教職志望意識と自己・他者・職業への信頼	滋賀大学	若 松	養 亮			
PA52	デートDV加害経験と愛着スタイル及び感情価との関連	昭和学院短期大学	松 野		真		
PA53	保育士の専門性とキャリアコミットメント —保育士の属性と専門性認知について—	梅花女子大学 梅花女子大学	○太 阿	田 部 晋	仁 吾		
PA54	中学校の総合的学習への介入とその継続について の研究 —カリキュラム変更のプロセスとその効果—	東京都市大学	中 村	雅 子			

人格

PA55	なりたい親についての研究－共感性との関係	法政大学	櫻 井 登世子				
PA56	ふれ合い恐怖的心性と自己愛の関連についての試論	金沢大学	岡 田 努				
PA57	M.E.P.Seligman (2011) の well-being の理論的構造に関する実証的再考 —PERMAモデルにおける幸福感項目のふるまいについて—	信州大学 株式会社フェスティナレンテ	○田 中 塩 彩	中 敏 衣 #			

臨床

PA58	日本版SWPBIS (学校環境におけるポジティブな行動介入及び行動支援) の導入と効果に関する実践研究 —日本版「Good Behaviorチケット」の開発と活用を通して—	立命館大学大学院 寝屋川市立啓明小学校	○枝 松	廣 康	和 成		
PA59	児童養護施設退所者の支援の課題の検討 —自立とアフターケアに対する若年層の認識とその変化から—	恵泉女学園大学	齋 藤		鶴		
PA60	幻聴をともなう統合失調症の青年を、医療とのコラボはもちろん、メール、電話、面談、そして社会活動も支援することで、寛解に導こうとするカウンセラーの2年間の試み	青山学芸心理	高 山		智		
PA61	包括的支援アプローチ適用による断続欠席を呈する中学生への継続登校支援 —不安・体力・社会性評価及び主張反応法適用条件の検討—	明治学院大学 筑波大学大学院	○小 江	野 角	昌 周	彦 子	
PA62	ストレッサーに対する納得という教師の方略	岩手大学大学院 岩手大学大学院	○山 大	本 谷	本 哲	獎 弘	

特別支援

- PA63 フィンランド公立学校におけるインクルーシブ教育の実践からの示唆
—日常的な支援のあり方に着目して—
- PA64 妨害刺激のある表情刺激に対する視線追跡の特徴
—自閉スペクトラム症大学生と健常大学生の比較—
- PA65 日本語の発達性書字障害のサブタイプ
—認知障害の種類によるディスレクシア児の分類—
- PA66 富山県の幼稚園における小学校との連携の実態
—特別支援教育の観点から—
- PA67 特別支援教育コーディネーターの実践における成果と課題の検討
—自由記述の頻出単語を手がかりとして—
- 東京学芸大学大学院 中田明香
早稲田大学 ○佐々木和義
埼玉福祉・保育専門学校 柳忠宏
- 明星大学 杉本明子
富山大学 小林真
聖徳大学 ○腰川一恵
帝京短期大学 芳賀明子

学校心理学

- PA68 幼児対象の社会性と情動の学習(SEL-8N)プログラムの実践効果
—保護者評定を含めた検討—
- PA69 中学生のストレス反応と教師による支援との関連
—大学生との比較から—
- PA70 教師のダブルスタンダード化した指導が小学生に受容される要因に関する研究(2)
- PA71 中等教育における総合的な学習に関する学び方の質的検討
- PA72 教員・保育者をめざす大学生の自己理解(2)
—エゴグラム実施半年後の事後調査—
- PA73 職場体験と保育系短大生
—体験は進路選択に影響するが、現実は厳しかった—
- PA74 高校における「いじめ認知」に関する実証的研究
- PA75 保育実践力に及ぼす保育実習後の保育に対する自信の影響
—子どもや保育者への関わりに関する自信に注目して—
- PA76 教職課程大学生の模擬授業経験による授業イメージの変化
—熟達化モデルから反省的実践家モデルへの移行—
- 島根県立大学短期大学部 ○山田洋平
福岡教育大学 小泉令三
- 鹿児島市立皇徳寺中学校 ○今村慎吾
鹿児島大学 関山徹
- 福山市立大学 ○小林下
高知市立一ツ橋小学校 林村綾菜#
- 敬和学園大学 益谷真
桜花学園大学 ○小嶋玲子
元桜花学園大学 河内晴美
- 名古屋芸術大学 大久保義美
- 岩手大学 藤井義久
鳴門教育大学 ○田村隆宏
鳴門教育大学 木村直子
関西学院大学 谷村宏子#
- 新潟医療福祉大学 遠山孝司
岡山大学 三宅幹子

PA78	ユニバーサル学校予防教育「自己信頼心（自信）の育成」プログラムの効果 —児童用紙筆版セルフ・エスティーム潜在連合テストを用いた自律的セルフ・エスティームへの教育効果の検討—	兵庫教育大学 ○横嶋敬行 兵庫教育大学 賀屋育子 鳴門教育大学 内田香奈子 鳴門教育大学 山崎勝之
PA79	児童用の他律的（隨伴性）セルフ・エスティーム尺度の開発 —尺度の信頼性と妥当性の検討、そして教育への適用の考察—	兵庫教育大学 ○賀山口悟史 [#] 鳴門教育大学 横嶋敬行 兵庫教育大学 内田香奈子 鳴門教育大学 山崎勝之
PA80	認知能力因子と習得能力因子の相関関係	法政大学 服部環
PA81	論理的思考に人称視点と不安および情動が及ぼす効果についての研究	金沢大学 ○大岸通孝 金沢大学 中田順平 [#]
PA82	新共通テスト（イメージ例）が測定する資質・能力の分析（2） —第1回モニター調査結果からの示唆—	東北大学 ○倉元直樹 東北大学 宮本友弘

ポスター発表B

10月7日（土） ポスター掲示時間 13:00～15:00
在席責任時間 奇数番号13:00～14:00 偶数番号14:00～15:00

発達

- PB01 幼児期における全体一部分知覚と自己制御・実行機能との関連性
—知覚発達から自己制御はわかるのか？—
江戸川大学 ○野 落 満
江戸川大学 合 洋 子#
- PB02 母親の育児語使用と言語発達観
大阪総合保育大学 ○小 増 たみ子
大阪総合保育大学学院院 田 珠 巳#
京都市山科・深草保健福祉センター 平 井 純 子
浜 辺 直 子#
- PB03 保育者効力感と子どもへの関心に及ぼす保育園における体験的実習の影響
東海学園大学 ○龍 小川内 祐 吉
尚絅大学短期大学部 小哲 生
- PB04 4～6歳児のストーリーナラティブの評価指標の検討（2）
—ナラティブ発達評価指標作成に向けての基礎研究—
帝京平成大学 ○瀬 秦 戸 淳 子
白百合女子大学 野 悅 子
- PB05 幼児の社会道徳的逸脱場面における親の領域調整と関わり方
埼玉大学 ○首 藤 敏 元
東北福祉大学 利根川 智 子#
岡山県立大学 樺 本 千 里
仙台白百合女子大学 上 岡 紀 美#
- PB06 手指活動における操作性の高さと前頭前野の活動
—近赤外線分光法を用いた検討—
愛知東邦大学 橘 廣
- PB07 ATLAN音韻意識検査の作成と妥当性評価
大阪教育大学 高 橋 登
- PB08 テレビ視聴に対する親のかかわりと子どもの言語発達との関連
—乳児期から児童期までの縦断調査から—
お茶の水女子大学大学院 ○菅 松 原 ま すみ
お茶の水女子大学 室 橋 弘 人
金沢学院大学 酒 井 厚
- PB09 大学生のコミュニケーション能力に与える部活動経験の影響
大分県立芸術文化短期大学 藤 田 文
- PB10 思春期の問題行動に対する青年期のとらえ直し（2）
—思春期の不登校に対する大学生の見方の変容—
広島国際大学 鹿 嵐 達 哉
- PB11 子どもの言語表現の発達的検討
—実験場面についての報告のテキストマイニングによる分析—
関西国際大学 吉 村 啓 子
- PB12 母子遊び場面で観察された母親による発達初期の子どもへの意思決定支援
川村学園女子大学 ○蓮 川 見 元 子
東海学院大学 嶋 健太郎
川村学園女子大学 北 原 靖 子
- PB13 児童館での学生のボランティア活動が幼児の遊びや母子関係に与える影響について
帝京大学 新 谷 和 代
- PB14 親になるための共感性におよぼす養育環境の影響
—女子学生の要因について—
中京学院大学 ○高 安 田 理 衣
愛知みずほ大学 念 保 昌
- PB15 親になるための共感性におよぼす性と愛着要因の影響
—養育環境とのかかわりにおいて—
愛知みずほ大学 ○安 高 田 保 昌
中京学院大学 念 保 衣

PB

PB16	小学校教員の自主・向上性と教師効力感・被援助志向性・教職のやりがい感との関連	早稲田大学大学院 早稲田大学	○森 永 秀 典 河 村 茂 雄
教授・学習・認知			
PB17	リバウンドしやすい知識とリバウンドしにくい知識	東北生活文化大学	植 松 公 威
PB18	小学校1年生における算数文章題の場面理解に関する研究	東京大学大学院	末 松 加 奈
PB19	自由度の高い学習状況の活用にかかわるスキル —CPFOSTを用いた検討—	南山大学 駿河台大学 日本福祉大学 愛知教育大学	○浦 上 昌 則 杉 英 晴 矢 裕美子 高 瞳 美
PB20	大学生におけるADHD特性とコーピングが心理的適応に及ぼす影響に関する研究 —コーピング柔軟性に焦点を当てて—	駿河台大学大学院 駿河台大学大学院	○松 川 奉 央 永 作 稔
PB21	保育系学部女子学生におけるピアノ学習に対する意識 —入学後1年間の変化から—	東京成徳大学	富 山 尚 子
PB22	I C T導入によるカリキュラムのアクティブラーニング化と教員の変化	宮城教育大学 宮城教育大学 宮城教育大学	○平 田 真木夫 幡 憲 一# 安 藤 明 伸#
PB23	大学生の研究に対する態度構造を探る —学部新卒院生のPAC分析を通して—	NPO日本語教育研究所	石 橋 玲 子
PB24	映像資料のノートテイキングにおけるワーキングメモリの影響(2)	熊本学園大学	中 村 光 伴
PB25	小論の作成・推論時に書き手は何を重要視するか —継続した協同推敲活動が書き手の意識の変容に与える効果—	東北大 千葉工業大学	○深 市 谷 優 子 川 洋 子
PB26	参勤交代に関する児童の認識の様相について —小学6年社会科の授業実践を通して—	兵庫教育大学大学院 和歌山市立新南小学校	○吉 前 国 秀 人 國 浩 伸#
PB27	中学校での協同学習が自己効力感並びに友人との学習活動に及ぼす影響 —内的作業モデルから見た効果検証—	関西福祉科学大学 関西福祉科学大学 関西福祉科学大学	○川 野 敬 子 鎌 田 次 郎 谷 向 みつえ
PB28	講義型授業における「問い合わせ」の提示とディスカッションおよび予習課題に対する評価	京都ノートルダム女子大学 京都ノートルダム女子大学	○尾 松 崎 仁 美 島 仁 美
PB29	モンティ・ホール・ジレンマにおける規範的意思決定の阻害要因の検討 —現状維持バイアスと自己決定感の側面から—	弘前大学 株式会社ノバレーゼ	○吉 後 中 藤 玲 淳 後 玲 奈#
PB30	大学生は「学ぶ」と「研究する」をどう認識するのか(1)	大阪市立大学	西 垣 順 子
PB31	教科教育におけるプログラミング学習による思考力の育成 —小学校5年生電流の流れのシミュレーション—	東京工業大学 大阪大学 東京工業大学 東京工業大学	○栗 齊 山 直 子 齊 藤 貴 浩 森 秀 樹# 西 原 明 法#

PB32	中・高校生女子における学業的自己概念と自己価値	聖徳大学 東北大学 聖徳大学	○相良 宮鈴 木	順友 悦子	弘子
PB33	中学校「授業は英語で行うことを基本とする」後の生徒の学習方略の変容と学習動機	香川大学教職大学院 元香川大学教職大学院	○齋大 藤西	嘉範	則英#
PB34	Kit-Build概念マップとScratch-Build概念マップからみた授業内容の能動的受容とレポート評価との関連	玉川大学 玉川大学 目白大学 目白大学 広島大学 広島大学	○宇茅 島市 林平	井路 島村 美雄 嶋	美代子 子帆# 介宗#
PB35	講義型授業開始時における「問い合わせ」の提示および予習に対する評価について	京都ノートルダム女子大学 京都ノートルダム女子大学	○松尾	島崎	るみ 仁美
PB36	JFL環境における日本語学習者の漢字学習への興味 —メキシコの学習者を対象に—	北海道大学 北海道大学	○小佐	林藤	由子 梓
PB37	中学校ではどのような批判的思考教育が行われているか?			琉球大学	道田泰司
PB38	アイデンティティに基づく学習動機づけ形成のエピソード —大学生を対象とした回顧法による自由記述から—			静岡大学	伊田勝憲
PB39	英語および英語学習に対する信念の構造と自己効力感との関係	信州大学 信州大学 信州大学	○島鈴 田中江	英昭 俊太郎# 扶#	昭子
PB40	地域の伝統的工芸品を活用したキャリア教育における外部との連携			上越教育大学	城間祥子
PB41	講義資料への書き込みおよび資料参照による授業内容理解への影響			玉川大学	魚崎祐子
PB42	大学生を対象としたライティング反転授業におけるeラーニングの効果	公立はこだて未来大学 公立はこだて未来大学	○富椿	永敦 本弥	子生
PB43	ライティングの反転授業が文章産出困難感に与える影響	公立はこだて未来大学 公立はこだて未来大学	○椿富	本永 敦	生子
PB44	不適切な読解表象はいかに形成されるか(1) —説明的文章に関する大学生の「まとめ」の分析—	札幌学院大学 東北大学	○舛田 舛工	弘藤	与志文
PB45	不適切な読解表象はいかに形成されるか(2) —説明的文章に関する大学生の「まとめ」の分析—	東北大学 札幌学院大学	○工舛	藤弘	与志文
社会					
PB46	他児との人間関係に困難を抱える子どもの認知変容のプロセス	東京純心大学	小沼	豊	
PB47	運動部員の部活動への適応感における部の連帶性と顧問教師の育成指導との関係	高知学園短期大学	吉村	齊	
PB48	大学からのサポートと大学の魅力の関連 —学生の性格の調整効果—	愛知学院大学	高木	浩人	

PB49	大学生の目標階層に関する探索的研究 —面接法による検討—	学習院大学 伊藤忠弘
PB50	看護系大学生の休学や留年における有効な支援	長野県看護大学 松本淳子
PB51	社会的スキルとオンライン上のコミュニケーションスキルの関連性	上越教育大学 ○石川真美 白鷗大学 平田乃美
PB52	教師との関係形成における児童の主体性が学級適応感に及ぼす効果についての予備的調査 —道具性と情緒性の2機能を考慮して—	愛知教育大学 ○弓削洋子 名古屋市立常安小学校 齋田裕香#
PB53	大学生における稼得意識の検討（1） —稼得意識と経済への関心度の男女差—	四天王寺大学 ○上野淳子 武庫川女子大学 松並知子
PB54	大学生における稼得意識の検討（2） —職業観と平等主義的性役割態度との関連—	武庫川女子大学 ○松並知子 四天王寺大学 上野淳子

人格

PB55	大学生の日常的な抑うつに関わるストレッサーと対処行動	北星学園大学 柴田利男
PB56	大学生のレジリエンス要因と原因帰属の関連 —原因帰属のスタイルと複雑性との関連から—	安田女子大学 ○池田智子 安田女子大学学院 山下純枝 安田女子大学学院 小澤靖子
PB57	芸術・創作活動の実施経験と特性的自己効力感との関連	関西福祉科学大学 宇惠弘

臨床

PB58	青年期の機能的ヘルス・リテラシー尺度の開発 —functional health literacy scale for adolescents / young adults (funHLS-A/YA)—	名古屋商科大学 ○椿田貴史 名古屋商科大学 川副延生# 名古屋商科大学 市川真帆子#
PB59	心理教育プログラム実施者の実施前後での心理的適応および効力感の変化 —発達障害児を対象とするCBTプログラムPEACEの放課後等デイサービスでの実践について—	鳥取大学 ○石本雄貴 徳島文理大学 松本有貴 神戸大学学院 山根隆宏
PB60	保育者の共感性と共感疲労経験および精神的健康との関連	宮城学院女子大学 ○木内和代 東洋大学 野田千春
PB61	アドベンチャー教育における体験学習サイクルのスパイラルアップと参加者の学びをより深化させる「学業支援ツール」の開発およびその活用事例—リフレクションと自己対峙の充実を目指して—	東京工業大学 ○石川広子 帝塚山大学 閔国智
PB62	大学生のグループ活動におけるコンセンサスの影響	聖徳大学 ○鈴木由美 豊岡短期大学 大塚貴之

特別支援

PB63	保育現場における3・4・5歳児の「気になる子」を含む保育の課題と保育者のニーズ —3・4・5歳児クラス担任インタビュー調査より—	大阪健康福祉短期大学 野村朋
PB64	知的障害児の行動調整能力の向上に向けた教員への支援	和歌山信愛女子短期大学 村上凡子

PB65	特別支援学級における外国語活動：ルートマップ的ループリックを活用したアウトプットの積極的評価	愛媛大学 ○中 旭川市立豊岡小学校 旭川市立豊岡小学校 愛媛大学 関東学院大学	山 塚 坂 浦 優 広	晃 美 貴 生 毅
PB66	特別支援教育における教員の役割に関する研究 (6) —教員のタイプ別の特別支援教育における外部との連携等の関係—	池坊短期大学 帝京科学大学 鹿児島大学	○林 石 橋 今 幸 裕	範 子 俊
PB67	特別支援教育における教員の役割に関する研究 (7) —小学校での特別支援教育における教員サポートの実践について—	帝京科学大学 池坊短期大学 鹿児島大学	○石 林 橋 今 幸 裕	子 範 俊

学校心理学

PB68	過去に出会った教師に対する大学生の見方	東日本国際大学	伊 尻 正 一
PB69	学級集団の状態ごとの生徒の認知する教員のユーモア行動との関係	早稲田大学大学院 ○河 早稲田大学 河	村 昭 博 村 茂 雄
PB70	高校生対象のスクール・学級・個別ワイドによるSSTの効果	東京情報大学 法政大学	○原 田 恵理子 渡 辺 弥 生
PB71	学級経営尺度の作成	Christ University 常葉大学大学院	○松 本 みゆき 石 川 美智子
PB72	児童の積極的授業参加に関する研究（30） —クラスの集団構造からの検討—	岐阜聖徳学園大学 日本福祉大学 明星大学	○安 藤 史 高 小 平 英 志 布 施 光 代
PB73	教師の学級指導行動が児童の心理的欲求の充足に及ぼす影響 —教師の学級指導行動尺度の作成—	愛知教育大学 岩津小学校	○石 田 靖 彦 下 岡 奈 央
PB74	『人生すごろく』を介した学習とアイデンティティについての検討 —高校三年生の社会科授業実践の分析をもとに—	兵庫県立大学	保 坂 裕 子
PB75	専門的ヘルパーはどのような学習支援を行っているのか —教育現場における中学・高校生への支援の内容—	筑波大学大学院 ○児 玉 裕 已 筑波大学 外 山 美 樹	
PB76	いじめられる側にも問題があるって本当ですか？ その9 —被害・加害経験および自己関連づけが被害者への有責性認知に及ぼす影響—	甲南大学 こいでクリニック	○福 小 井 義 聰 一 玉 山 孫 子
PB77	高校生における情動知能と学校適応 —EQSの下位概念間の関連から—	近畿大学 名古屋大学大学院	○小 赤 泉 隆 平 赤 松 大 輔
PB78	ロールレタリングを導入した教育実習支援に関する研究	金沢星稟大学	岡 本 泰 弘
PB79	大学における初年次合宿研修に参加した新入生の研修効果について —2016年度帝京大学教育学部初等教育学科初等教育コースの場合—	立正大学大学院 多摩市立愛和小学校 帝京大学	○星 藤 由 聰 紀 豊 藤 井 真 豊 山 村 豊

PB80 大学における初年次合宿研修に従事した上級生の態度構造について
—2015年度帝京大学教育学部初等教育学科初等教育コースの場合—

多摩市立愛和小学校 ○藤 井 真 紀哉
立正大学大学院 星 田 由 豊
帝京大学 山 村

測定・評価・研究法

PB81 異質な他者とのコミュニケーション尺度作成の試み
—アドラーの共同体感覚に着目して—

東京外国语大学大学院 加 藤 慧

PB82 風変わりな相関係数
—楕円一様分布のおもしろい性質—

早稲田大学 椎 名 乾 平

PB83 中学生の成人力
—PIAACとPISAの問題による調査の結果—

国立教育政策研究所 吉 岡 亮 衛

ポスター発表C

10月7日（土） ポスター掲示時間 15:30～17:30
在席責任時間 奇数番号15:30～16:30 偶数番号16:30～17:30

発達

PC01	日々の母娘関係の一分析 —母の認知する母娘関係の因子比較—	太成学院大学 関西大学	○小紺 高広 恵明#
PC02	現代の若者の価値観と生活満足度	三重大学	南学
PC03	10代群、40代群、高齢者群における生涯発達項目 に関する認知	金城大学	奥田裕紀
PC04	思春期の母子間葛藤と養育態度の変化 —3時点の縦断調査より—	皇学館大学 名古屋大学	○渡邊賢二 平石賢三
PC05	女子大学生用キャリア発達尺度の妥当性の検証 (1) —男子大学生との比較から—	昭和女子大学大学院	木川智美
PC06	児童期の情動発達とその特異性に関する研究1 —「気になる」児童の情動発達の特徴—	東北大学 聖和学園短期大学 石巻専修大学 鳥取大学 京都教育大学	○本郷一夫 飯島典子 平川久美子 高橋千枝 相澤雅文
PC07	児童期の情動発達とその特異性に関する研究2 —「気になる」行動の特徴—	聖和学園短期大学 石巻専修大学 鳥取大学 京都教育大学 東北大学	○飯島典子 平川久美子 高橋千枝 相澤雅文 本郷一夫
PC08	児童期の情動発達とその特異性に関する研究3 —「気になる」児童の行動特性と表情および言葉による情動表現との関連—	石巻専修大学 鳥取大学 京都教育大学 東北大学 聖和学園短期大学	○平川久美子 高橋千枝 相澤雅文 本郷一夫 飯島典子
PC09	児童期の情動発達とその特異性に関する研究4 —「気になる」児童の行動特性と情動理解および共感との関連—	鳥取大学 京都教育大学 東北大学 聖和学園短期大学 石巻専修大学	○高橋千枝 相澤雅文 本郷一夫 飯島典子 平川久美子
PC10	児童期の情動発達とその特異性に関する研究5 —情動抑制と誇り・恥の特徴—	京都教育大学 聖和学園短期大学 石巻専修大学 鳥取大学 東北大学	○相澤雅文 飯島典子 平川久美子 高橋千枝 本郷一夫
PC11	成人を対象としたファイナンス効力感尺度の開発	東北大学	神谷哲司
PC12	保育者の退職に結びつく＜資質＞の検討 —管理職へのインタビュー調査から—	常葉大学 和光大学	○山坂本敬子
PC13	高学年児童の学級活動での初期の話し合い進行における教師の介入	千葉大学教育学部附属小学校	○岩佐美保翔#
PC14	児童の防犯行動に関わる社会的情報処理メカニズム	甲南女子大学	畠山美穂

PC

PC15	ミラーリングプログラムの効果検証 —ミラーリングの増加は母子交流を促すか—	名古屋大学大学院	井 手 裕 子
PC16	2歳児クラス集団における自己主張の発達	仁愛大学	鈴 木 智 子
教授・学習・認知			
PC17	文章理解力の発達に及ぼす読書のジャンルの影響 —図書貸出数を用いた縦断研究による検討—	ルーテル学院大学 くらしき作陽大学 静浦小中一貫学校 関西大学	○上 田 紋 佳 猪 原 敏 介# 小谷田 照 代# 塩 谷 京 子#
PC18	受験競争観が学習動機づけに与える影響 —英語学習における仮想的有能感に着目して—	東京外国語大学大学院	馬 場 正太郎
PC19	留学体験等のふりかえりに大学の授業はいかに貢献しうるのか —学問知と実践知を統合する「世界と越境するフォーラム」の試み—	東京外国語大学	田 島 充 士
PC20	児童養護施設における個別学習支援プログラムの効果検証 —児童および大学生の変化の関連—	福山大学 関西学院大学 関西福祉科学大学	○赤 澤 淳 子 桂 田 恵美子 谷 向 みつえ
PC21	看護学生の死生観に関する調査 —死別体験の有無による比較—	大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学	○藤 田 和加子 石 井 あゆみ 徳 珍 温 子
PC22	学級規模と児童の授業参加 —身体運動周波数の偏差に着目して—	国立教育政策研究所 北海道大学 文教大学 高松大学 国立教育政策研究所 城西国際大学	○山 森 光 陽 伊 藤 崇 子 中 本 大 仁 高 徳 善 広 萩 原 広 大 内 広
PC23	私たちは、どのように折り紙を折っているのか? (21) —幼児における円形折り紙の変形方略の分析—	至学館大学	丸 山 真名美
PC24	メタ認知能力を育成する試み (6) —「頭の中の先生」の言葉の評価・賞賛を中心とした2016研究の遅延効果—	北海道教育大学 札幌市立明園小学校	○吉 島 貴 静
PC25	友人関係への動機づけの違いとグループ活動への動機づけの変化 —大学初年次教育における検討—	いわき明星大学	名 取 洋 典
PC26	対話型授業における学習者の理解度と学習態度の変容の検討	公立はこだて未来大学	辻 義 人
PC27	教育に関する信念と批判的思考態度 —教職課程履修者における検討—	大阪音楽大学短期大学部	平 山 る み
PC28	授業内容に関する質問・解答作成の効果 —大学の講義型授業における取り組み—	東京未来大学	小 林 寛 子
PC29	質の高い要約文章作成のためには何が重要か —読み手及び書き手としての意識とメタ認知の影響—	北海道教育大学 札幌市立札苗緑小学校	○懸 田 孝 一 松 村 美 #
PC30	問い合わせ型授業において学習者が見出した問い合わせの手順は深い問い合わせの生成に有効か	別府大学短期大学部	向 井 隆 久

PC31	経済学理論を適用した学習理論の構築 —ミクロ経済学の視点から—	春日井市立鳥居松小学校	西 谷 寿
PC32	いじめ防止教育のアクティブ・ラーニングによる取組み	東京電機大学 東京電機大学 東京電機大学	○今 野 紀 子 土 肥 一 治 宮 川
PC33	文字の音声情報が読解行動に及ぼす影響 —音読と読み聞かせの比較から—	日本学術振興会／東京大学	高 橋 麻衣子
PC34	日本における各教科等の学びで育成可能なコンピテンシーの構造	東京学芸大学	関 口 貴 裕
PC35	協調的問題解決授業において多様な考え方の関連づけを可能にする課題のデザイン	静岡大学 静岡県伊東市立対島中学校 静岡県伊東市立東小学校	○河 崎 美 保 遠 藤 男 # 堀 野 介 #
PC36	教室の学びを支える児童のきく力尺度の作成	早稲田大学大学院 早稲田大学	○宮 内 健 春 向 千
PC37	初年度大学生の学業生活に対する親和性 —クラスティングによる学習スタイルの差異との関係性—	金沢学院短期大学	鈴 木 賢 男
PC38	保育職を目指す大学生における実習の意味づけと学習意欲について —質問紙調査からの検討—	愛知淑徳大学	小 野 美 和
PC39	小学校におけるBLS教育の有効性に関する検討 —道徳的アプローチによる実践—	名古屋経済大学大学院 鹿児島テレビ放送株式会社	○矢 野 正 博 # 吉 井 博
PC40	お互いのテーマが大きく異なる場合のピア・レスポンスにおける意見の述べ方	国際教養大学	石 毛 順 子
PC41	英単語に対する難度感について (2) —語の心理的長さ—	大同大学 大同大学 名古屋工業大学 京都大学大学院	○浅 井 淳 博 # 小 西 章 典 # 石 川 有 香 # 松 岡 真由子
PC42	閲覧時の教示方法が後の検索行動に与える影響 (1) —閲覧時間、閲覧ページ再認、サイト属性予測—	早稲田大学 株式会社ビースカイネット 早稲田大学	○大 津 嘉代子 植 木 祐 介 # 阪 脇 孝 子
PC43	閲覧時の教示方法が後の検索行動に与える影響 (2) —サイトの有用性評価に焦点を当てて—	早稲田大学 株式会社ビースカイネット 早稲田大学	○阪 脇 孝 子 植 木 祐 介 # 大 津 嘉代子
PC44	保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究III —保育実習IとIIのヒアリング調査から—	四天王寺大学 東海市教育委員会	○小 川 圭 世
PC45	保育所実習において学生が抱く感情についての調査研究IV —保育実習IとIIの質問紙調査から—	東海市教育委員会 四天王寺大学	○鎌 田 陽 世 小 川 圭 世
PC46	規範逸脱行動に関する規範意識および行動基準における母子間の関連	奈良教育大学	出 口 拓 彦

社会

PC46	規範逸脱行動に関する規範意識および行動基準における母子間の関連	奈良教育大学	出 口 拓 彦
------	---------------------------------	--------	---------

PC47	子どもの家庭でのPC利用環境を規定する要因 —ケイパビリティ・アプローチの観点から—	白百合女子大学生涯発達研究 教育センター 星槎大学	○黒石憲洋 斎藤俊則#
PC48	視点取得・共感性・マキャベリアニズムがボランティア参加に及ぼす影響	東海大学短期大学部	小池はるか
PC49	幼稚園教諭による教育支援が子どもの学習機会や意識に与える影響	名古屋経営短期大学	岡本弘子
PC50	女子大学生の教育実習にまつわる不安 (3) —不安軽減を図る心理的介入—	津田塾大学 津田塾大学	○吉高垣麻奈美 マユミ
PC51	中学校内で起きるネットいじめの予測	愛知教育大学	黒川雅幸
PC52	保育者の離職意思に影響する要因 —業務困難感、昇進不希望、ならびに個人要因による検討—	和光大学 常葉大学	○坂井敬子 山本睦
PC53	中学生のいじめ経験と認知のゆがみ	甲南大学	大西彩子

人格

PC54	性格特性の5因子とツイッター利用動機・インターネット依存傾向の関連	名古屋市立大学 東海学園大学	○天谷祐子 伊織
PC55	新設四年制大学における学生生活とキャリア発達およびメンタルヘルスとの関連 (6)	福山市立大学	高澤健司
PC56	森田神経質と認知的コーピングが精神的健康に及ぼす影響	信州大学 広島大学学院	○清水健司 代

臨床

PC57	児童生徒理解のための多次元尺度の開発 (1) —項目収集と入力システム—	奈良女子大学 奈良女子大学 埼玉純真短期大学 奈良女子大学学院 奈良女子大学	○伊藤美奈子 森文 金子恵美子 向出章子 古賀裕美
PC58	児童生徒理解のための多次元尺度の開発 (2) —教師の視点を加えた妥当性の検討—	奈良女子大学 奈良女子大学 埼玉純真短期大学 奈良女子大学学院 奈良女子大学	○森下文 伊藤美奈子 金子恵美子 向出章子 古賀裕美
PC59	児童生徒理解のための多次元尺度の開発 (3) —発達的観点からの児童生徒理解—	埼玉純真短期大学 奈良女子大学 奈良女子大学 奈良女子大学学院 奈良女子大学	○金子恵美子 伊藤美奈子 森文 向出章子 古賀裕美
PC60	いじめの深刻化要因の検討 —学級の荒れに注目して—	北海道大学 常葉大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学	○加藤弘通 太田正義 水野平基 濤岡優基 木下弘基 侯玥江#

PC61	中学生の相互独立性・相互協調性と学業ストレッサーへの認知的評価との関連 —友人からのソーシャル・サポートを統制した検討—	立正大学 筑波大学 東京女子体育大学・ 東京女子体育短期大学 東京学芸大学	○奥野誠一 口佳和 田島真沙美 霜村麦#
------	---	---	-------------------------------

特別支援

PC62	障害のある幼児の記録から保育者は何を読み取るか —SCATによる実践知解読の試み—	名古屋市立大学 名古屋柳城短期大学 桜花学園大学	○上荻勝 田原浦 敏はるみ 眞仁
PC63	健診時要フォロー児の適応状況に関する教師と保護者の認識 —就学前の健診から小学校高学年までの縦断調査から—	名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学	○若福野 林元邑 紀健二 乃英二#
PC64	自閉スペクトラム症の成人における心情理解と援助動機	京都大学 福井大学 福井大学	○米坂 田浩秀 英彦#
PC65	障害児保育における保育者の熟達化 —保育困難感の分析を通して—	白梅学園大学	廣澤満之
PC66	保育学生に対するTeacher Trainingの実践（1） —スキル、知識及び効力感における変化の検討—	弘前大学 比治山大学	○松濱田 田侑祥 子子

学校心理学

PC67	子ども同士で感謝と賞賛を伝え合うPPR(Positive Peer Reporting)の有効性の検討 —カードの記入枚数に着目した分析—	寝屋川市立啓明小学校 立命館大学大学院	○松枝山廣康 成和憲
PC68	通常学級における集団隨伴性の適用 —授業開始時の適応行動の増加を目指した取り組み—	寝屋川市立啓明小学校 寝屋川市立啓明小学校 大阪樟蔭女子大学	○沖松田原山中 原総康善太 成大
PC69	教師の認知と生徒のいじめ経験との関連 —教師の効力感と学級風土を指標とした検討—	広島修道大学	西野泰代
PC70	小規模中学校における予防的心理教育プログラムの効果 —対人関係ゲームと構成的グループエンカウンターを用いた実践—	日本文理大学	高橋淳一郎
PC71	小学生における無気力感メカニズムの検討 —学年別データによる検討—	大阪教育大学	牧郁子
PC72	就職が決定したことにつかかる自己の選択に対する自己評価分類の試み —就職内定後のインタビュー調査から—	岩手大学大学院 岩手大学大学院 職業能力開発総合大学校	○大谷哲弘 山本獎浩 竹下
PC73	ネット会議システムを用いた学校連携プロジェクトにおける効果と課題の検討	福井大学	岸俊行
PC74	模擬ケース会議短縮版の検討 —多職種理解に焦点を当てて—	就実短期大学 大阪教育大学	○莉木まき子 森英嗣
PC75	学校評価GTO™ツールを用いたエンパワーメント評価実践の評価	東京福祉大学短期大学部 南山大学	○池田琴惠 池田満

PC76	学校動物への愛着尺度、飼育前不安尺度、学校動物飼育尺度の信頼性・妥当性の検討	大手前大学 中島由佳
PC77	教員による自律的貢献を促す学校組織特性 I	就実短期大学 鎌田雅史
PC78	大学生の抑うつ傾向に対する介入効果の検討（5） —性別によるLAC法の特徴—	神戸親和女子大学 ○松本麻友子 金城学院大学 中島奈保子
PC79	学生相談における危機レベルと精神的健康度との関連について —項目反応理論を用いて—	秋田大学 ○酒井涉 名古屋大学 森田美弥子 名古屋大学 野口裕之

測定・評価・研究法

PC80	類似判断における先行知識の影響	科学警察研究所 関陽子
PC81	センター試験における特異的多数出願者の年次推移 —大学進学意思決定と社会的要因—	独立行政法人 ○内田照久 大学入試センター 帝京大学 橋本貴充
PC82	ボーイスカウトにおけるキャンプの教育効果について	大妻女子大学 田中優

ポスター発表D

10月8日（日） ポスター掲示時間 10:00～12:00
在席責任時間 奇数番号10:00～11:00 偶数番号11:00～12:00

発達

PD01	社会性の発達に問題を有する対象児に対する教育実践 —課題の設定と複数の教授者が対象児を取り巻く構造の意義について—	大妻女子大学 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院	○向 霞 神 藤 竹 原 井 敦子 麻紗子# 波# 向子# 亜美# 田 奏 江#
PD02	中学生のいじめ場面における援助不安と共感性の関連	宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学	○石 中 米 清 泽 川 村 山 水 田 隆 真 文 奈名子# 匡 人
PD03	幼児用Highly Sensitive Child Scale日本語版作成の試み	広島修道大学	鈴木 亜由美
PD04	円の一筆描きにみられる描線動作の文化的特徴 一日・中・台・独の大学生を対象として—	獨協大学	田口 雅徳
PD05	保育士による担当クラス集団の認識と保育の困難さに関する研究2 —子ども同士の関係作りの困難さに着目して—	東北福祉大学	平川 昌宏
PD06	幼児の遊びにおける役割分担の生成過程 —砂場でのままごと遊びに焦点を当てて—	武藏野大学	箕輪 潤子
PD07	保育所における園内会議と保育士の効力感・ストレスの関連	城西国際大学 立正大学 国立教育政策研究所	○大内善廣 野澤義隆 萩原康仁
PD08	日本の子どもは外で自由に遊べなくなってしまうのか —安全管理意識の確認的因子分析による検討—	愛知みずほ大学	永井 靖人
PD09	女子大学生における親の期待内容の認知と親の期待に対する反応様式との関係	和洋女子大学	池田 幸恭
PD10	発達障害児の生涯発達支援における、特別支援教育と放課後ディサービスとの協働 —異業種間の認識の違い、支援ニーズの役割にスポットを当てて—	株式会社 クラ・ゼミ	鈴村 靖
PD11	保育者志望者の親準備性 —保育への自信とアイデンティティステイタスからの検討—	鈴鹿大学	杉山 佳菜子
PD12	感謝生起場面における認知と行動を左右する個人特性(1) —青年期の共感性に注目して—	高知工科大学 埼玉学園大学	○村上達也 藤原健志
PD13	感謝生起場面における認知と行動を左右する個人特性(2) —青年期の自己愛に注目して—	埼玉学園大学 高知工科大学	○藤村健志 原上達也
PD14	大学生の心理的成長や学修態度の向上を促すメンタリングについて(1) —ピア・メンターと自我同一性の検討—	金城学院大学 四国大学	○中島奈保子 内山有美

PD

PD15 大学生の心理的成長や学修態度の向上を促すメンタリングについて（2）
—メンターがいることで大学生活はどう変わるか？—

四国大学 ○内山有美
金城学院大学 中島奈保子

PD16 大学生の未来の明るさの評価に影響を与える要因の検討

姫路大学 日鴻淳子

教授・学習・認知

PD17 児童と教師の認識する教師がほめる理由

藤女子大学 青木直子

PD18 高校生に残る葉状图形求積数0.57の指導影響
—受験用便法指導は本当に無害なのか—

跡見学園女子大学 藤澤伸介

PD19 漢字の書字練習量とテスト得点の時系列分析（4）

早稲田大学 長澤誠

PD20 アクティブ・ラーニング形式による性教育指導に関する授業の学習効果
—教員志望学生を対象として—

國立館大学 郡司菜津美

PD21 音楽教育の経験に基づく成人の読譜力と自発的な音楽活動についての一調査

心泉學舎 牛久香織

PD22 ピグマリオン効果は本当なのか?
—教育現場での6年間の実験的研究結果からみる—

中部大学 胡琴菊

PD23 創造活動における生成したアイデアの評価の重要性と難しさ
—大学生を対象としたワークショップ型授業の検討から—

千葉大学 縣拓充

PD24 中学校理科における学習動機と科学的探究活動の関連

岩手大学 ○久坂哲也
岩手大学教育学部附属中学校 平澤傑

PD25 転移課題における概念の精緻化とその個人差
—情報処理スタイル（合理性－直観性）との交互作用—

高崎経済大学 木下まゆみ

PD26 反復的な振り返りを可能にするプレゼンテーション教育のデザイン

福岡工業大学 中野美香

PD27 小グループ学習時における教師による学習者への働きかけの特徴

新潟大学 一柳智紀

PD28 小学生への英語指導のための理論

法政大学 柿原直美

PD29 親による子どもの動機づけの質の認知の正確さについて

高知工科大学 ○福住紀明
University of Reading 村山航僚
同志社大学 石井一
同志社大学 石川僚
高知工科大学 村上信也
北海道大学大学院 大谷和大
University of Reading 横田美知子
高知工科大学 鈴木高志
同志社大学 田中あゆみ

PD30 大学生の時間管理に基づくタイプの類型化とタイプ別学習評定

高知大学 野中陽一朗

PD31	能動的学修科目を選択する学生の特性 —PBL科目を選ぶ動機とコンピテンシー—	実践女子大学 実践女子大学	○栗松下俊慶二太#
PD32	ルールの操作による予測活動が後続の課題解決に及ぼす効果	石巻専修大学	佐藤誠子
PD33	看護学生の学習における困難要因へのコーチング教育の効果の検討	防衛医科大学校	新山真奈美
PD34	反復検索による学習が幼児の記憶保持に及ぼす効果 —非言語課題による検討—	関西福祉科学大学 神戸親和女子大学	○堀多鹿千秀継
PD35	ラーニング・コモンズの学習論の構築に向けた予備的検討 —学習概念の更新を促す「照射」概念に着目して—	大阪産業大学	山田嘉徳
PD36	他者との学習における動機づけ調整方略と行動的エンゲージメントの関連 —Relative Weight Analysisによる検討—	九州女子大学 山梨大学 大阪市立大学大学院	○梅田矢貴也#
PD37	食事場面における保育者と子どものかかわりに関するテキスト分析	東京大学大学院	淀川裕美
PD38	創造性に関する心理学的研究の動向 —テーマ別の件数の推移を中心として—	大阪大学大学院 大阪大学大学院	○山口洋介
PD39	バランスのとれた基本的心理欲求充足の検討	弘前大学 弘前大学	○吉岡恭子
PD40	スポーツ場面における随伴経験尺度作成の試み	大阪産業大学	山本晃輔
PD41	聴き手意識が情報検索と情報提示に与える影響	山梨大学大学院	小野田亮介
PD42	教師の授業内コミュニケーションと授業改善の関連1 —教師の授業内コミュニケーション行動の分類と検討—	帝京短期大学 品川区立城南第二小学校 練馬区立富士見台小学校	○芳賀明子
PD43	教師の授業内コミュニケーションと授業改善の関連2 —教師の授業内コミュニケーションの実際—	品川区立城南第二小学校 帝京短期大学 練馬区立富士見台小学校	○森芳済嶋尚和子#
PD44	幼稚園教諭養成課程における教育実践研究IV —個人ならびに集団における効力感と学習効果との関連—	文京学院大学 埼玉純真短期大学 植草学園大学	○金子智栄子
PD45	幼稚園教諭養成課程における教育実践研究V —友人関係の特徴が効力感、学習効果に及ぼす影響性—	植草学園大学 埼玉純真短期大学 文京学院大学	○金子功一 ○金子智昭 ○金子智栄子
社会			
PD46	制御適合はパフォーマンスを高めるのか? —日常場面の学業パフォーマンスに焦点を当てて—	筑波大学 筑波大学大学院・日本学術振興会 筑波大学大学院・日本学術振興会 筑波大学大学院・日本学術振興会 筑波大学大学院・日本学術振興会 筑波大学	○外長湯三和黒相山峯和住川美聖秀樹立平嶺充

PD47	目的養成学部における学生の進路選択と大学環境への適応	香川大学 大久保 智生
PD48	当事者の語りの状況と児童生徒が感じる圧迫	筑波大学 ○徳 田 克己 筑波大学 水 野 智 美 富山大学 西 館 有 沙 東京未来大学 西 村 実 穂
PD49	児童養護施設における直接処遇職員のストレスに関する研究(3) —労働条件・環境と組織体制および勤務年数に注目した比較—	聖徳大学 ○亀 藤 田 秀 静 子 埼玉学園大学 枝 晓
PD50	接近・回避コミットメントの特異項目機能および関係継続に対する予測力の検討	弘前大学 古 村 健太郎
PD51	好きな人と嫌いな人に対する性格の評価の違いは何を意味するか	日本女子大学 ○梶 原 直 樹 下野市立祇園小学校 原 和 子#
PD52	貧困に対する意識調査 —保育士を目指す学生は貧困をどのように認識しているか—	ほーぶ株式会社 ○亀 亀 山 洋 光 ほーぶ株式会社 亀 山 麻衣子#
PD53	危険予測と対処行動を学ぶ防災教育の効果 —小学校低学年にデジタル教材を活用した授業実践—	大阪教育大学 ○豊 元 沢 純 子 関西大学 吉 竹 忠 宽 関西福祉科学大学 橋 野 洋 納 金城学院大学 田 理 世
PD54	体力の低下から生じるキャリア危機におけるキャリアレジリエンスの働き	広島大学 児 玉 真樹子

人格

PD55	3因子で捉えた大学生の協調性とビッグ5、創造性との関係	文教大学 ○登 名 张 真 稲 文教大学 尾 典 子 子 埼玉大学 首 敏 元 帝京科学大学 大 山 智 子
PD56	大学生の幸福感向上への介入課題 —追試的研究—	愛知学院大学 松 岡 弥 玲
PD57	他人が素手で作ったおにぎりへの抵抗感に影響を及ぼす要因 —強迫傾向と親子の信頼関係の観点からの検討—	県立広島大学 向 居 晓

臨床

PD58	神戸大学心理教育相談室における実習の意義について② —実習内容と習得内容の影響から—	神戸大学 ○相 山 澤 直 樹 神戸大学大学院 根 隆 宏
PD59	援助要請スタイルと愛着および適切な援助要請行動の関連の検討	立正大学 永 井 智
PD60	E-S理論からみた大学生のインターネット利用	順天堂大学 ○西 川 田 敬 志 順天堂大学 田 裕次郎 順天堂大学大学院 柴 田 展 人# 順天堂大学大学院 広 泽 正 孝#
PD61	大学生の連続欠席者における不登校傾向得点の検討	金沢工業大学大学院 ○坂 石 原 泰 子 金沢工業大学 川 健 介

- PD62** 青年期における過去のいじめ体験の長期的影響及びPTGの検討
—生成過程の自由記述に注目した質的研究—
- 神戸大学 ○長田直人
神戸大学 神澤樹

特別支援

- PD63** 高等学校における通級による指導モデルの検討
—教育課程の特例を設けて実践した自立活動—
- 神戸大学大学院 ○鳥居深雪
兵庫県立西宮香風高等学校 島田育生#
兵庫県立西宮香風高等学校 桂志保#
兵庫県立西宮香風高等学校 白井俊介#
兵庫県立西宮香風高等学校 古川堅太郎#

- PD64** 学級状態の違いによる特別支援対象児の学級適応感
—学級状態 6 類型における学級満足度尺度 4 群の出現数の検討—
- 南アルプス市立櫛形北小学校 ○深河和彦
早稲田大学 沢茂雄

- PD65** 小中学生版臨床用セルフモニタリング尺度の検討
- 東海学園大学 ○谷伊織
南山大学 吉橋由香
名古屋女子大学短期大学部 大嶽さと子
名古屋大学 永田雅子

- PD66** チーム支援におけるクラス担任のリーダーシップ
—教職経験および特別支援教育経験年数による差の検討—
- 神戸大学大学院 谷芳恵

学校心理学

- PD67** 予備校生のストレスに関する研究
—自由記述アンケートによる予備校生ストレッサーに関する探索的調査—
- 河合塾 ○竹内利光
河合塾 近藤和也

- PD68** 高校生の学校不適応感と役割充足感に関する研究
—役割充足感が学校不適応感に与える影響—
- 人間環境大学 ○鈴木美樹江
金城学院大学 加藤大樹

- PD69** 中学生の学校適応感と進路目標との関連についての縦断的検討
- 愛知県臨床心理士会 尾藤ヨシ子

- PD70** 教学IRと教育ビッグデータを統合した学生支援モデルの考案
—多次元パターンモデルのプロトタイプ開発—
- 清泉女学院短期大学 片瀬拓弥

- PD71** メトニミーを利用した指示に関する探索的な教室談話分析
—教師による児童へ配慮と児童による指示理解—
- 東京大学大学院 川島哲

- PD72** 相互応答的な関係・環境を実現する仕組みづくり
—ある学級における高学年 2 年間の観察記録を素材として—
- 山梨大学 ○東海林麗香
甲斐市立竜王南小学校 小林恵子#

- PD73** 通常学級担任の発達障害特性のある子どもに対する困難感と対処方略
- 東京大学大学院 角南なおみ

- PD74** 保育者志望学生の幼稚園教育実習を通した心理的プロセス
—実習形態及び学年差に着目したJD-R モデルの検証—
- 埼玉純真短期大学 金子智昭

- PD75** 小学校における協同学習が児童の学習観と学習意欲に及ぼす影響
- 広島大学大学院 ○真田穰慎人
広島大学 粟原二

PD76	大学生を対象としたレジリエンス教育の検討 —美術専攻学生対象のレジリエンス・プログラム実践から—	早稲田大学大学院 小林 美佐子
PD77	教師を志望する理由と教師の学習動機づけの関連 —FIT - Choice Scaleを用いた検討—	筑波大学大学院・○三 和 幸 平 日本学術振興会 筑波大学 外 山 美 樹
PD78	学校危機を経験した教師に関する研究 (1) —危機でもたらされた教師自身の変化の自由記述分析—	九州産業大学 ○樋 渡 孝 德 名古屋大学 原 田 雅 紀也# 名古屋大学 篠 田 由 紀 名古屋大学 山 下 幸 幸代 福岡県臨床心理士会 山 田 幸 子 広島国際大学 向 笠 章 男 九州情報大学 林 幹 幹 男
PD79	学校危機を経験した教師に関する研究 (2) —混乱の収束に関する自由記述の分析—	名古屋大学 ○山 下 陽 幸 名古屋大学 篠 田 由 紀 九州産業大学 樋 渡 孝 德 福岡県臨床心理士会 山 田 幸 幸代 広島国際大学 向 笠 章 男 九州情報大学 林 幹 幹 男

測定・評価・研究法

PD80	対子ども効力感尺度の作成	関西学院大学 ○桂 田 恵美子 福山大学 赤 澤 淳 子 関西福祉科学大学 谷 向 みつえ
PD81	多次元項目反応モデルに基づいたTIMSS2015の質問紙調査における日本の中学生の回答バイアスの分析	国立教育政策研究所 萩 原 康 仁
PD82	ループリックに基づく自己採点がレポートの引用文献の記載に与える影響 (2) —認知心理学修了レポートにおける検討—	北海道教育大学函館校 林 美都子
PD83	異なる学部のプログラミング入門教育におけるモチベーションのCS分析結果の比較 —モチベーションの向上を目指すために—	東京電機大学 ○土 肥 紳 一治 東京電機大学 宮 今 紀 子 東京電機大学 野 紀 子

ポスター発表E

10月8日（日） ポスター掲示時間 13:30～15:30
在席責任時間 奇数番号13:30～14:30 偶数番号14:30～15:30

発達

- PE01 他者が人とロボットのときの心の理解は?
—感情に着目して— 尚絅大学 小沢 日美子
- PE02 実習前後における保育者効力感のシステムティック・レビュー
—保育・幼稚園実習は学生の保育者効力感を高めたのか— 宮城教育大学 香曾我部 琢
- PE03 乗除算の習得がゆるやかに進む小学生の事例 名城大学 ○大西 美香子
名城大学 伊藤 康児
名城大学大学院 加藤 幸久
- PE04 4歳児の保育に関する一考察
—担任の観察から— 仙台青葉学院短期大学 鈴木 純子
- PE05 就職活動における成長を規定する要因の縦断的検討 明星大学 高橋 南海子
- PE06 幼児の誤信念理解と実行機能
—理由づけ質問と選択肢質問による検討— 鹿児島大学 島 義弘
- PE07 攻撃行動に対する中学生の道徳的判断
—文脈の違いによる判断の差と学年ごとの特徴— 筑波大学大学院 ○金綱 裕香
筑波大学 口佳和
- PE08 音楽的早期教育が幼児の歌唱能力と認知機能に及ぼす影響について
—AIRS歌唱能力テスト子ども用改訂版の評価による検討— 北海道大学大学院 ○小椋 佐奈衣
北海道大学大学院 安達 真由美#
- PE09 就職活動における情報探索方略使用の縦断的検討 学習院大学大学院 小菅 清香
- PE10 友人関係における傷つき経験の影響尺度の構成
—信頼性と妥当性の検討— 中央大学 永井 晓行
- PE11 親子の時間的展望はどの程度類似するのか
—中学生とその親を対象とした横断的検討— 同志社大学 ○石井 優航
University of Reading 村山 明一
高知工科大学 福住 紀也
同志社大学 石川 也
高知工科大学 住川 一
北海道大学大学院 村上 和
University of Reading 大谷 大
高知工科大学 横田 美知子
同志社大学 鈴木 志
同志社大学 田中 あゆみ
- PE12 大学生のキャリア発達を促す予備的プログラムの実施と評価
—個々の変化プロセスに着目して— 開智国際大学 寺本 妙子
- PE13 困り感を持つ生徒への発達支援（1）
—非行傾向のある少年に対する中学校と連携した支援— 横浜国立大学 ○大内里紗
横浜国立大学 有元典文
- PE14 困り感を持つ生徒への発達支援（2）
—教師はいつ生徒を“個”で捉え“集団”で捉えるのか— 横浜国立大学大学院 ○堀元優太
横浜国立大学 有元典文

PE

PE15	困り感を持つ生徒への発達支援（3） —協働的な学習に対して学習者が抱える苦手意識—	横浜国立大学大学院 ○志有元 横浜国立大学	村拓弥 文
PE16	大学生の就職活動維持過程に関わる要因の検討 (1) —自意識の機能に着目して—	早稲田大学 茨城県立医療大学 筑波大学 ○輕佐杉 部藤江	雄輝純征
教授・学習・認知			
PE17	幼児期からのメタ認知の発達支援と自己評価モデル開発に関する研究 —保育者と子ども・子ども同士のやりとりから見えてきたもの—	大手前大学 石上浩美	
PE18	子どもの思考を基にしたカリキュラム構成による教授介入 —割合概念の保持について—	愛知教育大学 立命館大学 名古屋大学大学院 ○栗吉中 山田島淑子	和廣甫子
PE19	自然の事物現象を正確に捉えさせる効果的な指導法とは —小学校理科 雲の形の観察において—	赤磐市立磐梨小学校 岡山大学 ○藤荒尾 原照真一	
PE20	自立した学びを目指して 思春期年代の学習スタイル別コーチング方法 —2000年からの試み—	東京インターハイスクール 東京インターハイスクール ○高木村 橋聰美	有希子 美‡
PE21	ソーシャル・キャピタルの視点を取り入れた保育士養成カリキュラム —保育士志望学生が「地域」で「子育て中の保護者」と関わる授業の構築—	東京立正短期大学 三國隆子	
PE22	漢字の読み方の学習におけるVAシャドーイング法の効果 —非漢字圏日本語学習者を対象として—	実践女子大学 中山誠一	
PE23	臨床実技の録画を見る自己評価が行動の振り返りに与える効果の検討 —自己評価が教員による評価より高い学生と低い学生の違い—	多摩リハビリテーション学院 多摩リハビリテーション学院 ○西石田 片信彦	裕彦‡
PE24	大人の声がけが子どものやりとりに対する積極性や知識獲得に及ぼす影響	京都橘大学 奈田哲也	
PE25	学習モデルと課題の種類が学習成果に与える効果	宝塚市立御殿山中学校 植原俊晴	
PE26	習得回避目標が反応時間に及ぼす影響	高松大学 奈良教育大学 ○徳解良 岡優大	基
PE27	児童のネガティブ情動の表出場面における教師の判断 —仮想場面における問題認識と教師効力感による影響—	東京大学大学院 芦田祐佳	
PE28	プロンプトの観点から「保育者の援助」を考える —『保育の心理学』における試み—	日本福祉大学 中部学院大学 ○塙橋本 恵晴信	美
PE29	協同的な学びを通して、全校児童の考える力を伸ばす —埼玉県学力・学習状況調査の積極的活用—	所沢市立若松小学校 嶋崎栄一	

PE30	数学の文章題解決と中学生のワーキングメモリ —COMPASSを用いた分析—	広島大学 広島大学	○福 湯 丸 澤 奈津子 正通
PE31	幼児とのふれあい体験による中学生の対児感情の変容に関する検討	就実短期大学 呉市立郷原小学校 広島大学附属三原中学校	○伊 藤 小笠原 藤 千 井 優 明# 志保#
PE32	オーセンティック概念に基づく算数授業デザインの提案	東京学芸大学附属 小金井小学校 東京学芸大学	○小 野 梶 井 健太郎 芳明
PE33	大勢の人の前で話すことへの意識調査 —大学の新入生と上級生の比較を通して—	環太平洋大学	吉 澤 英里
PE34	児童の援助要請スタイルと学級風土との関連	名古屋大学 名古屋大学大学院	○林 中 谷 亜希惠 素之
PE35	グループ学習における教師の支援の効果（2） —グループ学習経験を通した認識の変化への効果 の国語・算数間比較—	東京大学大学院・ 日本学術振興会 東京大学大学院	○児 玉 佳 一 車 田 梓
PE36	なぜ市民は大学主催のカフェイベントに参加するのか —参加動機に着眼して—	帝京大学 (株)三菱総合研究所 NPO法人PIECES	○森 中 青 玲 野 木 奈 啓 翔 太子#
PE37	WM容量の小さい学習者の読解における体制化 の支援可能性 —後置質問を用いた手続き的説明文の読解支援—	PFU テクニカルコミュニケーションズ株式会社 立命館大学	○小 島 淳 一 山 本 博 樹
PE38	大学生におけるアクティブラーニング授業実践の効果検証	白鳳短期大学	成 田 亜 希
PE39	授業でのICT活用に対する教員志望大学生の意識 —ICT機器の利用頻度と利用に関する効力感の関係から—	広島大学大学院 広島大学大学院 近畿大学 広島大学大学院	○山 根 田 中 有 馬 中 嵩 史 光 比 呂 志 和 光
PE40	仮説実験授業のたのしさを決めるもの（4）教材論 —学び手の素朴理論との対話に始まる科学の実現 —	仮説実験授業研究会	守 屋 明 佳
PE41	「自分を主人公とした具体例」の生成による効果 の検討 —自己関連づけ効果の観点から—	法政大学大学院	押 尾 恵 吾
PE42	小学生を対象とした防災教育プログラムの開発 —予防的心理教育プログラムの開発と効果検証—	共生社会研究センター 明星大学心理学部	○米 竹 山 内 祥 康 平 二#
PE43	マルチレベル分析によるアクティブ・ラーニング型授業の効果測定（4） —アサーションスキルおよびグループワーク活動が成績に及ぼす影響—	立正大学 駿河台大学 九州工業大学	○高 比 良 杉 本 佐 藤 美 詠 子 英 晴 友 美
PE44	マルチレベル分析によるアクティブ・ラーニング型授業の効果測定（5） —協同作業認識およびグループワーク活動が成績に及ぼす影響—	駿河台大学 九州工業大学 立正大学	○杉 本 佐 藤 高 比 良 英 晴 友 美 詠 子
PE45	マルチレベル分析によるアクティブ・ラーニング型授業の効果測定（6） —大学環境に対する適応感およびグループワーク活動が成績に及ぼす影響—	九州工業大学 立正大学 駿河台大学	○佐 藤 高 比 良 杉 本 友 美 詠 子 英 晴

社会

PE46	大学生におけるアルバイト就労と感情との関連	横浜国立大学	高 本 真 寛
PE47	好奇心の高さが自己調整学習に及ぼす影響	○寺 田 未 来 ○大 本 大 史 # ○川 本 大 史 #	○寺 田 未 来 ○大 本 大 史 # ○川 本 大 史 #
PE48	特性尊敬関連感情尺度（青年期後期用）短縮版の作成と信頼性・妥当性の検討	お茶の水女子大学	武 藤 世 良
PE49	他者的情動を効果的に調整可能な方略は何か？—プロセスモデルに基づく検討—	京都大学 Stanford university Universite catholique de Louvain	○野 崎 優 樹 Gross J. James # Mikolajczak Moira #
PE50	チームワーク能力が向上するプロセスの検討（2）—構成要素間の関連に着目して—	愛知学院大学	太 輜 直 也
PE51	在日中国人留学生の異文化ストレスによる日本語学習意欲への影響 —日本語学校在学の学生を対象として—	東京学芸大学大学院 埼玉大学大学院	○元 馮 笑 薈 予 ○元 馮 笑 薈 予
PE52	感謝感情と負債感情が排斥された第三者への向社会的行動に及ぼす影響の検討	筑波大学大学院・ 日本学術振興会 筑波大学	○吉 野 優 香 相 川 充
PE53	女子大学生の進路決定過程と対人環境の関係（4） —就職活動ストレスと役割占有感、自己効力感が自己成長感に及ぼす影響—	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○風 山 間 文 明 ○風 山 間 文 明
PE54	女子大学生の進路決定過程と対人環境の関係（5） —情緒的/道具的サポートが就職活動及び就職活動ストレスに及ぼす影響—	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○山 風 間 倫 実 ○山 風 間 倫 実

人格

PE55	前青年期における自己概念と自己評価感情の揺れとの関連	愛知教育大学大学院 愛知教育大学 愛知教育大学	○原 田 宗 忠 ○原 田 宗 忠 ○原 田 宗 忠
PE56	母親のパーソナリティ、養育と幼児の気質との関連 —子どもの困難度に焦点を当てて—	お茶の水女子大学	内 海 緒 香
PE57	高校生の睡眠行動と環境要因および個人内要因の関連	学校法人嶺南学園 敦賀氣比高等学校	坂 本 理 香

臨床

PE58	大学生における身近な友人の抑うつ症状への情緒的巻き込まれの恐れ —症状の深刻度評価、援助要請の必要性、援助自信との関連の検討—	東京大学	河 合 輝 久
PE59	親切や感謝の記録が中学生の精神的健康に及ぼす影響	長崎大学	前 原 由喜夫
PE60	女子大生の不安と大学適応感との関連 —不適応の予防に向けて—	静岡県立大学短期大学部	小 林 佐知子

PE61 ロールレタリングの継続的施行が怒りの変容に及ぼす影響
—想定する他者の組み合わせによる効果の比較を通して— 東京電機大学 ○金 築 智 美 優 #
法政大学 金 築

PE62 大学生のメンタルヘルスに関する理解と知識 京都市立芸術大学 ○山 村 麻 予 啓 #
大阪大学 平 井

特別支援

PE63 特別支援学校におけるキャリア発達支援の研究(2)
—社会性発達を促す観点から— 鹿児島県立武岡台養護学校 ○榎 今 林 康太郎
鹿児島大学

PE64 医療的な配慮を必要とする子どもを担当する保育者
者の負担感
—ストーマを使用している子どもを担当する保育者
者の場合— 東京未来大学 ○西 徳 田 実 穂 己
筑波大学

PE65 弱視学生支援サービスに対する健常学生の意識に
及ぼす個人要因の影響 愛知教育大学 ○相 羽 大 輔 紗
筑波大学 奈 良 里

PE66 発達障害児のニーズに適した学習のつまずき
チェックリストの構成の検討 (独)国立特別支援教育
総合研究所 玉 木 宗 久

学校心理学

PE67 不登校を激減させた方法6
—タッチ登校によるクラス完全復帰率98%— 安曇野市立三郷小学校 工 藤 弘

PE68 中学校における各学年のターニングポイントを意
識した多面的・組織的適応支援の実践 金沢大学 ○原 木 克 己 子 #
石川県金沢市立金石中学校 下 知

PE69 調理実習の授業における自己効力感を活かしたア
クティブ・ラーニング「主体的・対話的で深い学
び」授業実践
—短期大学総合学部女子学生において— 大手前短期大学 西 岡 陽 子

PE70 教師が認知した学級風土の日中比較 関西大学 ○金 田 明 汝 也
関西大学 中 俊

PE71 感情への気づきを促す心理教育プログラムの試み
—小学生を対象として— 立正大学 ○遠 山 寛 子 晃 也
国立特別支援教育総合研究所 藤 本 鬼 頭 昌 也
名古屋市立なごや小学校 寛

PE72遊びおよび友人関係と共感性との関連
—遊び体験と友人関係の質に着目して— 甲南大学 ○木 下 雅 博 也
甲南大学 大 西 彩 子
甲南大学 森 茂 起

PE73 中学生のスクールカーストといじめの関連
—いじめ被害と被害後の行動— 北海道大学 ○水 加 野 君 平 通 也
北海道大学 太 藤 弘 正 義
常葉大学 田 田

PE74 小学生におけるいじめ傍観傾向を抑制する要因の
検討(4)
—性差に着目して— 広島文化学園大学学院 ○久 田 米 瑛莉 乃 宏 二
広島文化学園大学 中 田

PE75 子どもは校内の好きな場所にどのような価値を見
出しているか?
—小学1年生対象の質問紙調査の試み— 愛知大学 ○杉 本 貴 代
東京大学 秋 田 喜代美
東京大学学院 辻 谷 真知子
白梅学園大学 宮 田 まり子 #

PE76	小学校におけるソーシャルスキル教育を中心とした心理教育の継続実践研究（8） —小学校でSSEを受けた児童の中学校入学後における学校適応状況の検討—	埼玉学園大学 埼玉学園大学 筑波大学	○藤枝 静太 増南 太 相川 晓志充
PE77	小学校におけるソーシャルスキル教育を中心とした心理教育の継続実践研究（9） —潜在曲線モデルによる学校適応に影響する要因の時間的変化の検討—	埼玉学園大学 埼玉学園大学 筑波大学	○増藤 静太 南枝 晓志充 相川
PE78	等化手続きの違いが項目パンクのパラメタ推定値に及ぼす影響 —等化係数を用いた等化法を同時推定法に併用する効果の実践的検討—	島根大学	光永 悠彦
PE79	NICU病棟における統合実習の学び —社会人基礎力の視点による評価を試みて—	朝日大学	渡部 真奈美
PE80	工学部学生の英語学習意欲に関する研究	長岡技術科学大学大学院 浦和大学	○伴皆川 浩美順

ポスター発表F

10月8日（日） ポスター掲示時間 16:00～18:00
在席責任時間 奇数番号16:00～17:00 偶数番号17:00～18:00

発達

- PF01 一般青年が日常生活で感じるモラル・ジレンマII
—非行少年との比較—
新潟青陵大学 本間優子
- PF02 実際の変化として子どもの心的外傷後成長を測る
—再検査信頼性と基準関連妥当性の検討—
中央大学大学院 飯村周平
- PF03 思春期の注意欠如・多動傾向と情緒の問題に関する縦断研究
—学校ライフィベント、自尊感情との関連—
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 ○齊藤彩
お茶の水女子大学大学院 菅原ますみ
- PF04 子どもの行動を引き出す保育士の言葉かけ方略
—保育場面の発話分析から—
新潟中央短期大学 ○佐々木宏之
植草学園大学 粟原ひとみ
- PF05 養護教諭の目を通した学校における自傷児童生徒への対応
—一心の成長による自傷からの脱却—
北海道大学 穴水ゆかり
- PF06 中学生の食生活と家族関係および精神的健康との因果関係の検討
—夕食場面における男女の差異に着目して—
お茶の水女子大学大学院 江崎由里香
- PF07 教職及び保育者志望の学生が捉える「遊びの中の学び」とは?
広島大学大学院 ○小野和佳
高知大学 中陽一朗
- PF08 青年期前期における援助要請結果期待尺度作成の試み
—大学生を対象とした回顧的インタビュー調査—
東京大学大学院 天井響子
- PF09 伝統工芸職人の実践の意味づけの発達に関する一考察
首都大学東京大学院 松熊亮
- PF10 関係性・自律性欲求へのサポート尺度の作成I
—親・親友・恋人別の検討—
筑波大学大学院 ○肖外山雨美
筑波大学 知樹
- PF11 褒められた経験が自尊感情およびやり抜く力に与える影響
安田女子大学 橋本博文
- PF12 学校適応の促進をめざしたソーシャルスキルトレーニングの実践
—情動過程を伴った社会的情報処理モデルに基づく全校規模のアプローチ—
岐阜県可児市立帷子小学校 ○大吉澤久乃
岐阜大学 寛之
- PF13 小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達(11)
—学校環境からの負荷に着目して—
和光大学 ○高坂康雅
中央大学 都筑学司
東北大学 岡田之
常葉大学短期大学部 有泰
- PF14 小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達(12)
—学校環境と学習意欲の関係に注目して—
常葉大学短期大学部 ○金子泰之
和光大学 高坂康雅
中央大学 都筑学司
東北大学 岡田有
- PF15 小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達(13)
—学校環境と学校適応の関係に注目して—
東北大学 ○岡田有司
常葉大学短期大学部 金泰之
和光大学 高坂康雅
中央大学 都筑学司

PF

- PF16 習い事が幼児の問題行動に与える影響②
—習い事への動機づけと問題行動の関連— 慶應義塾大学 油川さゆり

教授・学習・認知

- PF17 数学の授業における教科書等の活用に関する教師の信念 東京大学大学院 福田麻莉
—中学校・高校の数学教師を対象としたインターネット調査—
- PF18 外国語学習課題価値と先延ばしの関連性 早稲田大学 ○森恵子
早稲田大学 河村茂雄
- PF19 やる気低下状況において動機づけ調整方略が学習行動に与える影響 名古屋大学大学院 ○遠藤志乃
—高校生のやる気低下状況に着目した検討— 名古屋大学大学院 中谷素之
- PF20 自律的学修を高める授業実践の試み 鹿児島大学 ○稻垣(藤井)勉
—自己理解を促進するアプローチから— 長崎大学 當山明華
- PF21 科学技術の社会問題に対する大学生の意志決定と 神戸大学 ○坂本美紀
知識活用 神戸大学 山口悦司[#]
—遺伝子医療技術を事例として—
- PF22 歩きスマホ防止のための啓発授業の実践とその効果 富山大学 ○西館有沙
筑波大学 徳田克己
筑波大学 水野智美
- PF23 十進数としての特徴に関する児童の認識 吹田市立山手小学校 大西理加
—小学5年「整数と小数」の授業実践を通して—
- PF24 教職課程の学生による学習支援が高校生の学習に対する姿勢に与える影響 愛知工業大学 ○東平彩亜
愛知工業大学 長谷川省一[#]
- PF25 配慮の必要な生徒の主体的な役割取得による価値 神戸医療福祉大学 野本玲子
理解と自己表現
—道徳科の授業改善を意識した評価—
- PF26 大学生の英語読解学習に対する自己調整意識 京都大学大学院 ○松岡真由子
大同大学 浅井淳
- PF27 教職課程大学生による外国語学習の動機づけ理論 岡山理科大学 奥西有理
の評価
—中等英語教育における具体的想定に関する分析—
- PF28 学習全般に対する学習観と英語学習に対する学習観の関連 名古屋大学大学院 赤松大輔
- 交差遅延効果モデルによる因果関係の検証—
- PF29 フィードバックが作文の改善過程に及ぼす効果 慶應義塾大学大学院 福富隆志
—制御焦点とのATIに着目して—
- PF30 大学エクステンション講座の受講者はどのような動機を持っているか 早稲田大学アドラー心理学研究会 ○伊澤幸代
早稲田大学アドラー心理学研究会 堂坂更夜香
早稲田大学 向後千春
- PF31 幼児期の絵本の事前提示が関連する遊びに与える影響 聖徳大学 ○辰巳友唯
—5歳児の絵本とダンボール遊び— 聖徳大学 鈴木由美

PF32	教員養成校における「教育相談」の授業のあり方について —カウンセリングマインドを持った教員の養成—	豊岡短期大学 豊岡短期大学 南海福祉専門学校	○原 原 室 田 田 谷 敬 増 雅 文 廣 美
PF33	看護学生の情緒知能と他者とのかかわりに関する研究 —入学時・1年後・2年後の縦断調査—	自治医科大学 福岡医療専門学校 武雄看護リハビリテーション学校 自治医科大学 自治医科大学	○石瀬 大川内 井瀬 戸内 慎一郎 和鉄 美和 鉄二 # #
PF34	同音条件の違いが日中同形四字熟語の認知処理過程に及ぼす影響 —語彙判断課題による検討—	中央大学 中央大学	○李 兵 藤 宗 岩 吉
PF35	個別学習支援に携わる学生が重視する算数文章題解決時のメタ認知方略の検討	広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員DC 広島大学大学院 久留米大学	○小澤 福浦 郁屋上 美いずみ萌
PF36	学士課程学生によるライティング・ピア・チュータリングの効果 —縦断的調査に基づく検討—	共愛学園前橋国際大学 共愛学園前橋国際大学 丸善雄松堂株式会社 関西大学	○佐藤 伊小 賢後林 輔さゆり奈至 美央央道
PF37	幼少期からの興味関心の推移と理科の学習における関係 —小・中学生の回顧調査から—	明日香保育園 聖徳大学	○勝相 見良 愛順 湖子
PF38	児童の課題解決への取り組みを支える教師の支援 —算数の授業場面から—	宇都宮市立豊郷中央小学校 宇都宮大学	○鈴司 木城 隆紀代美
PF39	学習における動機づけの増減に関する素人理論V —尺度の作成と因子構造—	法政大学大学院 日本工業大学 法政大学大学院 法政大学大学院 法政大学	○中山加藤 川口藤尾 華藤田 剛みずき哲也
PF40	学習における動機づけの増減に関する素人理論VI —項目選定と因子妥当性—	日本工業大学 法政大学大学院 法政大学大学院 法政大学大学院 法政大学	○山中加押 川藤尾 華藤田 剛みずき哲也
PF41	ゼミナールでの授業外活動に対する教員の認識 —計量テキスト分析による検討—	首都大学東京	伏木田稚子
PF42	言語能力と言語不安が外国語副作用に及ぼす影響	広島大学	楊嘉寧
PF43	現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究 (7) —教員養成大学における文系－理系学生間の比較検討—	奈良教育大学 関西福祉科学大学 阪南大学	○藤林崎 田濱 龍秀平行
PF44	現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究 (8) —一般大学における文系－理系学生間の比較検討—	関西福祉科学大学 阪南大学 奈良教育大学	○林崎藤 濱田 龍秀平行
PF45	現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究 (9) —一般大学1年生における希望校種間の比較検討—	阪南大学 奈良教育大学 関西福祉科学大学	○崎藤林 濱田 秀龍平行

社会

- PF46 就職活動中の大学3年生における大学受験の捉え方とキャリア選択自己効力の関係（2）
—就職活動期間の縦断的研究—
- 学習院大学 秋山史子
- PF47 大学生の授業における動機づけの社会的伝達モデルの検討（3）
—学習者の動機づけおよび期待の個人差による検討—
- 名古屋大学大学院 ○柳澤香那子
名古屋大学大学院 中谷素之
- PF48 性役割観は言葉かけで喚起される感情に影響を及ぼすか？
- 広島大学大学院 ○吉岡真梨子
広島大学 井上弥
- PF49 高校生の質問力育成を目的とした授業効果の検討
—質問力および質問態度に着目して—
- 愛知淑徳大学大学院 ○松本明日香
愛知淑徳大学 小川一美
愛知淑徳大学 斎藤和志
- PF50 他者軽視と他者評価との関連
—領域の重要性と親密度を踏まえて—
- 筑波大学大学院・日本学術振興会 ○長峯聖人
筑波大学 外山美樹
- PF51 武力紛争解決・予防を目指した教育プログラムが受講者の道徳不活性へ及ぼす影響
- 南山大学 ○池田満彩
東京外国语大学 福田城徵
東京外国语大学 宮城徹
- PF52 ジェンダーに対する違和感尺度作成の試み
—自己・他者の観点から—
- 龍谷大学大学院 関口美優香
- PF53 ブラジリアン柔術を通した日本・伯の交流
- 愛知みずほ大学 ○高橋健太
愛知みずほ大学大学院 高橋陽香
愛知みずほ大学 安念昌

人格

- PF54 中学生の居場所と生活感情の関連
—対人関係における居場所感—
- 修文大学短期大学部 益川優子
- PF55 大学生の共感経験と達成動機との関連
- 早稲田大学 ○井河まい雄
早稲田大学 芹村茂雄
- PF56 Sense of Coherenceは閉ざされた関心によるものなのか
—Sense of Coherenceと認知欲求・認知的完結欲求・知的好奇心との関係—
- 大阪大学大学院 ○磯和壮太郎
大阪大学大学院 三宮真智子

臨床

- PF57 大学生におけるセルフコンパッションとキャリア形成意欲の関連
- 早稲田大学大学院 ○飯島有哉
山崎製パン株式会社 中村実央
早稲田大学 桂川泰典
- PF58 転換性障害が明らかになった小学生への学習支援の効果
—小児てんかん児の効力感の向上を図る—
- 東京都特別支援教室 金子重美
巡回相談心理士
- PF59 青年期の攻撃行動における心理教育の刺激呈示の工夫の試み
—マインドフルネス呼吸法を習得するために—
- 早稲田大学大学院 ○齋藤彩乃
早稲田大学人間科学学術院 嶋田洋徳

PF60	アイデンティティ形成をねらいとした心理教育プログラム開発の試み —メンタライジング・アプローチの視点から—	首都大学東京	竹元 雅也
PF61	受刑者に対する暴力防止指導の効果 —メンタライジング・アプローチの視点から—	瀬戸少年院 福井刑務所 福井刑務所	○反中亞弓 田中孝典# 田麻祐子#

特別支援

PF62	視覚障害に対する高校生の認識 —障害理解学習経験が及ぼす影響—	北海道教育大学	細谷一博
PF63	大学生の学習面の困難に関する研究	大分大学	衛藤裕司
PF64	就学移行期における障害のある子どもに関する記録物の作成・活用状況と課題（1） —量的データの分析から—	比治山大学 名古屋市立大学 名古屋大学 宮城教育大学 福岡女学院大学 名寄市立大学 沖縄女子短期大学 香川大学 広島文化学園大学 広島文化学園大学	○濱田祥子 上田敏丈 若林紀乃 越中康治 岡花祈一郎# 中西さやか# 瀬真喜子 松井剛太# 八島美菜子 山崎晃
PF65	就学移行期における障害のある子どもに関する記録物の作成・活用状況と課題（2） —テキストマイニングによる自由記述の分析から—	宮城教育大学 名古屋市立大学 名古屋大学 比治山大学 福岡女学院大学 名寄市立大学 沖縄女子短期大学 香川大学 広島文化学園大学 広島文化学園大学	○越中康治 上田敏子 若林紀乃 濱田祥子 岡花祈一郎# 中西さやか# 瀬真喜子 松井剛太# 八島美菜子 山崎晃

学校心理学

PF66	イングランドの中学校におけるTheatre in Educationを用いたいじめ防止プログラムに関する一考察	鎌倉女子大学	伊藤嘉奈子
PF67	地域の子ども支援者が発見する子どものSOSとその支援 —学校等との連携の実態—	昭和薬科大学 一般社団法人 子ども安全まちづくりパートナーズ 福岡教育大学	○吉重根真理香 小泉令三
PF68	中学生の相談行動の促進要因・阻害要因の検討 —より効果的な自殺予防教育の実施に向けて—	名古屋大学 名古屋大学	○窪田由紀正典#
PF69	中国の中学生の感謝感情の検討 —中国版感謝尺度の作成と検討を通して—	筑波大学大学院 筑波大学	○王庄司一子
PF70	いじめ被害経験と加害経験の有無が自己関係づけに及ぼす影響 —青年期における回顧的研究—	こいでクリニック 甲南大学	○小山聰子 福井義一
PF71	対人関係ゲームを活かしたキャリア教育のあり方	大学改革支援・学位授与機構 聖徳大学	○稻鈴木達也 由美

PF72	いじめ撲滅劇参加による卒業生への影響 —卒業生インタビューに見られる転機という概念 に着目して—	大阪府寝屋川市立第六中学校 兵庫教育大学大学院	○富 中 幸 玲 子
PF73	部活動における生徒の指導者への信頼感及び指導 者の統制感（コントロールスタイル）についての —考察 —時期要因と目標タイプ要因からの検討—	上越教育大学大学院 上越教育大学	○田 高 中 橋 琢 知 己
PF74	小学校5年生の児童を対象としたソーシャルスキ ルトレーニングの効果の検討（1）	金沢工業大学大学院 金沢工業大学 金沢工業大学大学院 金沢工業大学大学院	○滋 野 井 圓 石 川 健 介 川 畑 裕 # 西 田 有 希
PF75	清掃活動におけるコーチングが子どもの主体性を 高める可能性	赤穂郡上郡町立山野里小学校 兵庫教育大学	○中 秋 野 淳 子
PF76	青年期女子の友人関係と学校適応との関連 —中学1年生と高校1年生のデータ分析—	東京家政大学大学院	横 田 靖 子
PF77	高校生に対する予防的心理支援としてのレジリエ ンス教育の実践と効果（3） —集団と個人の特性効果に着目して—	郁文館夢学園 お茶の水女子大学 東京家政大学	○鈴 岐 木 水 季 平 部 智恵子 野 真 理
PF78	高校生におけるレジリエンスの経験的獲得プロセ スの検討 —変わろうという意識を支える心理教育授業の役 割—	東京家政大学 郁文館夢学園 お茶の水女子大学	○平 鈴 野 木 水 季 岐 部 智恵子

測定・評価・研究法

PF79	日本語彙についての多肢選択課題と既知判断課 題の成績の関係 —高校生から60歳代までを対象とした大規模調査 による検討—	くらしき作陽大学 (株) ベネッセコーポレーション (株) ベネッセコーポレーション 教育アナリスト	○猪 古 原 敬 美 介 松 尾 千 佳 # 沓 澤 糸 #
PF80	自由記述データを用いた第二外国語教育の要点に 関する探索的研究 —捕獲率を用いた知見の飽和度の評価—	立教大学 立教大学	○大 高 橋 嶋 洪太郎 幸 太 #
PF81	統計リテラシー日本語版尺度の妥当性と信頼性の 検討 —ニューメラシーや批判的思考態度との関係—	京都大学 京都大学大学院 京都大学大学院 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学	○伊 綾 部 川 美 保 松 岡 宏 明 岡 真由子 平 岡 大 樹 # 西 山 慧 # 高 野 了 太 # 楠 見 孝

ポスター発表G

10月9日（月・祝） ポスター掲示時間 10:00～12:00
在席責任時間 奇数番号10:00～11:00 偶数番号11:00～12:00

発達

PG01	学科の専門性と「就業力」についての縦断調査研究 —大学生を対象として—	福岡県立大学 ○池志保 福岡県立大学 中村晋介#
PG02	幼児における他者の要求変化の背後にある「別の他者を欺こうとする意図」への気づきに関する研究	山梨県立大学 ○多尾幸子 港区立しばうら保育園分園 尾池晴香#
PG03	見守るしつけと子どもの感情制御 —縦断研究からの検討—	東京女子大学 ○風間みどり 東京女子大学 平林秀美 東京女子大学 唐澤真弓
PG04	心理教育“サクセスフル・セルフ”を活用した小学校低学年の保護者への子育て支援に関する検討	兵庫教育大学大学院 ○岡崎由美子 岡山大学 安藤華代
PG05	親の養育態度および友人関係が自己肯定感へ与える影響 —大学生への質問紙調査を通して—	甲南大学大学院 ○篠田佳子 甲南大学 大西彩子
PG06	向社会的行為者に対する評価の発達変化	名古屋大学 ○二村郁弘 鹿児島大学 島義弘
PG07	保育場面における幼児の援助要請行動	香川大学 池田七海
PG08	日韓の大学生の職業アイデンティティ比較研究 —小学校教員を目指す学生を対象とした質的研究—	大阪教育大学 ○朴聖希 大阪教育大学 高橋登
PG09	大学生親子ペアデータによる親離れ・子離れと関連要因の検討（1） —親離れと子離れが親子それぞれのキャリア発達に及ぼす影響—	立教大学 ○高田樹喜 国立成育医療研究センター 水本深江# 文教大学 正木澄江# 青山学院大学 池上真平#
PG10	大学生親子ペアデータによる親離れ・子離れと関連要因の検討（2） —親と子の「親離れ」「子離れ」認知による自立的・肯定的親子関係認知の差—	国立成育医療研究センター ○水本喜江# 立教大学 高田樹喜# 文教大学 正木澄江# 青山学院大学 池上慎平#
PG11	打楽器による幼児の感情表現における音量の変化	鹿児島大学大学院 ○神田まほろ 鹿児島大学 島義弘 鹿児島大学 大坪治彦
PG12	ひきこもりを抱える家族におけるきょうだいの体験過程	東京都教育委員会 和田美香
PG13	8～10歳の「重さの保存」に関する研究 —判断の理由づけに着目して—	立命館大学 大西真樹男
PG14	中学生の社会的行動についての研究（109） —移行期の時間的展望の変化の様相—	福島大学 ○五十嵐敦夫 名古屋大学 氏家達夫 愛知学院大学 二宮克美 千葉県立保健医療大学 井上裕光 名古屋文理大学短期大学部 山本光か

PG

PG15	中学生の社会的行動についての研究（110） —自殺念慮の変化と、家庭および友だちの要因の関連—	名古屋文理大学短期大学部 名古屋大学 愛知学院大学 福島大学 千葉県立保健医療大学	○山 本 ち か 氏 家 達 美 二 宮 克 敦 五 嵐 井 裕 十 上 光
PG16	発達障害のある生徒への捉え方に影響を及ぼした要因に関する検討	神戸大学大学院 神戸大学大学院	○谷 口 あ や 山 根 隆 宏
PG17	幼児期における仲間関係の固定化に関する事例的検討 —卒園間際の年長児に注目して—	北海道大学 北海道大学	○及 川 智 博 川 田 学
教授・学習・認知			
PG18	教職課程履修学生の生徒指導イメージに関する研究	岡山大学	三 島 知 剛
PG19	教師は生徒の学習方略利用の実態を把握できているのか? —数理モデルを用いた教師の予測の正確性の分析—	東京大学 大妻女子大学 東京大学 東京大学 獨協医科大学 群馬大学大学院	○植 阪 友 理 中 川 正 宣 # 山 口 一 大 仲 谷 佳 惠 # 上 西 秀 和 # 深 谷 達 史
PG20	達成目標促進と授業実践型相互教授の効果（4） —グループ学習における思考促進への効果—	大田区立東調布第一小学校 名古屋大学 名古屋大学大学院	○町 橘 春 岳 中 谷 素 菜 谷 之
PG21	教員養成課程の大学生の音楽科に対する教科観	愛知教育大学	小 嶋 佳 子
PG22	学習指導要領と国際パカロレア教育の教育理念の融合のさせ方に関わる探索的調査研究（1） —「探究科」の学習で育てる学習者像とそれに育成する資質・能力の検討—	東京学芸大学 飯能市立加治小学校	○梶 井 芳 明 後 藤 由季奈 #
PG23	学校の学習を日常の実践に繋ぐ学習環境デザイン —対話活動が問題文の吟味に及ぼす影響—	桐蔭学園	菅 井 篤
PG24	協働省察の導入と児童の逸脱行動の減少との共起現象	愛媛大学大学院 愛媛大学	○市 富 早 香 富 田 英 司
PG25	NPO法人発達障害療育センター学習教室での学習支援 —知的障害がある中学生、高校生に対する学習支援—	京都大学大学院	金 子 正 弘
PG26	レポート作成における読み手を意識した文章作成方略使用尺度の開発	広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 近畿大学	○田 中 條 和 光 中 山 根 嵩 史 山 有 馬 比 呂 志
PG27	ふりかえりシートの導入によるクラス会議の話し合いの質改善の試み	広島大学大学院 愛媛大学	○村 富 瀬 由 加 里 瀬 田 英 司
PG28	「将来働く目的や理由」の項目収集と分類 —仕事価値観尺度作成に向けて—	筑波大学大学院 筑波大学	○菅 櫻 原 宏 明 櫻 井 茂 男
PG29	児童の自主性を生かした安全教育の効果（2） —ハザードへの気づきに与える影響—	大阪大学大学院 大阪大学大学院 大阪大学大学院 東海学院大学 大阪大学大学院	○岡 森 真 裕 美 森 泉 慎 倭 吾 # 太 子 のぞみ # 中 井 宏 白 井 伸之介 #

PG30	学習者は適切な図表を自発的に産出して数学的问题解决できるか —学習方略への認知負荷理論の応用—	京都大学大学院 京都大学	○綾部 宏明 マナロ エマニュエル
PG31	成長マインドセットを育む教育プログラムの长期的効果	関西福祉科学大学 大阪教育大学	○竹豊 橋洋毅子
PG32	学習教材の選択場面における動機づけ調整の検討	京都大学 京都大学	○長谷部 育恵孝 楠見
PG33	知能観とJOLが学習時間に及ぼす影響 —課題の難易度による調整効果—	同志社大学大学院 日本学術振興会・同志社大学 同志社大学大学院 同志社大学	○江池 聚名 柿沼 司 田亨 賢祐 田中 あゆみ
PG34	友人間のほめと達成目標・知能観との関連	同志社大学大学院 同志社大学	○柿沼 亨祐 田中 あゆみ
PG35	段階的教訓帰納とルール理解を重視した学習指導 —計算間違いに対する認知カウンセリングの事例から—	東京大学大学院	若林 正晃
PG36	心的イメージ能力の個人差は中学校理科への志向性と関連するか? —鮮明性と空間的統御性の次元に着目して—	北海道大学・日本学術振興会 特別研究員 北海道大学	○原田 勇希 鈴木 誠
PG37	課題解決に必要な事項を習得させるタイミングの異なる授業展開が生徒の概念形成に及ぼす効果について —中学校理科 コイルの学習を通して—	倉敷市立新田中学校 岡山大学	○山荒 卓也 本尾 真一
PG38	教員が学び合う「学習コミュニティ」の構築 —小学校における協働の過程についての考察—	川西市立川西北小学校 兵庫教育大学	○稻山 拓也 田中 一英
PG39	協同的な学習意識を育むスキルトレーニングの開発(1) —傾聴トレーニングによるスキル得点の変化—	奈良教育大学 奈良教育大学	○解良 優基 中山 留美子
PG40	協同的な学習意識を育むスキルトレーニングの開発(2) —スキルの向上と協同認識・学習観の変化の関連—	奈良教育大学 奈良教育大学	○中山 留美子 解良 優基
PG41	学びの習熟化とテストとの関わり —テストで点を取ることは、点を取るだけのことなのか?—	代々木ゼミナール	宇野 正明
PG42	小学校教師における学級経営のリフレクションの検討 —若手教師に対する半年間の縦断的調査を通して—	明石市立魚住小学校 兵庫教育大学	○中村 恵子 秋光 恵子
PG43	高等教育における学びのユニバーサルデザイン(UDL)の実践の試み —知識・技能の修得を目的とした授業における導入—	福岡工業大学短期大学部 福岡工業大学短期大学部 福岡工業大学短期大学部	○藤石 厚紀 橋慶一# 上村 英男#
PG44	大学授業における発表のループリック評価に対する学生の受け止め方II —達成目標・協同作業認識がループリック確認回数に及ぼす影響—	法政大学大学院 法政大学	○加藤 みづき 藤田 哲也

PG45	大学授業における発表のループリック評価に対する学生の受け止め方III —達成目標・協同作業認識がループリック評価法に対する評価に及ぼす影響—	法政大学 法政大学大学院	○藤 加 藤 哲 也 みづき
PG46	保育施設における園庭の実践と価値観の検討	東京大学大学院 東京大学 愛知大学 園庭研究所 白梅学園大学 東京大学大学院	○辻 谷 真知子 秋 田 喜代美 杉 本 貴 代 石 田 佳 織 [#] 宮 田 まり子 [#] 宮 本 雄 太 [#]
社会			
PG47	大学生の友人に対する心理的距離と友人関係における態度の関連	金沢工業大学大学院 金沢工業大学	○西 石 田 川 有 希 健 介
PG48	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (22) —Mover-stayer潜在移行分析によるエージェント資源と向社会性の関連の検討—	岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 名城大学 久留米大学 名古屋大学大学院・ 日本学術振興会 岐阜聖徳学園大学	○吉 吉 浅 玉 澤 田 仁 宽 琢 知 俊 宽 良 風 和 之哉佳輔一
PG49	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (23) —子どもの反社会性を抑制する親・友人・教師・地域住民エージェントの相互補完的機能—	岐阜聖徳学園大学 岐阜大学 久留米大学 名古屋大学大学院・ 日本学術振興会 岐阜大学大学院 岐阜聖徳学園大学	○吉 吉 浅 玉 澤 田 仁 宽 琢 知 俊 嘉 文 之哉輔一和 [#]
PG50	社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (24) —養育と友人関係機能が自己他者モニタリングの発達軌跡に与える影響—	久留米大学 岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 名城大学 名古屋大学大学院・ 日本学術振興会 岐阜聖徳学園大学	○浅 吉 吉 原 玉 野 井 仁 宽 琢 知 俊 良 風 文 良輔之哉佳一和 [#]
PG51	児童会活動の一環として行った学校規模のソーシャルスキル教育と適応感 —学校規模でのQUの活用について—	早稲田大学	森 俊 博
PG52	若者のインターネット依存傾向 —親子関係にみるインターネット利用の現状—	(社) 安田女子大学 ネット依存から 子どもを守る会 静岡産業大学	○藤 裴 高 城 依 久 子 英 洋 [#] 田 佳 那 [#]
PG53	同調的対人態度と対人関係におけるバーンアウトの関係に対する批判的思考の影響	神戸大学大学院	牛 尾 憲 治
PG54	現代青年の友人関係における気遣う理由が自尊感情に与える影響	金沢工業大学大学院 金沢工業大学	○山 石 崎 川 亜 寿 美 健 介
人格			
PG55	大学運動部活動における部員の自律的動機づけが部活動への適応感に及ぼす影響 —主将のリーダーシップを調整変数として—	筑波大学大学院 筑波大学	○湯 外 山 美 立 立樹

PG56	ローゼンバーグ自尊感情尺度の2側面と自己愛人格傾向 —継続データの分析—	広島大学・日本学術振興会 広島大学	○福森留広大子
PG57	自閉症スペクトラム傾向の高い青年の理想自己の在り方	広島文化学園大学大学院 広島文化学園大学	○松山野崎実晃

臨床

PG58	牛乳嫌いの幼児に対する改善の取り組み1 —家庭における保護者の対応—	筑波大学 東京未来大学 富山大学 筑波大学大学院 筑波大学	○水野智穂沙子己
PG59	大学新入生の自閉症スペクトラム傾向が友人関係満足感に及ぼす影響 —個人・環境要因の保護機能に注目して—	筑波大学 筑波大学 筑波大学	○水野雅矩之子楓
PG60	アレキシサイミア空間からみた大学生のキャリア意識・行動	愛知みずほ大学 常葉大学 株式会社フィールコーポレーション	○後藤和史也 吉田哲也 西川ほたか
PG61	青年期のSNS依存におけるソーシャルメディア使用ストレッサーと見捨てられ不安の関連	弘前大学大学院 弘前大学大学院 弘前大学	○河村咲希ひとみ子
PG62	大学生の適応行動の捉え方 —心理専門家との違いの比較—	北星学園大学大学院	青陽千果

特別支援

PG63	自閉症生徒の描画の特性（模写と写生）	愛知教育大学大学院	永井弘人
PG64	通級指導教室に通う小学生のコーピング尺度の検討	関西大学大学院	吉原勝
PG65	ADHD不注意傾向幼児への保育者の対応困難感	筑波大学大学院	水野裕子
PG66	視機能のアセスメントを視覚障害領域以外で活用するための有効な工夫について —視覚障害教育における視機能のアセスメントの結果を広く、特別支援教育の領域に活用するため に—	岡山東支援学校	刀禰豊

学校心理学

PG67	「精神的充足・社会的適応力」評価尺度による心理的柔軟性の育成 —評価尺度の反復実施による検討—	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○綿井雅康 加藤陽子
PG68	小中一貫校の学校づくりにおける教師の学習 —開校準備に携わる教師の語りに着目して—	東京大学大学院	藤江康彦
PG69	学級集団と児童理解のためのアセスメント方法の試案	伊勢崎市立坂東小学校 上越教育大学	○品田ゆき子 高橋知己

PG70	女子短大生に対するグループワークプログラム実践の試み（5）	(株) みどりトータル・ヘルス研究所 (株) みどりトータル・ヘルス研究所 京都光華女子大学短期大学部 堀山女学園大学 近畿大学 近畿大学 (株) みどりトータル・ヘルス研究所 (株) みどりトータル・ヘルス研究所	○松原耕平 猪澤歩 森際孝司 高岡寛子 本岡香奈子 大田昌也# 立命館大学 三田村仰# 林敬子
PG71	自尊感情・本来感の向上を目指した教師・保護者・友人のはたらきかけへの介入実践 —心理的Well-beingへの効果を含めた検討—	岐阜市立長森中学校 岐阜大学	○山田恭子 吉澤寛之
PG72	高校における心理学の学びの効果	放送大学	小島淳子
PG73	中学生のインターネット依存傾向に関する研究 —実態調査と「はまった体験」の聞き取りから—	高知県教育委員会 鳴門教育大学	○坪島佑季 小倉正義
PG74	長期休業前後の児童の登校回避感情に学校適応感が与える影響	鹿児島大学大学院 鹿児島大学 鹿児島大学	○嶋田未菜美 島大坪弘彦
PG75	中学生の道徳性と主体的に行う生徒指導上の問題行動との関連	愛知県刈谷市立日高小学校	中野真悟
PG76	高校生のインターネット上の友人が自己肯定感に及ぼす効果 —インターネットを通して友人をつくることへの評価と被受容感に着目して—	北海道大学	佐藤奈月
PG77	SGH指定高校の活動に対する満足度の要因	長野県長野高等学校 長野県屋代高等学校	○白鳥美香 大石超
PG78	SGH指定高校における海外研修の効果	長野県屋代高等学校 長野県長野高等学校	○大白石超 鳥美香

測定・評価・研究法

PG79	bi-factorモデルの応用可能性再考	株式会社リクルートマネジメントソリューションズ	坂本佑太朗
PG80	聴覚障害者における和楽器の聴取に関する検討	筑波大学大学院 筑波大学	○湯浅哲也 加藤靖佳
PG81	ビジネス顕微鏡による行動データの測定と学生の意識分析	千歳科学技術大学 千歳科学技術大学	○大河内佳浩 今井順一#

ポスター発表H

10月9日（月・祝） ポスター掲示時間 13:00～15:00
在席責任時間 奇数番号13:00～14:00 偶数番号14:00～15:00

発達

PH01	大学生のアイデンティティの形成と文化的自己観の関係 —教員養成大学の学生と総合大学の学生の比較から—	京都教育大学大学院	岩佐康弘
PH02	高校生の大学受験にかかる専攻決定プロセスの質的研究 —M-GTAを用いて—	尚絅学院大学 尚絅学院大学	○川端壮康 佐藤真奈美#
PH03	他者との関係に応じた幼児・児童の感情の表出制御	甲南大学大学院	吉川詩織
PH04	幼児期における関係性攻撃 —一心の理論及び情動環境との関連の検討—	相山女学園大学 東京大学・日本学術振興会	○溝浜川名真以
PH05	青年期の自己意識の発達的変化(3) —理想自己の様相を検討する—	兵庫教育大学大学院	中間玲子
PH06	幼児初期における「じぶん」の認識について —鏡像反応の縦断的分析から(その2)—	大阪健康福祉短期大学	高木玉江
PH07	東アジアと欧州の教科書にみる親子間葛藤 —日本・中国・ドイツ・イタリアの親子間葛藤に焦点をあてて—	同志社女子大学	塘利枝子
PH08	親友の存在と適応との関係 —親友がいる・いない・いるかどうかわからない大学生の比較—	筑波大学 京都大学	○佐藤有耕 種村文孝#
PH09	情報のなわばりとモダリティ表現が確信度判断へ与える影響I	尚絅学院大学 聖和学園短期大学	○小泉島嘉典子
PH10	他者評定による幼児の完全主義の検討 —縦断データを用いた親評定と保育者評定の比較—	関西福祉科学大学 武庫川女子大学 子ども発達科学研究中心	○西元直正 山本美顕
PH11	幼児期における行動抑制の発達的変化(8) —幼児期の抑制行動得点と小学校でのQ-U得点との関連—	武庫川女子大学 武庫川女子大学 武庫川女子大学	○難河佐々木 波合久美子 河合優年 佐々木惠#
PH12	社会情動的スキルの育成に対する保育者の意識	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○大宮明子 石田有理
PH13	中学生の母親に対する苛立ちの強さと回想的な児童期の母子関係との関連	東洋学園大学	福田佳織
PH14	教職キャリアの発達課題仮説の提案I —小・中・高校教師経験者からの提案—	就実大学 香川大学 兵庫教育大学 愛知県西尾市立佐久島中学校 国際基督教大学 就実大学	○高木亮純 高木忠雄 藤原守紘 長谷守安 長谷安夫 清水真佐子

測定・評価・研究法

PH15 教師のキャリアを描像する分析手法の現在と展望 —教職キャリアの発達課題仮説の提案II—	名古屋大学大学院 ○長谷守紘 就実大学 吉田満穂#
教授・学習・認知	
PH16 アクティブ・ラーニングにおけるコミュニケーション活動がジェネリックスキルや学習意欲に及ぼす効果	神戸市外国语大学 田村美恵
PH17 看護学生の死生観 —自由記述の分析より—	大阪信愛女学院短期大学 ○石井あゆみ 大阪信愛女学院短期大学 藤田和加子 大阪信愛女学院短期大学 德珍温子
PH18 理科の『落書き』を使って描きながら考える力の育成（I） —中学校理科 地球と宇宙の学習において—	岡山県津山市立津山西中学校 ○谷本薰彦 岡山大学 荒尾真一
PH19 物語の展開に関する期待を促進するイメージの分析 —テキストマイニングの手法を用いて—	惠泉女学園大学 伊藤尚枝
PH20 大学若手教員の教育観に関する一考察 —FDに関するインタビューの結果から—	徳島大学 ○新原将義 三重大学 久保田祐歌#
PH21 保育学生がもつ保育現場（保育者）イメージによる希望就職先の検討	白百合女子大学 佐藤那美
PH22 協同学習における成績および意欲の変化について	千葉科学大学 熊谷圭二郎
PH23 英語授業の目標認知と予習方略の関連 —信念・動機・認知に着目した影響プロセスの検討—	日本大学 ○篠ヶ谷圭太 東京大学 木澤利英子
PH24 小学生に対する対話促進ツールを用いた協働学習の支援 —高学年クラスにおける実践についての検討—	清泉女学院大学 ○生井裕子 マナビクリエイト 中島久樹# 東京都北区立袋小学校 山下徹#
PH25 小学校の授業における効果的な板書の検討（1） —メタ認知の発達と理解度評定の関連—	明星大学 布施光代
PH26 教える立場にいる人の「ビリーフ」比較 —コーチングの影響をめぐって—	三重県立桑名西高等学校 石田正寿
PH27 ネガティブ感情はいつバネになるのか —達成目標と自己効力感がネガティブ感情に与える影響に着目して—	名古屋大学大学院 川島万由子
PH28 学習教材における挿絵の学習意欲効果とリラックス効果について	長崎純心大学大学院 ○増岡紗也香 長崎純心大学 長嶋一郎
PH29 ゆるし傾向性と認知的感覚制御方略との関連の検討	早稲田大学大学院 山本琢俟
PH30 SNSにおける悲観的発信に対する閲覧者の認知	大阪大学大学院 ○野口直樹 大阪大学大学院 三宮真智子
PH31 個人特性要因が対人記憶に及ぼす影響	上越教育大学大学院 ○岩高本知絵 上越教育大学 知橋己

PH32	時系列にみる教育実習生の省察の変容	上越教育大学大学院 上越教育大学	○岩高澤美咲 橋知己
PH33	反証事例の配列順序の違いが「浮力」に関する誤概念修正に及ぼす効果	上越教育大学大学院 上越教育大学	○田邊雄也 高橋知己
PH34	保育学生の子どもの対人葛藤場面への対応 —子ども情報を追加すると対応はどう変容するか—	京都ノートルダム女子大学	畠山寛
PH35	看護学臨地実習における教員・実習指導者が学生の実習適応感に与える影響 —学生が認知した教員・実習指導者の役割に着目して—	関西大学大学院 兵庫医療大学 関西大学	○コウケイホウ 竹田千佐子# 脇田貴文
PH36	授業中の私語抑制に関する認知心理学的研究	神戸女学院大学	中田英利子
PH37	小学生の学習習慣・学習意識と親の教育観との関係に関する研究	早稲田大学大学院 早稲田大学	○荒牧良祐 浅田匡
PH38	短期大学生の学習課題先延ばし行動とセルフコントロールとの関連	中京学院大学	遠藤美行
PH39	中学校の理数系教科書における問い合わせの機能に関する検討（3） —数学的理解を促すための問い合わせの並びに着目して—	日本学術振興会特別研究員 共立女子大学	○小田切歩美 石橋優
PH40	中学校の理数系教科書における問い合わせの機能に関する検討（4） —科学的理解を促すための問い合わせの並びに着目して—	日本学術振興会特別研究員 共立女子大学	○石橋歩美 小田切
PH41	教室という弁証法（1） —学級での教師の価値づけに着目して—	横浜国立大学大学院 横浜国立大学	○関原平文 有元典
PH42	教室という弁証法（2） —教師によって変化する生徒の主体性—	横浜国立大学大学院 横浜国立大学	○藤森紀文 有元典
PH43	教室という弁証法（3） —教師と学習者の協働と捉える質問行動—	横浜国立大学大学院 横浜国立大学	○社本歩美 有元典
社会			
PH44	マインドワンダリングが創造的な問題解決に及ぼす影響 —精神的健康と感情状態に着目して—	筑波大学大学院 筑波大学	○山岡明奈 湯川進太郎#
PH45	座席位置と相互独立-相互協調的自己観の関係	奥羽大学 奈良教育大学	○多根井重晴 豊田弘司
PH46	主観的時間的距離感が精神的健康及び時間的展望に与える影響について	甲南大学大学院	安藤舞
PH47	児童の学級コミットメントが教師の突きつける指導行動の有効性に及ぼす影響	上越教育大学	森智史
PH48	父親の育児・家事参加に対する母親の受け止め方についての質的研究	筑波大学 筑波大学	○金子楓和 濱口佳和

PH49	身近な他者への相談が意思決定後の後悔に及ぼす影響	名古屋大学大学院 三重大学 名古屋大学	○伊瀬拓 戸美奈子 金篤子
PH50	文脈的アプローチに基づいた感謝表出スキルの特徴 —半構造化面接による予備的検討—	筑波大学 筑波大学	○酒相智弘 川充
PH51	向社会的行動とセルフコンパッションがレジリエンスに及ぼす影響について —構造方程式モデリングによる検討—	法政大学大学院	岩城美良

人格

PH52	現代青年の「悩めなさ」についての研究 —尺度作成の試み—	春日井市民病院 愛知教育大学	○鳥上本大貴 田琢哉
PH53	性差及び出生順が援助要請の阻害要因に与える影響 —利益コストに着目して—	上越教育大学大学院 上越教育大学	○堀高江奈央 橋知己
PH54	自己の可変性に関する信念と適応 —理想自己と現実自己の差異との関連から—	東京家政大学大学院 東京家政大学 慶應義塾大学	○笠平千秋 原真理治 鹿毛雅治

臨床

PH55	児童養護施設心理職を対象とする補完的教育プログラムの実践（2） —施設心理職としての自己効力感と職務ストレスの変化—	佐賀大学 児童養護施設大村報徳学園	○若福本純子 永真理奈#
PH56	自分を表現できない高校生が学校に適応していくまでの一過程 —学校側とSCとの協働を中心に—	医療法人さつき会 中川クリニック	金子信一
PH57	2016年B県調査による高等学校教師のメンタルヘルス（1）	上越教育大学 秋田大学 足利工業大学 上越教育大学 上越教育大学	○奥北村太正 森島慶敏 宮下井
PH58	2016年B県調査による高等学校教師のメンタルヘルス（2）	上越教育大学 秋田大学 足利工業大学 上越教育大学 上越教育大学	○北島正太 奥村慶敏 森宮下井
PH59	2016年B県調査による高等学校教師のメンタルヘルス（3） —B県C市小中学校調査、A県高等学校調査との比較—	足利工業大学 上越教育大学 秋田大学 上越教育大学 上越教育大学	○森奥村慶太 北島正敏 宮下井

特別支援

PH60	聴覚障害児童に対する日記指導における指導内容の特徴 —低学年在籍児童に対する指導の分析—	東北福祉大学	茂木成友
------	---	--------	------

PH61	高等学校と特別支援学校高等部の位置的統合による教育効果 —静岡県の高校生へのアンケート調査から—	静岡県立清水南高等学校・同中等部	杉木 充
PH62	計算の流暢性指導における行動に着目したアセスメント・指導の事例的検討	筑波大学大学院 筑波大学	○真名瀬 陽平 野呂 文行
PH63	小学生における障害理解の程度に関する研究 —障害児者に対する態度や認識を中心として—	北海道教育大学大学院 北海道教育大学	○田名部 沙織 細谷 一博
学校心理学			
PH64	中学生・高校生の教師との関係と学校適応感との関連	東京大学教育学部 附属中等教育学校	石橋 太加志
PH65	「いじめ」による仲間からの排斥が将来展望に及ぼす影響 —高校生を対象とした調査から—	中部大学	三島 浩路
PH66	定時制高校における学校への適応の検討について —全日制高校との比較から—	北海道大学 常葉大学 北海道大学	○渡邊正仁 太田義通 加藤弘
PH67	保護者の学校への苦情に関する調査研究 —「クレーム」と「愚痴」という視点からの検討—	東京学芸大学大学院 東京学芸大学 東京農工大学 東京学芸大学	○日下虎太朗 橋本創一 三浦巧也 杉岡千宏
PH68	教師の指導行動が小学生の援助要請に対する意識に及ぼす影響	兵庫教育大学大学院 兵庫教育大学	○浅原修一 秋光一子
PH69	中学生の部活動所属の有無や参加態度と生徒のソーシャルスキルの活用との関係 —部活動への意欲、コミットメントの度合に注目して—	早稲田大学大学院 早稲田大学	○河村明和 河村茂雄
PH70	中国におけるいじめ・体罰・虐待の関連性 —幼・小・中・高の教師へのインタビューの質的分析—	名古屋大学大学院 大阪教育大学	○陳佳怡 謝戸田俊一
PH71	教育実習における心理的ストレス反応に関する研究 —居場所感と教育実習ストレッサーの及ぼす影響—	鹿児島大学大学院 鹿児島大学	○迫田城一 今林俊一
PH72	教師における継承的指導実践を促進するコンサルテーション・プログラム項目の検討 —教頭の具体的機能に着目したコンサルテーション・プログラム—	大阪府柏原市立玉手中学校 大阪教育大学	○井原裕子 牧郁子
PH73	メンタライゼーション能力の高さが日常的フォーカシング態度および自己調整学習に及ぼす影響	大阪大学大学院 大阪大学大学院	○増田優子 三宮真智子
PH74	小中学生における登校への動機づけ尺度の開発 —(1) 項目選定および信頼性・構成概念妥当性・併存的妥当性の検討—	名古屋大学 信州大学	○五十嵐哲也 茅野理恵
PH75	小中学生における登校への動機づけ尺度の開発 —(2) 交差妥当性および基本統計量の検討—	信州大学 名古屋大学	○茅野理恵 五十嵐哲也

測定・評価・研究法

- PH76 学力の発達を追跡するための垂直尺度化について
東北大学 ○瀧 谷 拓 巳
東北大学 柴 山 直
- PH77 高校生の理科学習に対する志向性を測定するアン
ケートの開発
岐阜大学 ○佐 川 遼 磨
岐阜大学 吉 澤 寛 之
- PH78 自閉スペクトラム症傾向と粗暴行為との関連
—非行少年を対象として—
名古屋大学大学院 ○山 脇 望 美
名古屋大学 河 野 荘 子

発表者索引

注) 準企基: 準備委員会企画基調講演, 準企小: 準備委員会企画小講演, 準企シ: 準備委員会企画シンポジウム, 研企シ: 研究委員会企画シンポジウム, 研企チ: 研究委員会企画チュートリアルセミナー, ハ防企: ハラスメント防止委員会企画講演, J: 自主企画シンポジウム, P: ポスター発表, を指す。なお, ポスター発表の太字は責任発表者を表す。#印は会員以外の登壇者, 連名発表者を示す。

- あ -		新 井 庭 子#	JF01	池 田 満	PC75, PF51
相 川 充	PD46, PE52, PE76, PE77, PH50	新 井 紀 子#	JF01	池 田 幸 恭	PD09
相 澤 直 樹	PD58, PD62	新 井 肇	JG01	猪 澤 歩	PG70
相 澤 雅 文	PC06, PC07, PC08, PC09, PC10	荒 尾 真 一	PE19, PG37, PH18	伊 澤 幸 代	PF30
會 津 律 治	PA16	荒 木 紀 幸	JG02	石 井 あ ゆ み	PC21, PH17
相 羽 大 輔	PE65	荒 木 穂 積	JH04	石 井 優 一郎	PF33
青 木 翔 子#	PE36	荒 牧 良 祐	PH37	石 井 僚	PD29, PE11
青 木 直 子	JB05, PD17	有 門 秀 記	JA05	石 上 浩 美	JC03, PE17
青 山 郁 子	JF06, JG04	有 馬 比 呂 志	PE39, PG26	石 川 国 広	PB61
青 山 征 彦	JH03	有 元 典 文	PE13, PE14,	石 川 健 介	PD61, PF74, PG47, PG54
青 陽 千 果	PG62	栗 津 俊 二	PD31	石 川 信 一	PD29, PE11
赤 木 和 重	JG05	安 藤 明 伸#	PB22	石 川 隆 行	JG02, PD02
赤 澤 淳 子	PC20, PD80	安 藤 寿 康	JF05, PA20	石 川 真	PB51
縣 拓 充	PD23	安 藤 史 高	PB72	石 川 美 智 子	JE04, PB71
赤 松 大 輔	PB77, PF28	安 藤 舞	PH46	石 川 有 香#	PC41
秋 田 喜 代 美	JC02, PE75, PG46	安 藤 美 華 代	PG04	石 毛 順 子	PC40
秋 場 大 輔	JB04	- い -		石 田 佳 織#	PG46
秋 光 恵 子	PF75, PG42, PH68	飯 島 典 子	PC06, PC07,	石 田 拓 矢	PA18
秋 山 史 子	PF46		PC08, PC09, PC10, PH09	石 田 信 彦#	PE23
浅 井 淳	PC41, PF26	飯 島 有 哉	PF57	石 田 正 寿	PH26
浅 田 匡	PH37	飯 村 周 平	PF02	石 田 靖 彦	PB73
浅 野 良 輔	JD02, PG48, PG49, PG50	家 島 明 彦	JF06	石 田 有 理	PH12
		五十嵐 敦		石 橋 廣 一#	PG43
浅 原 修 一	PH68		JE03, PG14, PG15	石 橋 太 加 志	PH64
芦 田 祐 佳	PE27	五十嵐 哲 也	PH74, PH75	石 橋 裕 子	PB66, PB67
足 立 邦 子	PA05	伊 川 美 保	PF81	石 橋 優 美	JE01, JG03, PH39, PH40
足 立 匠 基#	JD05	生 井 裕 子	PH24	石 橋 玲 子	PB23
安 達 真 由 美 #	PE08	池 志 保	PG01	石 本 雄 真	JG04, PB59
穴 水 ゆ か り	PF05	池 上 慎 平#	PG10	伊 尻 正 一	PH68
安 念 保 昌	PB14, PB15, PF53	池 上 真 平#	PG09	井 芹 ま い	PF55
		池 上 知 子	研企シ1	磯 和 壮 太 朗	PF56
油 川 さ ゆ り	PF16	池 田 賢 司	PG33	伊 田 勝 憲	JE05, PB38
阿 部 晋 吾	PA53	池 田 琴 恵	PC75	市 川 哲	JA05
天 井 韶 子	PF08	池 田 智 子	PB56	市 川 伸 一	JA04, JD01
天 谷 祐 子	PC54	池 田 慎 之 介	PA42, PA43	市 川 真 帆 子#	PB58
綾 部 宏 明	PF81, PG30	池 田 七 海	PG07	市 川 洋 子	PH25
				市 村 美 帆#	PH34
				市 本 早 香	PG24

一 柳 智 紀	PD27	上 田 紋 佳	PC17	大 石 超	PG77, PG78
井 手 裕 子	PC15	上 田 琢 哉	PH52	大 内 善 広	PC22, PD07
伊 藤 亜矢子	JA03	上 田 敏 丈		大 内 里 紗	PE13
伊 藤 嘉奈子	PF66		PC62, PF64, PF65	大 川 内 鉄 二 #	PF33
伊 藤 康 児	PE03	上 野 淳 子	PB53, PB54	大 岸 通 孝	PA81
伊 藤 貴 昭	JD01	植 原 俊 晴		大 久 保 智 生	
伊 藤 崇 崇	PC22	植 松 公 威	PB17	準企シ4, JA03, JG05, PD47	
伊 藤 崇 達	準企シ2, JB04	魚 崎 祐 子	JE02, PB41	大 久 保 義 美	PA73
伊 藤 拓	PH49	宇 佐 美 慧		大 久 保 諒	準企シ3
伊 藤 忠 弘	PB49	氏 家 達 夫	準企小, 準企シ3,	大 河 内 佳 浩	PG81
伊 藤 俊 一	PA38		JE03, PG14, PG15	大 崎 理 乃 #	JC02
伊 藤 奈 央 #	PF36	牛 尾 憲 治	PG53	大 澤 久 乃	PF12
伊 藤 尚 枝	PH19	牛 久 香 織	PD21	大 島 みづき	PA04
伊 藤 大 幸	JD05	白 井 伸 之 介 #	PG29	太 田 絵 梨 子	PA42, PA43
伊 藤 美 奈 子		宇 田 光	JA05	太 田 仁	PA53
	JG01, PC57, PC58, PC59	内 田 香 奈 子		太 田 正 義	
伊 藤 康 嗣	JD03		JF02, PA78, PA79		PC60, PE73, PH66
伊 藤 優	PE31	内 田 千 春	PB60	太 田 麻 祐 子 #	PF61
伊 藤 裕 子	研企シ3	内 田 照 久	PC81	大 巍 さと子	PA07, PD65
伊 藤 ゆりの #	PA04	内 山 伊 知 郎	JG02	大 谷 和 大	
稻垣(藤井) 勉	PF20	内 山 有 美			JB05, PD29, PE11
稻 田 拓 也	PG38		JF02, JG02, PD14, PD15	大 谷 哲 弘	PA62, PC72
稻 田 達 也	PF71	内 海 緒 香	PE56	大 津 悅 夫	JE05
犬 塚 美 輪	JB01, JF01	宇 野 正 明	PG41	大 津 嘉 代 子	PC42, PC43
井 上 裕 光	JE03, PG14, PG15	梅 崎 高 行	PA46, PA49	大 対 香 奈 子	PG70
井 上 弥	PF48	梅 本 貴 豊		大 塚 貴 之	PB62
猪 原 敬 介	PC17, PF79		JA01, JB05, PD36	大 塚 雄 作	八防企, JC01
井 原 啓 裕	PH72	浦 上 昌 則	PB19	大 坪 治 彦	PG11, PG74
荆 木 まき子	PC74	浦 上 萌	PF35	大 西 彩 子	
今 井 順 一 #	PG81	浦 野 裕 司	JD04		PC53, PE72, PG05
今 枝 史 雄 #	JC05		— え —	大 西 範 英 #	PB33
今 枝 美 月 #	PA80			大 西 真 樹 男	PG13
今 林 俊 一	PB66, PB67, PE63, PH71	江 崎 由 里 香	PF06	大 西 美 香 子	PE03
今 村 慎 吾	PA69	江 角 周 子	PA61	大 西 理 加	PF23
岩 佐 康 弘	PH01	枝 廣 和 憲	PA58, PC67	大 庭 茂 美	PA30
岩 崎 俊 #	PA48	越 中 康 治	PF64, PF65	大 橋 洋 太 郎	PF80
岩 澤 美 咲	PH32	衛 藤 裕 司	PF63	大 宮 明 子	PH12
岩 城 美 良	PH51	蛇 名 正 司	PA44, PA45	大 山 智 子	PD55
岩 田 美 保	PC13	遠 藤 育 男 #	PC35	岡 崎 真 裕 美	PG29
岩 本 知 絵	PH31	遠 藤 利 彦	JC01	岡 崎 由 美 子	PG04
		遠 藤 寛 子	PE71	岡 沢 秀 彦 #	PC64
		遠 藤 美 行	PH38	小 笠 原 千 明 #	PE31
		遠 藤 志 乃	PF19	岡 嶋 一 郎	PH28
				岡 田 努	PA56
				岡 田 有 司	
宇 井 美 代 子	PB34		— お —		JA03, PF13, PF14, PF15
宇 惠 弘	PB57			岡 田 凉	JB05, JG05
上 岡 紀 美 #	PB05	及 川 智 博	PG17	岡 花 祈 一 郎 #	PF64, PF65
植 木 祐 介 #	PC42, PC43	及 川 昌 典	JB01	岡 本 弘 子	PC49
植 阪 友 理		尾 池 晴 香 #	PG02	岡 本 泰 弘	PB78
研企シ2, JA04, JC01, PG19		王 巍 崇	PF69	小 川 一 美	PF49

小川圭子	PC44, PC45	梶原直樹	PD51	龜田秀子	PD49
小川修史#	JB02	鹿鳴達哉	PB10	龜山洋光	PD52
小川亮	PA31	霞麻紗子#	PD01	龜山麻衣子#	PD52
小川内哲生	PB03	片瀬拓弥	PD70	賀屋育子	
沖原総太	JA05, PC68	勝浦眞仁	PC62		JF02, PA78, PA79
荻原はるみ	PC62	勝見愛湖	PF37	茅島路子	PB34
奥田亮#	PA37	桂志保#	PD63	唐澤真弓	PG03
奥田裕紀	PC03	桂川泰典	JD06, PF57	輕部雄輝	PE16
奥西有理	PF27	桂田恵美子	PC20, PD80	河合輝久	PE58
奥野誠一	PC61	加藤陽子	JD06, PG67	河合優年	PH11
奥村太一		加藤慧	PB81	川上正浩	PA37
	PH57, PH58, PH59	加藤尚吾#	PC49	河崎美保	PC35
小椋佐奈衣	PE08	加藤大樹	PD68	川嶋健太郎	PA09, PB12
小椋たみ子	PB02	加藤弘通		川島哲	PD71
小倉正義	準企シ1, PG73		PC60, PE73, PH66	川島万由子	PH27
尾崎幸謙#	JF01	加藤みづき		川副延生#	PB58
尾崎仁美	PB28, PB35		PF39, PF40, PG44, PG45	川田学	PG17
長田真人	PD62	加藤靖佳	PG80	川田裕次郎	PD60
小澤郁美	PF35	加藤由樹	PC49	川野敬子	PB27
小沢日美子	PE01	加藤悠二#	研企シ3	川野辺令恵	JE04
小澤靖枝	PB56	加藤幸久	PE03	川端壮康	PH02
小澤康幸#	PC49	門原真佐子	PH14	川畑良裕#	PF74
押尾恵吾		金井篤子	PH49	川俣智路	JC04, JH03
	JA04, PE41, PF39, PF40	金山健一	JP06	河村明和	PH69
小嶋玲子	PA72	金子恵美子		河村昭博	PB69
小田切歩			JG01, PC57, PC58, PC59	河村咲希	PG61
	JG03, PH39, PH40	金子楓	PG59, PH48	河村茂雄	JD03, PB16,
落合洋子#	PB01	金子功一	PD44, PD45		PB69, PD64, PF18, PF55, PH69
小野淳	JB02	金子重美	PF58	川本大史#	PE47
小野健太郎	PE32	金子信一	PH56	川本哲也#	JF05
小野昌彦	PA61	金子智栄子	PD44, PD45	神崎真実	JH03
小野美和	PC38	金子智昭		神田まほろ	PG11
小野田亮介	PD41		PD44, PD45, PD74	菅野純	JD06
小山義徳	JH01	金子晴恵#	JD04		
織田涼	PA36	金子一史	準企シ1		
		金子雅臣#	ハ防企		
		金子正弘	PG25		
		金子泰之			
柿沼亨祐	PG33, PG34		PF13, PF14, PF15	木川智美	PC05
柿原直美	PD28	金築智美	PE61	木澤利英子	PH23
鹿毛雅治		金築優#	PE61	岸俊行	PC73
	準企シ2, JB01, PH54	金綱知征	JF06	岸野麻衣	JD01
懸田孝一	PC29	金綱祐香	PE07	北島正人	
笠井清登#	準企シ4	鎌田次郎	PB27		PH57, PH58, PH59
笠原千秋	PH54	鎌田陽世	PC44, PC45	北原靖子	PA09, PB12
笠原正洋	JA02	鎌田雅史	PC77	吉川徹#	研企シ1
風間文明	PE53, PE54	神沢美波#	PD01	鬼頭昌也	PE71
風間みどり	PG03	上西秀和#	PG19	木野和代	PB60
梶井芳明		上村英男#	PG43	木下孝司	JH04
	PA19, PE32, PG22	神谷哲司	JH05, PC11	木下知子#	PE68
梶原和子#	PD51	亀井美弥子	PA15	木下弘基#	PC60
				木下雅博	PE72
				木下まゆみ	PD25

岐 部 智恵子	PF77, PF78	高 坂 康 雅	PF13, PF14, PF15	- さ -
木 村 聰 美#	PE20	香曾我部 琢	JH05, PE02	齋 田 裕 香#
木 村 直 子	PA75	河 内 晴 美	PA72	齊 藤 彩
木 村 美奈子	JE02	河 野 荘 子	準企シ4, PH78	齋 藤 彩 乃
金 明 汶	PE70	古 賀 裕 美		齋 藤 和 志
- く -				
日 下 虎太朗	PH67	古 川 堅太郎#	PC57, PC58, PC59	齊 藤 誠 一
楠 見 孝	PA24, PF81, PG32	小 坂 浩 隆#	PD63	齊 藤 貴 浩
樟 本 千 里	PB05	腰 川 一 恵	PC64	齋 藤 俊 則#
沓 澤 糸#	PF79	小 島 淳 一	PA67	齋 藤 日 向 子#
工 藤 弘	PE67	小 島 淳 子	PE37	齋 藤 富 由 起
工 藤 与志文	JE01, PB44, PB45	小 島 峰 佳 子	PG72	齊 藤 勝
久 保 勝 利#	PA23	小 島 清 香	PG21	齋 藤 謐
久保田 祐 歌#	PH20	小 閑 俊 祐	PE09	齋 藤 祐 子#
窪 田 由 紀		小 平 英 志	JD06	齋 藤 嘉 則
準企シ1, PD78, PD79, PF68				
熊 谷 圭二郎	JD03, PH22	後 藤 和 史	PB72	酒 井 厚
久 米 瑛莉乃	PE74	後 藤 さ ゆ り #	PC01	坂 井 敬 子
倉 元 直 樹	PA82	後 藤 靖 宏	PE35	酒 井 智 弘
栗 原 慎 二	PD75	後 藤 由 季 奈#	PH25	酒 井 渉
栗 原 ひとみ	PA13, PF04	後 藤 玲 奈#	PD54	榊 太 郎
栗 山 和 広	JG03, PE18	小 西 章 典#	PG60	榊 美 知 子
栗 山 直 子	PB31	小 西 聖 子#	PA17	坂 田 浩 之#
車 田 梓	PE35	小 沼 豊	PG22	坂 原 泰 子
黒 石 憲 洋	PC47	小 林 恵 子#	PB29	坂 本 篤 史
黒 川 雅 幸	PC51, PE55	小 林 佐 知 子	PC41	坂 本 美 紀
黒 住 嶺	PD46	小 林 小 夜 子	八防企	坂 本 佑 太 郎
郡 司 菜 津 美	PD20	小 林 矩 子#	PB46	坂 本 理 香
- け -				
解 良 優 基	PE26, PG39, PG40	小 林 宽 子	PD72	相 良 順 子
元 笑 予	PE51	小 林 真	PE60	PA40, PB32, PF37
- こ -				
胡 琴 菊	PD22	小 林 美 佐 子	PA70	佐 川 遼 磨
小 池 はるか	PC48	小 林 由 美 子	PG59	阪 脇 孝 子
小 泉 嘉 子	PH09	小 林 由 子	崎 濱 秀 行	PH77
小 泉 隆 平	PB77	小 松 和 佳	PF36	佐 川 遼 磨
小 泉 令 三	JF03, PA68, PF67	小 湊 真 衣#	PC28	佐 久 田 祐 子#
コウ ケイホウ	PH35	古 村 健 太 郎	PA66	櫻 井 茂 男
高 向 山	PA46, PA49	小 村 俊 平#	PD76	櫻 井 登 世 子
江 聚 名	PG33	米 田 英 嗣	JG01	迫 田 一 城
向 後 千 春	PC36, PF30	小 谷 田 照 代#	PB36	佐 々 木 和 義
- こ -				
胡 琴 菊	PD22	小 山 聰 子	PF07	佐 々 木 宏 之
小 池 はるか	PC48	紺 田 広 明#	PA49	佐 々 木 恵 #
小 泉 嘉 子	PH09	近 藤 和 也	PD50	佐 藤 梓
小 泉 隆 平	PB77	今 野 紀 子	JC02	佐 藤 翔 #
小 泉 令 三	JF03, PA68, PF67		PC64	佐 藤 賢 輔
コウ ケイホウ	PH35		PC17	佐 藤 純
高 向 山	PA46, PA49		PB76, PF70	佐 藤 誠 子
江 聚 名	PG33		PC01	佐 藤 貴 紀#
向 後 千 春	PC36, PF30		PD67	佐 藤 達 哉
- こ -				
齋 田 裕 香#		今 野 紀 子	PC32, PD83	JH05
齊 藤 彩			PD67	佐 藤 那 美
齋 藤 彩 乃			佐 藤 友 美	PH21
齋 藤 和 志				PE43, PE44, PE45
齊 藤 誠 一				佐 藤 奈 月
齊 藤 貴 浩				PG76
齋 藤 俊 則#				
齋 藤 日 向 子#				
齋 藤 富 由 起				
齊 藤 勝				
齋 藤 謐				
齋 藤 祐 子#				
齋 藤 嘉 則				
酒 井 厚				
坂 井 敬 子				
酒 井 智 弘				
酒 井 渉				
榊 太 郎				
榊 美 知 子				
坂 田 浩 之#				
坂 原 泰 子				
坂 本 篤 史				
坂 本 美 紀				
坂 本 佑 太 郎				
坂 本 理 香				
相 良 順 子				
佐 川 遼 磨				
佐 久 田 祐 子#				
櫻 井 茂 男				
櫻 井 登 世 子				
迫 田 一 城				
佐 々 木 和 義				
佐 々 木 宏 之				
佐 々 木 恵 #				
佐 藤 梓				
佐 藤 翔 #				
佐 藤 賢 輔				
佐 藤 純				
佐 藤 誠 子				
佐 藤 貴 紀#				
佐 藤 達 哉				
佐 藤 那 美				
佐 藤 友 美				
佐 藤 奈 月				

佐藤 真奈美#	PH02	莊島 宏二郎	準企チ	- セ -
佐藤 有耕	PH08	白井 俊介#	PD63	
真田 穂人	PD75	白木 久美子	JE04	瀬尾 美紀子 JB04, JG03
澤田 匠人	PD02	白鳥 美香	PG77, PG78	関智子 PB61
三宮 真智子	PD38, PF56, PH30, PH73	白水 始	JC02	関陽子 PC80
		城間 祥子	PB40	関貴裕 PC34
		新谷 和代	PB13	関口 美優香 PF52
		進藤 聰彦	JG03	関口 雄一 PA14
		神野 潔#	JB03	関原 良平 PH41
		新原 将義	PH20	関山 徹 PA69
椎名 乾平	PB82			
James, Gross J.#	PE49			
塙谷 京子#	PC17			- す -
重根 美香	PF67			
滋野井 圓	PF74	末松 加奈	PB18	
司城 紀代美	PF38	菅井 篤	PG23	
品田 ゆき子	PG69	菅原 真悟#	JF01	
篠ヶ谷 圭太	JB04, PH23	菅原 宏明	PG28	- も -
篠田 麻佳	PG05	菅原 ますみ		相馬 誠一# JG01
篠原 ひとみ#	PG61		JD02, PB08, PF03	染谷 芳明# PA20
柴里 実	JA04	杉浦 淳吉	研企シ1	- た -
芝崎 美和	PA02, PA03	杉江 征	PE16	
芝崎 良典	PA02, PA03	杉岡 千宏	PH67	太子 のぞみ# PG29
柴田 一匡	準企シ1	杉岡 正典#	PF68	大坊 郁夫# 準企シ2
柴田 利男	PB55	杉木 充	PH61	平 真木夫 PB22
柴田 展人#	PD60	杉澤 武俊	JH02	高 史明# 研企シ1
柴山 直	JC01, PH76	杉本 明子	PA65	高岡 しの PG70
渋井 和子#	PD42, PD43	杉本 貴代	PE75, PG46	高垣 マユミ PC50
瀧谷 拓巳	PH76	杉本 奈月	PA21	高城 佳那# PG52
島 義弘		杉本 英晴		高木 玉江 PH06
	PE06, PG06, PG11, PG74		JA01, PB19, PE43, PE44, PE45	高木 浩人 PB48
嶋崎 栄一	PE29	杉山 佳菜子	PD11	高木 亮 PH14
島田 育生#	PD63	鈴木 亜由美	PD03	高澤 健司 PC55
島田 英昭	PB39	鈴木 悅子	PA40, PB32	高嶋 幸太# PF80
嶋田 洋徳	PF59	鈴木 国威#	JF05	高田 純 PH14
嶋田 未菜美	PG74	鈴木 豪	JE01	高田 治樹 PG09, PG10
島貫 静	PC24	鈴木 純子	PE04	高田 理衣 PB14, PB15
清水 健司	PC56	鈴木 俊太郎#	PB39	高綱 瞳美 PB19
清水 奈名子#	PD02	鈴木 隆夫	PF38	高野 慶輔# 準企チ
清水 寿代	PC56	鈴木 高志	PD29, PE11	高野 了太# PF81
清水 安夫	PH14	鈴木 智子	PC16	高橋 健太 PF53
志村 拓弥	PE15	鈴木 誠	PG36	高橋 淳一郎 PC70
下岡 奈央#	PB73	鈴木 賢男	PC37	高橋 千枝
下村 綾菜#	PA70	鈴木 水季	PF77, PF78	PC06, PC07, PC08, PC09, PC10
霜村 麦#	PC61	鈴木 美樹江	PD68	高橋 知己 PF73, PG69, PH31, PH32, PH33, PH53
謝偉俊#	PH70	鈴木 由美		
社本 歩	PH43		PB62, PF31, PF71	高橋 南海子 PE05
首藤 敏元	PB05, PD55	鈴村 靖	PD10	高橋 登 PB07, PG08
肖雨知	PF10	角南 なおみ	PD73	高橋 陽香 PF53
庄司 正実#	PA18			高橋 麻衣子 PC33
庄司 一子	PF69			高橋 美保 研企シ2
東海林 麗香	JG05, PD72			高橋 有希子 PE20

高 平 小百合	JE02	多根井 重 晴	PH45	徳 田 克 己
高比良 美詠子	PE43, PE44, PE45	種 村 文 孝 #	PH08	JC05, PD48, PE64, PF22, PG58
高 本 真 寛	PE46	田 輜 憲 一 #	PB22	徳 珍 温 子
高 山 智	PA60	太 輜 直 也	PE50	PC21, PH17
滝 泽 龍 #	JF05	玉 井 颯 一		戸 田 有 一
田 口 久美子	JE05		PG48, PG49, PG50	JF06, JH05, PH70
田 口 雅 德	PD04	玉 木 宗 久	PE66	刀 櫛 豊
竹 内 康 二 #	PE42	田 村 隆 宏	PA75	利根川 明 子
竹 内 利 光	PD67	田 村 美 惠	PH16	利根川 智 子
竹 内 謙 彰	JE02	反 中 亜 弓	PF61	登 張 真 稲
竹 尾 和 子	JB03			土 肥 紳 一
竹 下 亜 美 #	PD01	— ち —		PC32, PD83
竹 下 浩	PC72	茅 野 理 惠	PH74, PH75	富 田 幸 子
竹 田 千佐子 #	PH35	中 條 和 光	PE39, PG26	富 田 英 司
竹 橋 洋 肇	PD53, PG31	陳 佳 怡	PH70	富 永 敦 子
竹 元 雅 也	PF60			富 山 尚 子
多 鹿 秀 繼	PA32, PD34	— つ —		塘 利枝子
田 実 潔 #	JB02			外 山 美 樹
田 島 充 士	PC19	塚 田 初 美 #	PB65	準企シ2, JB05, PB21
田 島 真沙美	PC61	塚 本 恵 信	PE28	PB75, PD46, PD77,
多 田 幸 子	PG02	辻 義 人	PC26	PF10, PF50, PG55
橘 春 菜	JE01, PG20	辻 谷 真知子	PE75, PG46	豊 沢 純 子
橘 廣 廣	PB06	筒 井 雄 二 #	準企シ3	PA33, PG45
辰 巳 友 唯	PF31	都 築 学		鳥 居 深 雪
楯 誠	PA12		PF13, PF14, PF15	鳥 本 大 貴
田 中 晶 子 #	JA02	椿 田 貴 史	PB58	Drottz-Sjøberg, Britt-Marie #
田 中 あゆみ	準企シ2, PD29, PE11, PG33, PG34	椿 本 弥 生	PB42, PB43	準企小, 準企シ3
田 中 瑛津子	JH01	津 波 古 澄 子 #	JB03	— な —
田 中 健史朗 #	PD36	坪 島 佑 季	PG73	名 尾 典 子
田 中 宏 二	PE74	— て —		仲 真紀子
田 中 江 扶 #	PB39			中 井 大 介
田 中 敏	PA57	出 口 拓 彦	PC46	JF03, PE55
田 中 周 子 #	JA02	寺 尾 敦	JH02	中 井 宏
田 中 孝 典 #	PF61	寺 尾 尚 大	PA80	永 井 明 子
田 中 琢 也	PF73	寺 田 未 来	JC03, PE47	永 井 曜 行
田 中 俊 也	PE70	寺 本 妙 子	PE12	永 井 智
田 中 光	PE39, PG26			永 井 弘 人
田 中 優	PC82	— と —		永 井 靖 人
田 中 善 大	PC68			中 川 和 亮 #
田名部 沙 織	PH63	湯 立	PD46, PG55	JC03
田 邊 雄 也	PH33	堂 坂 更夜香	PF30	中 川 華 林
谷 伊 織	PA07, PC54, PD65	登 藤 直 弥	準企チ, JF01	PF39, PF40
谷 芳 恵	PD66	東 平 彩 亜	PF24	中 川 正 宣 #
谷 口 あ や	PG16	當 山 明 華	PF20	永 作 稔
谷 向 みつえ	PB27, PC20, PD80	遠 矢 幸 子	PA47	長 澤 誠
谷 村 宏 子 #	PA75	遠 山 孝 司	PA76	中 島 奈保子
谷 本 薫 彦	PH18	時 岡 晴 美 #	JG05	PC78, PD14, PD15
		時 任 隼 平 #	JC02	中 島 久 樹 #
		徳 岡 大	PC22, PE26	中 島 淑 子
				中 島 梢 #
				JC03
				中 島 由 佳
				PC76
				中 田 明 香
				PA63
				中 田 英利子
				PH36
				中 田 順 平 #
				PA81
				永 田 雅 子
				PA07, PD65

永 谷 孝 代#	JH04	西 原 弘 明#	JE05	羽 浉 由 子	JA02
中 西 さ や か #	PF64, PF65	西 村 実 穂		濱 口 佳 和	
中 西 良 文	JA01		PD48, PE64, PG58		PA08, PC61, PE07, PH48
中 野 啓 太	PE36	西 元 直 美	PH10	濱 田 祥 子	
中 野 淳	PF75	西 山 慧 #	PF81		PC66, PF64, PF65
中 野 真 悟	PG75	西 山 久 子	JG01, JH03	浜 田 恵 #	JD05
中 野 美 香	PD26	二 宮 克 美		浜 名 真 以	PA06, PH04
中 間 玲 子	PF72, PH05		JE03, PG14, PG15	浜 迈 直 子 #	PB02
長 峯 聖 人	PD46, PF50			林 亜 希 恵	PE34
中 村 恵 子	PG42	— ね —		林 敬 子	PG70
中 村 晋 介 #	PG01			林 創	JH02
中 村 真 #	PD02	根ヶ山 光 一 #	JB03	林 幹 男	PD78, PD79
中 村 雅 子	PA54			林 美 都 子	PD82
中 村 実 央 #	PF57	— の —		林 雄 介 #	PB34
中 村 光 伴	PB24			林 幸 範	PB66, PB67
中 本 敬 子	PC22	野 口 直 樹	PH30	林 龍 平	
仲 谷 佳 恵 #	PG19	野 口 裕 之	JC01, JF01, PC79		PF43, PF44, PF45
中 谷 素 之	準企基, 準企シ2,	野 崎 優 樹	PE49	速 水 敏 彦	PA23
	JB04, JE01, PE34,	野 澤 義 隆	PD07	原 口 和 博 #	JD06
	PF19, PF47, PG20	野 田 理 世	PD53	原 田 恵 理 子	JF04, PB70
長 谷 守 紘		野 田 滿	PB01	原 田 克 己	PE68
	JE04, PH14, PH15	野 中 陽 一 朗	PD30, PF07	原 田 奏 江 #	PD01
中 山 晃	PB65	野 邑 健 二 #	PC63	原 田 敬 文	PF32
中 山 誠 一	PE22	野 村 朋	JH04, PB63	原 田 知 佳	
中 山 留 美 子	PG39, PG40	野 本 玲 子	PF25		JD02, PG48, PG50
名 越 斎 子	JC04	野 呂 文 行	PH62	原 田 雅 也 #	PD78
奈 須 正 裕	JB01			原 田 增 廣	PF32
奈 田 哲 也	PE24	— は —		原 田 宗 忠	PE55
名 取 洋 典	PC25			原 田 勇 希	PG36
濤 岡 優 #	PC60	バーンズ龜山静子	JC04	伴 浩 美	PA25, PE80
奈 良 里 紗	PE65	裴 英 淑 #	PG52	半 澤 礼 之	JA03
成 田 亜 希	PE38	芳 賀 明 子			— ひ —
難 波 久 美 子	PH11		PA67, PD42, PD43		
	— に —	萩 原 康 仁			
			PC22, PD07, PD81	東 優 子 #	研企シ3
新 山 真 奈 美	PD33	朴 聖 希	PG08	日 鴻 淳 子	PD16
西 幸 代 #	研企シ2	橋 村 晴 美	PE28	久 坂 哲 也	PD24
西 岡 陽 子	PE69	橋 本 巍	PA21	尾 藤 ヨシ子	PD69
西 垣 悅 代	PA29	橋 本 創 一	PH67	馳 薔 竹 #	PE51
西 垣 順 子	PB30	橋 本 貴 充	準企チ, PC81	兵 藤 宗 吉	PA41, PF34
西 片 裕	PE23	橋 本 憲 尚	PA22	玄 正 煥 #	PA49
西 川 ほ た か #	PG60	橋 本 博 文	PF11	平 井 啓 #	PE62
西 口 利 文	JA05	蓮 見 元 子	PA09, PB12	平 井 純 子	PB02
西 田 敬 志	PD60	長 谷 川 省 一 #	PF24	平 石 賢 二	準企シ4, PC04
西 田 有 希	PF74, PG47	長 谷 部 育 恵	PG32	平 岡 恭 一	PD39
西 館 有 沙		畠 山 寛	PH34	平 岡 大 樹 #	PF81
	JC05, PD48, PF22, PG58	畠 山 美 穂	PC14	平 川 久 美 子	
西 谷 寿	PC31	秦 野 悅 子	PB04		PC06, PC07, PC08, PC09, PC10
西 野 泰 代	JF04, PC69	服 部 環	PA80	平 川 昌 宏	PD05
西 原 明 法 #	PB31	馬 場 正 太 郎	PC18	平 澤 傑 #	PD24
		馬 場 久 志	JE05	平 嶋 宗 #	PB34

平田俊治#	JG05	藤田哲也	増田珠巳#	PB02
平田乃美	PB51	PF39, PF40, PG44, PG45	外田弘子	PB44, PB45
平野真理	PF77, PF78, PH54	藤田昌也#	増田優子	PH73
平林秀美	PG03	藤田和加子	益谷真	PA71
平山るみ	PC27	藤村あきほ	増南太志	PE76, PE77
広沢正孝#	PD60	藤村宣之	増本紗也香	PH28
廣澤満之	PC65	藤森裕紀	町岳	JB05, JD01, PG20
廣瀬真喜子	PF64, PF65	藤原健志	松井剛太#	PF64, PF65
樋渡孝徳	準企シ1, PD78, PD79	藤原忠雄	松尾剛	JB01
		藤原照浩	松尾紗希#	PA80
		布施光代	松尾千佳#	PF79
		JE02, PB72, PH25	松岡真由子	
		二村郁美	PG06	PC41, PF26, PF81
深沢和彦	PD64	古屋美樹#	松岡弥玲	PD56
深谷達史	JA04, JD01, PG19	分寺杏介#	松川奉央	PB20
深谷優子	PB25		松熊亮	PF09
福井義一	PB76, PF70		松下慶太#	PD31
福井龍太#	JA05	別府悦子	松嶋秀明	JH03
福嶋ゆい#	JC03	JH04	松島るみ	PB28, PB35
福住紀明	PD29, PE11	Bembenutty, Hefer# 準企基, JB04	松田侑子	PC66, PG61
福田彩#	PF51		松戸結佳#	JC04
福田佳織	PH13		松並知子	
福田麻莉	JA04, PA42, PA43, PF17	侯玥江#	研企シ3, PB53, PB54	
福田由紀	PA35	保坂裕子	松野真	PA52
福富隆志	PF29	星田由哉	松野実	PG57
福留広大	PG56	細谷一博	松原耕平	PG70
福永真理奈#	PH55	JC05, PF62, PH63	松村朋美#	PC29
福丸奈津子	PE30	堀田千絵	松本明日香	PF49
福元理英#	PC63	堀優太	松本聰子#	PB08
福屋いずみ	PF35	堀江奈央	松本淳子	PB50
藤桂	JF06	堀江有里#	松本麻友子	PC78
藤井厚紀	PG43	堀野良介#	松本みゆき	JE04, PB71
藤井志保#	PE31	本郷一夫	松本有貴	JG04, PB59
藤井真紀	PB79, PB80	PC06, PC07, PC08, PC09, PC10	松山康成	
		本塩彩衣#	JA05, PA58, PC67, PC68	
藤井靖	JD06	本多潤子	真名瀬陽平	PH62
藤井義久	PA74	本多智佳#	マナロ エマニエル	JH01, PG30
藤江康彦	PG68	本間優子	丸山真名美	PC23
藤枝静暁	PD49, PE76, PE77			
伏木田稚子	PF41		— ま —	— み —
藤澤啓子	JF05	前田浩伸#	三浦巧也	PH67
藤澤伸介	JB01, PD18	前原由喜夫	三浦睦美#	JD04
藤澤信義#	研企シ2	牧郁子	三浦優生#	PB65
藤田敦	PA39	正木澄江#	三國隆子	PE21
藤田文	PB09	増井晃	三島浩路	JA03, PH65
藤田依久子	PG52	PH57, PH58, PH59	三島知剛	JA03, PG18
藤田清澄#	JH05	益川弘如	水野君平	PC60, PE73
藤田正	PF43, PF44, PF45	益川優子	水野智美	
		増田公男	JC05, PD48, PF22, PG58	

水野治久	研企シ2, JF03	室橋弘人	JH02, PB08	山崎亜寿美	PG54
水野裕子	PG58, PG65	室谷雅美	PF32	山崎加奈	PA19
水野雅之	PG59	— も —		山地弘起	PA34
水本深喜	PG09, PG10			山下純子	PB56
溝川藍	PA06, PH04			山下徹#	PH24
三田村仰#	PG70	Moira, Mikolajczak#	PE49	山下倫実	PE53, PE54
路川達阿起#	PF33	茂木成友	PH60	山下陽平	PD78, PD79
道田泰司	PB37	本岡寛子	PG70	山田恭子	PG71
光田基郎	PA27	元吉忠寛	PD53	山田剛史	JH02
光永悠彦	PE78	森恵子	PF18	山田幸代	PD78, PD79
皆川順	PA25, PE80	森慶輔		やまだようこ#	JB03
皆川直凡	PA26	PH57, PH58, PH59		山田洋平	PA68
南学	PC02	森茂起	PE72	山田嘉徳	PD35
箕輪潤子	PD06	森俊博	PG51	山中一英	PG38
宮内健	PC36	森智史	PH47	山根嵩史	PE39, PG26
宮川治	PC32, PD83	森秀樹#	PB31	山根隆宏	
宮城徹#	PF51	森玲奈	PE36	JD05, PB59, PD58, PG16	
三宅幹子	PA77	森泉慎吾#	PG29	山村麻予	PA05, PE62
宮崎昭#	JG04	森際孝司	PG70	山村豊	PB79, PB80
宮崎清孝	PA28	森下文		山本晃	PE71
宮下敏恵	PH57, PH58, PH59	PC57, PC58, PC59		山本晃輔	PD40
宮田佳緒里	PA44, PA45	森嶋尚子	PD42, PD43	山本獎	PA62, PC72
宮田まり子#	PE75, PG46	森田英嗣	PC74	山本琢俟	PH29
宮野祥雄	PA11	森田美弥子	PC79	山本卓也	PG37
宮本友弘	PA40, PA82, PB32	森永秀典	JD03, PB16	山本ちか	JE03, PG14, PG15
宮本雄太#	PG46	森永康子	PG56	JD01, JF03, PA36, PE37	
三和秀平	PD46, PD77	守谷賢二	JB02	山本正顕	PH10
		守屋明佳	PE40	山森光陽	PC22
		守山紗弥加#	JA01	山脇望美	PH78
— む —		— や —		— ウ —	
向居暁	PD57	矢崎裕美子	PB19		
向井敦子	PD01	八島美菜子	PF64, PF65		
向井隆久	PC30	安永悟	JA01		
向出章子	PC57, PC58, PC59	矢田尚也#	PD36		
向笠章子	PD78, PD79	柳澤忠宏	PA64	湯浅哲也	PG80
武藏由佳	JD03	柳澤香那子	PF47	湯川進太郎#	PH44
武藤世良	PE48	矢野正	PC39	湯川隆子	研企シ3
村井潤一郎	JH02	山岡明奈	PH44	弓削洋子	PB52
村上隆#	JD05	山際勇一郎	PA46, PA49	湯澤正通	研企シ2, PE30
村上達也	PD12, PD13, PD29, PE11	山口悦司#	PF21	— よ —	
村上凡子	PB64	山口一大	PG19		
村上祐介	JF02	山口悟史#	PA79		
村瀬俊樹	PA48	山口剛	PF39, PF40	楊嘉寧	PF42
村瀬公胤	JC02	山口洋介	PD38	横嶋敬行	
村瀬由加里	PG27	山口禎恵#	JB02	JF02, PA78, PA79	
村山航	PD29, PE11	山崎勝之		横田靖子	PF76
村山恭朗	JD05	JF02, PA78, PA79		吉井英博#	PC39
		山崎晃		吉岡昌紀	PA50
			PF64, PF65, PG57	吉岡真梨子	PF48

吉岡亮衛	PB83	渡邊仁	PH66
吉川詩織	PH03	渡部真奈美	PE79
吉國秀人	PB26	渡邊元嗣#	JA02
吉崎聰子	PD39	渡辺弥生	
吉澤英里	PE33	準企シ1, JF04, PB70	
吉澤寛之	準企シ4, JD02, PF12, PG48, PG49, PG50, PG71, PH77		
吉田琢哉			
	JD02, PG48, PG49, PG50		
吉田哲也	PG60		
吉田俊和			
	JD02, PG48, PG49, PG50		
吉田甫	JD01, JG03, PE18		
吉田広毅#	PB65		
吉田満穂#	PH15		
吉中淳	PB29		
吉永真理	PF67		
吉野巖	PC24		
吉野優香	PE52		
吉橋由香	PA07, PD65		
吉原勝	PG64		
吉村啓子	PB11		
吉村齊	PB47		
吉村麻奈美	PC50		
吉村嘉文#	PG49		
吉森丹衣子	JB02		
淀川裕美	PD37		
米山祥平	PE42		
米山正文#	PD02		

— り —

李岩	PF34
李沐陽	JH01
Lyamzina, Yuliya#	準企シ3
龍祐吉	PB03

— わ —

若尾良徳#	PA46
若林紀乃	
	PC63, PF64, PF65
若林正晃	PG35
若松養亮	PA51
若本純子	JF04, PH55
脇坂文貴#	PB65
脇田貴文	PH35
和田美香	PG12
綿井雅康	JD06, PG67
渡邊賢二	PC04

日本教育心理学会第59回総会準備委員会

委 員 長 氏家達夫

委 員	五十嵐 祐	五十嵐哲也	石井秀宗	金井篤子	金子一史
	清河幸子	窪田由紀	河野莊子	永田雅子	中谷素之
	平石賢二	松本真理子	森田美弥子		

日本教育心理学会第59回総会プログラム

発 行 日	2017年9月7日
発 行 者	一般社団法人 日本教育心理学会
印 刷	よしみ工産株式会社

日本教育心理学会第59回総会

広告掲載・出展社ご芳名

アイ・ビー・エス・ジャパン	明石書店
学苑社	風間書房
学研教育アイ・シー・ティー	金子書房
北大路書房	クロス・マーケティング
サクセス・ベル	サン・エデュケーション
三京房	実務教育出版
新曜社	世界の医療団
テキスト	統計質保証協会統計検定センター
トビー・テクノロジー	トヨーフィジカル
トロル	ナカニシヤ出版
西村書店	日本能率協会総合研究所
日本文化科学社	ニホン・ミック
博報児童教育振興会	福村出版
放送大学教育振興会	北樹出版
丸善出版	ミネルヴァ書房
有斐閣	よしみ工産
楽天リサーチ	黎明書房

(五十音順 敬称略)

本総会を開催するにあたり、上記各社より多大なご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

2017年9月

一般社団法人 日本教育心理学会
理事長 小野瀬 雅人
第59回総会準備委員会
委員長 氏家 達夫